

特 記 仕 様 書

工事名称	須波分団屯所建設工事
工事場所	三原市須波一丁目
工事内容	消防屯所を新築する。 [工事概要] ・鉄骨造 2 階建て ・床面積 102.16㎡
準 則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書 (各 令和 4 年版 国土交通省官房官庁営繕部監修) に基づき施工する。
関係法令等	本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 ・建築基準法、同施行令、同施行規則 ・消防法、同施行令 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則 ・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則 ・建設業法、同施行令、同施行規則 ・建設工事公衆災害防止対策要綱 ・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法 ・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令 ・その他関係法令
疑義変更	本設計図書は、設計の概要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の指示により施工すること。ただし、これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。 本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。 設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工 期	本工事は請負契約締結の後、令和7年11月25日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和7年11月12日。）
留意事項	・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。 ・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。 ・図面に明示されていない事項であっても、工事上必要とされる事は工事範囲とする。 ・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工日とすること。 ・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。 ・本工事は「発注者指定型」による週休 2 日工事の対象工事であり、「三原市週休 2 日工事等実施要領」（令和 7 年 1 月 6 日制定）により工事を行うこと。 ・工事着手前までに「週休 2 日工事」または「週休 2 日交代制工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出する

こと。

- ・「週休2日工事」または「週休2日交代制工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
- ・週休2日を達成できなくなった場合は、その達成状況に応じて労務費の補正額を減額する。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議(現場事務所と市役所を想定)併用とする。現場でのWeb会議の環境設定(受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。)は、工事に含む。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出して出席者に内容を共有すること。
- ・現場事務所には、HDMI規格により出力できるモニター(50インチ以上)を設置すること。
- ・現場事務所内は、無線通信(会議にて同時接続10台以上)が可能な環境とすること。
- ・工事着手の10日より前に住民説明会を開催し、工事の概要を説明すること。日時や場所等については発注者との協議により決定する。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・騒音計・振動計・デジタル粉塵計・表示盤等を設置し、常時監視をしながら作業を行うこと。
- ・騒音計・振動計の表示盤は、近隣に対して1カ所以上を掲示すること。
- ・騒音測定については、騒音規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。
- ・振動測定については、振動規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、原状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲いを設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更(減額)の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・特殊車両の搬出入の有無については、工事着手前に発注者と確認すること。
- ・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文のポスティング等を行うこと。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・場内に喫煙所を設ける場合は、施設使用者と近隣住民へ配慮し、設置位置と使用方法を協議してから設けること。使用方法を作業員に周知徹底すること。
- ・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録

を作成すること。

- ・記念碑等の移設が必要な場合は、事前に関係者と移設場所・方法・時期等を協議の上で実施すること。
- ・監視カメラ・仮設照明・養生用鉄板を適切に設置すること。
- ・敷地の出入口付近には、敷鉄板（下部に砕石敷）を敷き、高圧洗浄機・水中ポンプ・ノッチタンク等を適切に設置すること。工事車両のタイヤ洗浄等により、道路を汚さないように配慮すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
- ・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
- ・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。
- ・コンクリートの調査は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。（原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。）
- ・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
- ・地盤改良工事や杭工事で、セメント系の材料を使用する場合は六価クロム溶出試験を行い、溶出量が土壤環境基準を満足するものを選定すること。六価クロム溶出試験費を見込む。材料は粉体の発塵抑制の配慮と六価クロムの溶出低減がなされたものを見込む。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材（可能な範囲で三原市産材）とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。（改修工事については、本工事の範囲）
- ・鍵のプランについては、協議の上で同一キーとする箇所を確認すること。
- ・家電リサイクル法又はフロン排出抑制法に係る機器等の処分については、当該法律に基づき適正に行うこと。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・品質について、社内検査員（当該工事に従事していない者）を定め、設計図書に基づき社内検査を実施し、書類等の記録に残すこと。
- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうち、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。（理由については、三原市内三原市内に主たる営業所を有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。）

- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況（写真、進捗率等を月2回程度）を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
- ・書面での提出が必要なもの（建退共の掛金収納書、試験結果、保証書 等）については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
- ・工事書類については、工期から10日以内に工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-Rにて提出すること。
- ・工期から10日以内に、製本図面（A3縮小版・二つ折り）として完成図を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。（縮小率約70.7%）

須波分団屯所建設工事

図面番号	図 面 名 称	縮 尺	図面番号	図 面 名 称	縮 尺	図面番号	図 面 名 称	縮 尺
A-00	タイトル、図面リスト		A-25	タラップ 詳細図	1/20	E-01	電気設備工事 特記仕様書	
A-01	建築工事特記仕様書（１）		A-26	（車庫）中量棚、ホース棚 配置図、姿図	1/60 1/40	E-02	凡例、照明器具姿図	
A-02	建築工事特記仕様書（２）		A-27	（外構）配置図	1/250	E-03	幹線設備 系統図、電灯分電盤	
A-03	建築工事特記仕様書（３）		A-28	（外構）① ホース乾燥柱 取付詳細図 便槽設置、防火水槽標識基礎 詳細図	1/50 1/30 1/10	E-04	電気設備 配置図	1/150
A-04	建築工事特記仕様書（４）		A-29	（外構）② カーポート 詳細図	1/100 1/10	E-05	電気設備 平面図	1/100
A-05	建築工事特記仕様書（５）		A-30	（外構）外構図（１）	1/20			
A-06	建築工事特記仕様書（６）		A-31	（外構）⑧ 揭示板 詳細図	1/20 1/3			
A-07	建築工事特記仕様書（７）		A-32	（道路改築）配置図	1/250			
A-08	付近見取図、建物概要		A-33	（道路改築）道路側溝、集水桝 詳細図	1/30			
A-09	外部・内部仕上表		A-34	仮設計画図（参考図）	1/250	M-01	特記仕様書 1	
A-10	配置図、断面図	1/250				M-02	特記仕様書 2	
A-11	丈量図、敷地面積求積表、道路改築・専用部分求積表	1/250	S-01	構造概要		M-03	配置図	1/250
A-12	平面図、屋根伏図	1/100	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）		M-04	器具表・凡例・桝リスト勾配図	
A-13	立面図	1/100	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）		M-05	給排水設備 1 階平面詳細図	1/50
A-14	天井伏図	1/100	S-04	鉄骨構造標準図		M-06	給排水設備 2 階平面詳細図	1/50
A-15	矩計図（１）	1/30	S-05	QLデッキ合成スラブ設計・施工標準		M-07	空調・換気設備 機器表	
A-16	矩計図（２）	1/30	S-06	地盤調査位置図・柱状図	1/150	M-08	空調・換気設備 1 階平面詳細図	1/50
A-17	押出成形セメント板 参考詳細図	1/10	S-07	基礎伏図・1 階床伏図	1/100	M-09	空調・換気設備 2 階平面詳細図	1/50
A-18	外部階段 詳細図	1/30	S-08	基礎大梁リスト・基礎リスト	1/100			
A-19	1 階平面詳細図	1/50	S-09	伏図	1/100			
A-20	2 階平面詳細図	1/50	S-10	軸組図（１）	1/100			
A-21	展開図（１）	1/50	S-11	軸組図（２）・部材リスト	1/100 1/50			
A-22	展開図（２）	1/50	S-12	鉄骨詳細図	1/50			
A-23	展開図（３）	1/50						
A-24	建具配置図、建具表	1/200 1/50						

特記事項		訂正事項		一級建築士事務所 広島県知事登録22（1）0497号 岡 田 建 築 設 計 事 務 所 一級建築士 第102449号 岡田文夫			JOB NO.		DATE		SCALE	TITLE		NO. A00		図面縮小率	
							2025. 01		須波分団屯所建設工事			A-3：100%					
							DR.		タイトル、図面リスト			A-4：71%					

[illegible]

7	鋼製建具	性能値等（建具符号： ・ 建具表による ） 簡易気密型ドアセット 気密性の等級 ・ A-3 水密性の等級 ・ W-1 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ） 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ） 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 くつずりの仕上げ ステンレス鋼板を用いる場合 ※ H以上 形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※ 標準仕様書表16.4.2による 標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による	＜外力に対する性能＞ 1) デッドボルトの押込み強度試験（10KN）を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの 出寸法は8mm以上であること。 2) デッドボルトの側圧強度試験（10KN）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない 3) デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8J）の衝撃荷重を加えたとき、解放状態 （デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。 4) デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験（58.5J）の衝撃荷重を加えたとき、解放状態（加圧 板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。 5)（シリンドラ本締り錠はグレード3以上の形込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以 上のステンレス鋼製とし、トヨロケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はスト ライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。 ＜使用荷重の質量に対する性能（シリンドラ箱錠のみ）＞ 1) ラッチボルトの側圧強度試験（4KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチ ングに支障がない。 2) レバーハンドルのねじり強度試験（3.5KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハ ンドルが正常に作動していること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維 持され、かつ、施設操作に支障がない。 3) 握り玉のねじり強度試験（3KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常 に作動していること。また、施設時握り玉が固定される錠は、施設状態が維持され、かつ、 施設操作に支障がない。 4) ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動して いること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維持され、かつ、施設操 作に支障がない。 5) ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動し ていること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維持され、かつ、施設操 作に支障がない。 ＜鍵＞ 1) かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキー セクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。 2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同 一側みは、最大2連続までとしていること。 試験方法は、JIS A 1541-1（建築物一般－第1部：試験方法）による。 【レバーハンドル】 （性能） ＜ねじり強度＞ レバーハンドルのねじり強度試験（3.5KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハン ドルが正常に作動していること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維持さ れ、かつ、施設操作に支障がないこと。 ＜引張り強度＞ ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動してい ること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維持され、かつ、施設操作に 支障がないこと。 ＜垂直荷重強度＞ ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動し ていること。また、施設時ハンドルが固定される錠は、施設状態が維持され、かつ、施設操作 に支障がないこと。 試験方法は、JIS A 1541-1（建築物一般－第1部：試験方法）による。 クローザー類 （品質・性能）	12 鍵	マスターキー ※ 製作する（ 3 組） ・ 製作しない ・ 既存に組み込む 鍵の製作本数 ※ 各室 3本1組（室名付付き） 鍵類 ○ 設ける（ 3 個用 1 組） ・ 設けない （表16.9.1）（表16.9.2）（16.9.2、3）	13 自動ドア開閉装置	引き戸用駆動装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.1による 種類 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ 車椅子使用者用便所入り口引き戸用駆動装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.2による 引き戸用検出装置 性能 ※ 標準仕様書表16.9.3による 種類 ・ 光線（反射）センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便所スイッチの種類 ・ 大形（開・閉）押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ	14 自閉式上吊り引戸装置	性能等 ※ 標準仕様書表16.10.1Iによる （試験方法） （1）耐久性（開閉繰り返し）試験 閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から開 端位置までの作動を確認できる試験を行う。開試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法 有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、 制御装置は10万回以上の時点で1回の目調整を行えるものとし、また、その他の制御装置に ついてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性を確認することで、 試験に代えることができるものとする。 （2）耐衝撃性試験 落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。 耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 （3）気密性試験 JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。	15 重量シャッター	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 外壁開口部に設置する重量シャッターの耐風圧強度（ ）Pa 開閉方式の種類 ※ 電動式（手動併用） ・ 手動式 安全装置 急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所 ※ 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示 第2563号）に定める基準に適合するもの 管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用銅板 銅板の種類 ※ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び銅板） ・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅板） めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチ ボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1	16 軽量シャッター	開閉方式の種類 ※ 手動式 ・ 電動式（手動併用） 耐風圧強度（ ）N/m ² 安全装置 障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示 スラットの材質の種類 ※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅板） めっきの付着量（※ Z06 又はF06を満足するもの） ・ JIS G 3312（塗装溶融 5.5%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び銅板） めっきの付着量（※ AZ90を満足するもの） スラットの種類 ※ インターロックング形 ・ オーバerring形 シャッターケース ※ 設ける ・ 設けない ガイドレール（中柱具）の材質 ※ ステンレス鋼板（SUS304） 厚さ1.0mm 座板の材質（屋外の場合） ※ ステンレス製既製品	17 オーバーヘッドドア	セクション材料 風圧力による 開閉方式 収納方式 ガイドレール による区分 強さの区分 による区分 による区分 の材料 ※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所 ※ 図示	18 ガラス	下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等 ※ 建具表による 合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性によ る種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスの種類、組合せ 落球衝撃は衝撃特性並びにショット バック衝撃特性による種類 ・ フロート板、フロート板合わせガラス ・ 1類 ・ Ⅱ-1類 ・ Ⅱ-2類 ・ Ⅲ類 強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類による名称 材料板ガラス 破片の状態及びにショット バック衝撃特性による種類 ・ フロート強化ガラス ・ フロート板ガラス ・ 1類 ・ Ⅱ類 熱線吸収ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類 性能による種類 色 調 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 熱線吸収入り磨き板ガラス ・ 1種 ・ 2 種 ・ グリーン 複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※ 下記以外は建具表による 断熱性による区分 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6 乾燥気体の種類 ・ 空気 ・ アルゴン 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・ G ・ S 熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 下記以外は建具表による 材料板ガラスによる種類 日射断熱性による区分 耐久性による区分 ・ 1 種 A類 ・ 2 種 ・ A類 ・ B類 ・ 3 種 B類 反射皮膜面 ・ 内面 ・ 外面 ガラスの留め材及び溝の大きさ（16.14.2）（9.7） 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ（mm） アルミニウム製 ※ シーリング材 ※ 建具の製造所の仕様による ・ ガスケット ・ グレージングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ※ シーリング材 ※ 建具の製造所の仕様による ステンレス製 ※ シーリング材 ※ 建具の製造所の仕様による 樹脂製 ※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレージングチャンネル形 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ガラスブロック積み（16.14.5） 表面 呼び寸法 厚さ 色調 目地幅（mm） 伸縮調整目地 防火 形状（mm） クリア 乳白 位置（mm） 性能 ・ 正方形 ・ 125×125 80 ※8～15 外側 ※6mm以下 ※無し ・ 160×160 ・ 95 ・ 15～25 ※標準仕 ごとに幅10～25 ・ 有り ・ 200×200 ・ 95 様書16.14、 5(2)(イ)(a) ② ・ 320×320 95 ② ・ 長方形 ・ 250×125 80 内側 ※標準仕 様書16.14、 5(2)(イ)(a) ② ・ 320×160 95 壁用金属枠及び補強材の材質・形状 ※ 図示 力骨 材質 ※ ステンレス鋼（SUS304） 寸法 ※ 径5.5mm 形状 ※ はしご形状複筋及び単筋 化粧目地ホルタルの色（ ） シーリングの種類（ ） 金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ※ 図示 形状 ※ 図示 木下地の場合のアンカー等の取付け間隔 ・ 図示による 工法 1章 適用区分による風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法 目地部の横力骨の納まり ※ ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示 ガラス用フィルム 種 類 記号 その他性能等 内張り用 外張り用 ・ 日射調整フィルム ・ SC-1 ・ SC-2 日射遮へい性能による区分 ・ A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ 低放射フィルム LE 熱遮断率による区分 ・ A ・ B ・ C ・ D ・ 衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム ・ GI-1 ・ GI-2 ・ 相関変位破壊対応ガラス 飛散防止フィルム ・ GD-1 ・ GD-2 ・ ガラス貫通防止フィルム SF ガラスの貫通防止性能による区分 ・ A ・ B 品質 JIS A 5759による
特記事項		訂正事項		一級建築士事務所 広島県知事登録22（1）0497号		JOB NO											

17

カーテンウォール工事

1

取付方法、性能等

(17. 1. 3)

取付方法 ・ 扉間方式 ・ 柱、梁方式 ・ 方立方式 ・ スパンドレル方式

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
				・ 30分 ・ 1時間	・ 80 ・ 70 ・ 60

耐風圧性

1号 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 値の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く)

支点間距離 (h)

耐風圧性能

4m以下

・ たわみ量が± (1/150) × hかつ絶対量20mm以下であること

4mを超える

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

性能の確認及び判定方法

・ 性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料により、監督職員の承諾を受ける

シーリング材

(17. 2. 2、3、5、6)

下表以外は標準仕様書表 9.7.1 による

被着体の組合せ

シーリング材の種類

記 号

主成分による区分

金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガasket

・ 適用する (施工箇所 ・ 図示 ・)

材質 ・ クロロブレン系 ・ EPDM系 ・ シリコーン系

形状 ・ H型 ・ Y型 ・ C型

寸法 (mm) ガラス板厚 ()、支持脚の厚さ ()、ウェブの寸法 ()

・ 適用しない

断熱材

種類 ()

厚さ (mm) ()

施工箇所 ・ 図示 ・

製品の見え掛り部分の仕上げ

・ JIS H 8601 (陽極酸化皮膜)

・ JIS H 8602 (陽極酸化皮膜複合被膜)

・ 塗膜 (・ アクリル系 ・ ウレタン系 ・ ふっ素系)

ガラス溝の寸法、形状等

※ カーテンウォールの製造所の仕様

耐火材料

施工部位	種別	規格帯
・ ファスナー部		
・ 取付けブラケット		
・ パネル目地部		
・ 扉間ふさぎ		
・		

カーテンウォールの材料

金属系材料の種類	規格等	表面処理	映像調整
※ アルミニウム材	※ 標準仕様書 16.2.3にによる	種別 () 種 色合等 ・ 標準色 () ・ 特注色 ()	・ 行わない ・ 行う

製品及び取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.2.1～3による

ガラス溝の寸法、形状等 ※ カーテンウォールの製造所の仕様による ・

3

PCカーテンウォール

(17. 3. 2～6) (表17. 3. 1、2)

カーテンウォールの材料

コンクリート ※ 標準仕様書17.3.2(1) (ア)～(イ)による

鉄筋 ※ SD295A (・ D13 ・ D10)

補強鉄線の径 (mm) ※ 3.2 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0

配筋 ※ 図示

先付けの材料 ・ 建具枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール

表面仕上材 ・ タイル

・ 石材 (・ 花こう岩 ・ 大理石 ・)

・

ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)

・ 深さ (h) =1～+2、溝幅及び底幅 (W1及びW2) ±±1

製品及び取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.1～2による ・

18

塗装工事

1

材料

(18. 1. 3)

※ F☆☆☆☆ ・

防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。

・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所：)

2

素地ごしらえ

(18. 2. 2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種 ・ B種
	透明塗料塗りの場合	※ B種 ・ A種
鉄鋼面		※ C種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種
モルタル面及びせつこうブラスター面		※ B種 ・ A種
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		※ B種 ・ A種
押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP)		・ A種 ・ B種
せつこうボード面及び	目地：継目処理工法	※ A種 ・ B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※ B種 ・ A種

(18. 3. 2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種類
鉄鋼面	見え掛り部分	※ A種 ・ B種	SOPの場合 ※ A種
	見え隠れ部分	※ B種 ・ A種	DPの場合 ※ B種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	※ A種 ・ B種	EP-Gの場合 ※ B種・ A種
	鋼製建具等以外	※ B種 ・ A種	SOPの場合 ※ A種・ B種
			DPの場合 ※ B種
			EP-Gの場合 ※ C種

3

錆止め塗料塗り

(18. 3. 2、3)

4

塗料

(18. 4. 1～18. 12. 2)

塗装	種別	塗料の種類	高日射反射率塗料
・ 合成樹脂鋼合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※ A種 ・ B種	※ 1種 ・ 2種
	木部屋内	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種
	鉄鋼面	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種 ・ 適用
亜鉛めっき鋼面		※ 1種 ・ 2種	・ 適用
・ クリヤラッカー塗り (CL)		※ B種 ・ A種	・ 透明 ・ 不透明
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※ B種 ・ A種	
○耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面		上塗り等級 () 級 ・ 適用
	亜鉛めっき鋼面		上塗り等級 () 級
	コンクリート面及び	・ A種	上塗り等級1級
○つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	・ B種		上塗り等級2級
	押出成形セメント板面	・ C種	上塗り等級3級
	・ C種		上塗り等級3級
・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)	コンクリート面、モルタル面、せつこうブラスター面、せつこうボード面その他	※ B種 ・ A種	
・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)	・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)	※ B種 ・ A種	
・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	※ B種 ・ A種	・ 透明 ・ 不透明
・ スティン塗り	・ ビグメント		
	・ スティン塗り		
	・ オイルスティン塗り (OS)		
・ 木材保護塗料塗り (WP)	※ B種 ・ A種	・ 透明 ・ 不透明	

高日射反射率塗料 を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする

クリアラッカー塗りA種の工程2の着色

・ 適用しない ・ 適用する (着色剤： ・ 溶剤形着色剤 ・ 油性染色着色剤)

ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色

・ 適用しない ・ 適用する (着色剤： ・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤形顔料着色剤)

オイルスティン塗りの工程等 ・

19

内装工事

1

接着剤

(19. 2. 2)

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆ ・

接着剤は可塑剤 (難揮発性の可塑剤を除く) が添加されていないものとする

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類

・ 図示 ・

2

下地の工法

(19. 2. 3)

標準仕様書19.2.3(1) (ア)～(イ)以外の下地の工法

・ 図示による

3

ビニル床シート

(19. 2. 2、3)

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
※ FS	・ 無地	※ 2.0	
	・ マーブル柄		
	・ 柄物		

※ 目地処理 (工法 ※ 熱溶接工法 ・) ・ 突付け (施工箇所：)

4

ビニル床タイル

(19. 2. 2)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ (mm)	備考
※ KT	・ 無地	※ 300×300	※ 2.0	
	・ TT ・ FT	・ 450×450	・ 2.5	
	・ FOA ・ FOB	・ 500×500	・ 3.0	

5

特殊機能床材

(19. 2. 2)

シート種別	厚さ、形状、寸法	種類
・ 帯電防止床シート	(mm)	
・ 帯電防止床タイル	— (mm)	
・ 視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による
・ 耐動荷重性床シート	(mm)	
・ 防滑性床シート	(mm)	
・ 防滑性床タイル	— (mm)	

6

ビニル幅木

(19. 2. 2)

材質の種類 ※ 軟質 ・ 硬質

高さ (mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100

厚さ (mm) ※ 1.5以上 ・

7

ゴム床タイル

(19. 2. 2)

種類 ・ 単層品 ・ 複層品

色柄 ()

厚さ (mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0

寸法 (mm) ()

8

カーベット敷き

(19. 3. 2、3) (表19. 3. 1)

・ 織じゅうたん

織り方	バイルの形状	帯電性	備考
・ ウィルトンカーベット	・ カットバイル	・ 適用する	
・ ダブルフェースカーベット	・ ループバイル	・ 適用しない	
・ アキスミンターカーベット	・ カット、ループ併用		

色柄

※模様のない無地

バイル系の種類等

※標準仕様書表19.3.1による種別 (・ A種 ・ B種 ・ C種)

織じゅうたんの接合方法

※ ヒートボンド工法 ・ つづり縫い

・ タフテッドカーベット

バイルの形状	バイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考
・ カットバイル	・ 5～7 ・	※ 全面接着工法	・ 適用する	
・ ループバイル	・ 4～6 ・	・ グリッター工法	・ 適用しない	
・ カット、ループ併用				

タフテッドカーベット用接着剤のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

9

合成樹脂床床

10

フローリング張り

11

畳敷き

・ タイルカーベット

バイルの形状	種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備 考
※ ループバイル	※ 第一種		※ 500×500	※ 6.5	
	・ 第二種				
・ カットバイル	・ 第一種		※ 500×500	※ 6.5	
	・ 第二種				
・ カット、ループ併用	・ 第一種		※ 500×500	※ 6.5	
	・ 第二種				

タイルカーベット用接着剤のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

タイルカーベットの敷き方 平 場 ※ 市松敷き ・ 模様流し ・

階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き ・

下敷き材 ※ 反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・

見切り、押え金物の材質、種類及び形状 ※ 図示 ・

(19. 4. 2、3) (表19. 4. 4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材	合成樹脂系塗床		※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
			・ つや消し仕上げ
○厚膜型塗床材	エポキシ樹脂系塗床	・ 薄膜流しのべ工法	・ 平滑仕上げ
		○厚膜流しのべ工法	○防滑仕上げ
		・ 樹脂モルタル工法	
・ 薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ (mm)	間伐材等の適用
・ フローリング	・ 釘留め工法 (根太張り)	・ なら ・	15	
	・ 釘留め工法 (直張り)	・ なら ・	・ 12	
・ フローリング	・ 接着工法	・ なら ・	・ 8	
	・ 接着工法	・ なら ・	15	

フローリングボードの大きさ ※ 標準仕様書表19.5.1、3、5による

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ (mm)	間伐材等の適用		
・ 天然木化粧複合フローリング	・ 釘留め工法 (根太張り)	・ なら ・	・ A種	・ 15			
			・ B種	・ 12			
	・ 釘留め工法 (直張り)	・ なら ・	※ C種	・ 12			
			・ A種	・ 12			
・ 接着工法			・ B種	・ 12			
			※ C種	・ 12			

フローリングの大きさ ※ 標準仕様書表19.5.2、4、6による

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※標準仕様書19.5.2(2)による ・

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆

接着工法の場合の裏面被覆材 ※ 合成樹脂発泡シート

(19. 6. 2) (表19. 6. 1)

種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※D種 (畳床： ・ KT-I ・ KT-II ※KT-III ・ KT-K ・ KT-N)

下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組

・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン)

・

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びブスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

・ 衝撃緩和型畳 畳表 ・ C1 ・ C2

12

せつこうボードその他のボード及び合板張り

(19. 7. 2、3) (表19. 7. 1)

MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆ ・

合板のホルムアルデヒド放散量

※標準仕様書19.7.2(2) (イ)の(a)～(d)のいずれか

種 類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等
・ 硬質木モセメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 中質木モセメント板	MW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通木モセメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30 ・
・ けい種カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石棉) ・ 6 ・ 8
○化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石棉) ・ 6 ・ 8
		表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系接着
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ (・ 9(不燃) ・ 12(不燃) ・) ・ 凹凸タイプ (・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・)
・ ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・ 25 ・
・ グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・ 25(ガラスクロス包) ・
○せつこうボード	GB-R	※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・ 不燃積層せつこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)
・ シーシングせつこうボード	GB-S	12.5 (※不燃 ・ 準不燃)
・ 強化せつこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・ せつこうラスボード	GB-L	9.5
○化粧せつこうボード (スクエアトーン)	GB-D	9.5 (準不燃)

・ 普通合板

表板の樹種名

生地、透明塗料塗り (※ ラウン程度 ・)

不透明塗料塗り (※ しな程度 ・)

板面の品質 ()

厚さ (mm) ()

接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)

防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)

・ 天然木化粧合板

樹種名 ()

接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)

厚さ (mm) ()

化粧加工の方法 (・ オーバーレイ・プリント・塗装)

防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)

・ 特殊加工化粧合板

表面性能 () タイプ

接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)

厚さ (mm) ()

防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)

・ メラミン樹脂化粧板

JIS K 6903 による厚さ (※ 1.2 ・)

・ ポリエステル樹脂化粧板

・ ミディアムデンシティファイバーボード

MDF

・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・

・ 単板張り

・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS

・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

・ 化粧パーティクルボード

・ 単板オーバーレイ DV

・ プラスチックオーバーレイ DO

・ 塗装 DC

・ 10 (難燃) ・ 12 (難燃) ・

・ ハードボード (素地)

HB

・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンバード RN)

・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンバード RS)

・ ハードボード (化粧)

・ 内装用DI ・ 外装用DE

・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・

・ インシュレーションボード

IB

A級 (・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・)

・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

天井のボード類 (ロックウール吸音板を除く) の重ね張りを行う場合

※ 図示による

合板の張付け ・ A種 ・ B種

せつこうボードの目地工法 ※ 仕上表による ・

13

壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (19. 8. 2、3)

施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考
	紙 織 織 塩化ビニル	無機質 その他	
待機室、トイレ			・ 不燃 ○ 準不燃
			・ 不燃 ・ 準不燃
			・ 不燃 ・ 準不燃

モルタル及びせつこうブラスター面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・ A種

コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・ A種

せつこうボード面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・ A種

(19. 9. 2、3)

フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆ ・

・ 断熱材打込み工法

種類	厚さ (mm)	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 25	
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキム層なし)	※ 2種 b A	※ 25
	※ 3種 b A	※ 25
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 25	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 25	

施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による

・ 断熱材現場発泡工法

断熱材の種類 ※ A種 1 ・ A種 1 H

吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・

施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床床下等、部分的に後張りとしなければならない箇所

・ 図示

特記事項

訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号

岡田 建築設計事務所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB NO.

DATE

2025. 01.

SCALE

TITLE

須波分団屯所建設工事

NO.

A

05

図面縮小率

A-3 : 100%

A-4 : 71%

NAME

建築工事特記仕様書 (5)

20	1	フリーアクセスフロア	現場発泡断熱材 (品質・性能)	項目	品質・性能		
			難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コンチロリー試験)に適合していること。			
			発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な表面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/m ² を超えないこと。			
			(試験方法)				
			(1) 原液試験(原液粘度試験) JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」に規定する6.1)による。				
			(2) 発泡品試験 1) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。 2) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2)による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3)による。 3) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4)による。 4) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5)による。 5) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6)による。 6) 接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7)による。 7) 透過率試験は、JIS A 9526の6.2.8)による。				
			(3) 難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。 1) 難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 2) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。				
			(2.0.2.2)				
			構造		・置数式	・支柱調整式	
			所定荷重		※ 3,000N	・ 5,000N	※ 3,000N
耐震性能		・ 1.0G	・ 0.6G	・ 1.0G	・ 0.6G		
パネル寸法 (mm)							
高さ (mm)							
表面仕上材		※ タイルカーベット	※ タイルカーベット	・帯電防止床タイル	・帯電防止床タイル		
施工箇所		※ 図示	※ 図示				
寸法精度		※ 標準仕様書20.2.2(2)(a)～(c)による					
スロープ及びボーダー		※ 製造所の仕様による ・図示					
配線用取り出しパネル		フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 製造所の仕様による ・20～30パーセント					
配線取り出し開口		※ 製造所の仕様による ・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上					
空調用吹き出し(吸い込み)パネル		・なし ・あり(形式、施工箇所: ※ 図示 ・)					
(性能)		(1) 耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下 (2) 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと (3) ローリングロード性能 所定荷重1,000N (5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意) による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下 (4) 耐震性能					
イ) 固定台試験による耐震性能		項目	性能				
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき		水平荷重の1/2が下記<適用地震時水平力>以上					
②上記①以外の部分が耐力に達したとき		水平荷重の1/1.5が下記<適用地震時水平力>以上					
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位		構造床面からの高さの1/50以下					
<適用地震時水平力>		3,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+3,000N)/m2当りの支柱本数]×0.6 3,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+3,000N)/m2当りの支柱本数]×1.0 5,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+5,000N)/m2当りの支柱本数]×0.6 5,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+5,000N)/m2当りの支柱本数]×1.0					
ロ) 振動台試験による耐震性能(設計床高さ≦300mmの場合のみ)		振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。					
(5) 耐燃焼性能		建築基準法第2条第9号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒					
(6) 帯電防止性能評価値 (U)		0.6以上					
(7) 感電防止性能		漏えい抵抗(R) ≧1×10 ⁶ Ω					
(8) 歩行感		通常の歩行において空調音やたつきがなく、歩行感に違和感がない					
(9) メンテナンス性		交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。					
(試験方法)		(1) 耐震性能 1) 設計床高さ≦300mmの場合 試験体ユニット1000mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N:200kg 5000N:350kg 加振 0.6:所定加速度600cm/s ² 1.0:所定加速度1000cm/s ² 2) 300mm<設計床高さ≦600mmの場合 ①固定台による耐震性能試験 イ、支柱調整式・支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－1又は、試験方法－2による。 ロ、原則として、試験方法－1はパネル単体設置(Aタイプ)に適用し、試験方法－2はパネル連続設置(Bタイプ)に適用するものとする。					
2級試験方法－1 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した支柱の頂部に對し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。 ③試験方法－2 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した数ユニットの支柱の頂部に對し、水平方向に数ユニット分相違の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900N (3,000N/1m2 相当) を1箇所掛け、試験体数は、1セットとする。 ④零点校正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。 3) 共通事項 試験に使用する表面仕上材 種類: タイルカーベット 繊維素材: ナイロン100 % パネル携帯: ループパイル バックings素材: 塩化ビニル樹脂 全厚: 6.0mm～7.0mm 単位質量: 4.0kg/m ² ～6.0kg/m ² 人体新電圧: 2KV以下							
(2.0.2.3)		構造形式による種類	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB, 500Hz)	防火性能
※スタッド式(内蔵)・スタッド式(露出)・スタッドパネル式・パネル式				※鋼板	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装・壁紙張り	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃
パネル内に取付ける建具・あり(※ 図示 ・)・なし ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落しとは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネル材料のホルムアルデヒド放数量 ※JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上		(2.0.2.4)					
走行方向		操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB, 500Hz)	
・平行方向移動式 ・二方向移動式		※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フッシュ式 ・ハンドル式		※鋼板 ・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装・壁紙張り	・36未満 ・36以上	
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け金重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・図示 パネルをランナーに取り付けける部品 ※ ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの		ハンガーレール及びランナー ※ パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に對し、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。 ・図示 (品質・性能及び試験方法) (1) パネル(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材)及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。 (2) 吊りボルト JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第一部: ボルト、ネジ及び締込みボルト」による。 (3) パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」の5.a)～e)による。 (4) ホルムアルデヒド等 JIS等の材料規定において放数量が規定されているものについては、F☆☆☆☆とする。 (5) パネルの操作性 パネル操作の初期力は98N以下とする。 (6) 耐衝撃性 質量50kgによる衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 (7) 遮音性能 JIS A 6512に規定する透過損失単位に基づく区分ごとに、500Hzの音についての透過損失の既定値に適合すること。遮音性能試験は、JIS A 1416「実験室における建築物材の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響・音響インテンシティ法による建築物及び建築物材の空気音遮断性能の測定方法-第1部: 実験室における測定」による。 (8) パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 (9) レールの耐久性 レールは普通パネルで、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常がないものとする。 (10) 吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (11) 吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。 (12) ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。					
(2.0.2.5)		表面材の材料	脚部	ドアエッジ			
※メラミン樹脂系化粧板・ポリエステル樹脂系化粧板		※ 幅木タイプ	※ 製造所の仕様による				
(品質・性能)		(1) パネル					
項目		品質・性能					
表面材		メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。					
裏打ち材		JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。					
心材		JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。					
枠材		JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき					
エッジ材		処理を施した材料とする。					
小口		防水処理を施す。					
(2)		構造金物					
項目		品質・性能					
脚部		JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。					
(3)		付属金物					
項目		品質・性能					
ヒンジ		耐蝕性のあるものとする。					
ラッチセット		腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。					
戸当り		戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。					
(4)		外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。					
(5)		パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性					
項目		品質・性能					
		耐薬品性及び耐汚染性	耐引ひかき性				
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材		JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—				
低圧メラミン樹脂系化粧板		ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧バーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。					
ポリエステル樹脂系加工化粧板		JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないうこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないうこと。				
ポリエステル樹脂系化粧MDF		JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。					
ポリエステル樹脂系化粧バーティクルボード		JIS A 5908「バーティクルボード」の表11の規定に適合していること。					
(試験方法)		(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築物用ドア金物の試験方法－第2部: ドア用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放数量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上					
(2.0.2.6)		材料の種類及び仕上げ	・SUS304 (表面処理 ※HL程度 ・) ・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書14.2.2による種別(・ 種)) ・アルミニウム 表面処理 標準仕様書 表14.2.1による種別 (・) 種 色合等 ・標準色 (・) ・特注色 (・)				
手すりの握り部分		材種	幅 (mm)	直径 (mm)	取付箇所	備考	
・集成材 (材種:)		・クリアラッカー	・35程度 ・45程度				
・ビニル製		・クリアラッカー	・35程度 ・45程度				
(2.0.2.7)		種類	幅 (mm)	取付け方法	端部フラットエンド		
※ ステンレス製 (SUS304) ビニルタイヤ入り		※ 約35	※ 接合工法 ・ 埋込み工法	※ あり ・ なし	※ ビニル製 ・ ステンレス製		
(2.0.2.9)		種類	寸法 (mm)	色彩	形式		
・鋼製黒板		※ 焼付け	※ 緑 ・ 黒	・平面 ・曲面	・スクリーン付き引分け		
・ほうろう黒板							
・ホワイトボード		ほうろう			※ スクリーン付き引分け		
取付箇所		・ 図示 ・	(2.0.2.10)				
寸法 (mm)		・ 図示 ・					
厚さ (mm)		※ 5 ・					
衝突防止表示		(2.0.2.11)					
・ 設置する形状・寸法 (・ 30φ ・)							
材質 (・ ステンレス製)							
・ 設置しない							
案内用記号はJIS Z 8210による。誘導標識、非常用進入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 ・ 聖名札、ビクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 ※ 図示							
材料及び仕上げ		(2.0.2.12)					
・ ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※ 研磨なし)							
・ 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別C種)							
適用安全使用温度		(2.0.2.13)					
・ 400℃まで ・ 650℃まで							
工法							
・ 煙突用成形ライニング材 (品質・性能)							
種類							
適用安全使用温度 (上限温度)		・ 400℃ ・ 650℃					
適用安全使用温度 (下限温度)		・					
加熱線収縮率		2.0%以下					
曲げ強度		0.8N/mm2以上					
圧縮強度		1.0N/mm2以上					
スポーリング性		試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。					
透水性		試験体裏面に水漏れが生じないものとする。					
耐蝕性		試験体に形状変化が見られず、腐壊する危険性がないものとする。					
石綿		使用不可。					
ライニング材とコンクリートの境界温度		100℃以下とする。					
加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確保は、社内試験成績書によることができる。							
JOB NO.		DATE		SCALE		TITLE	
CH.		CH.		DR.		NO.	
一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号		2025.01.				須波分団屯所建設工事	
岡田建築設計事務所						A	
一級建築士 第102449号 岡田文夫						図面縮小率	
						A-3: 100%	
						A-4: 71%	

[illegible]



三 原 湾

付近見取図

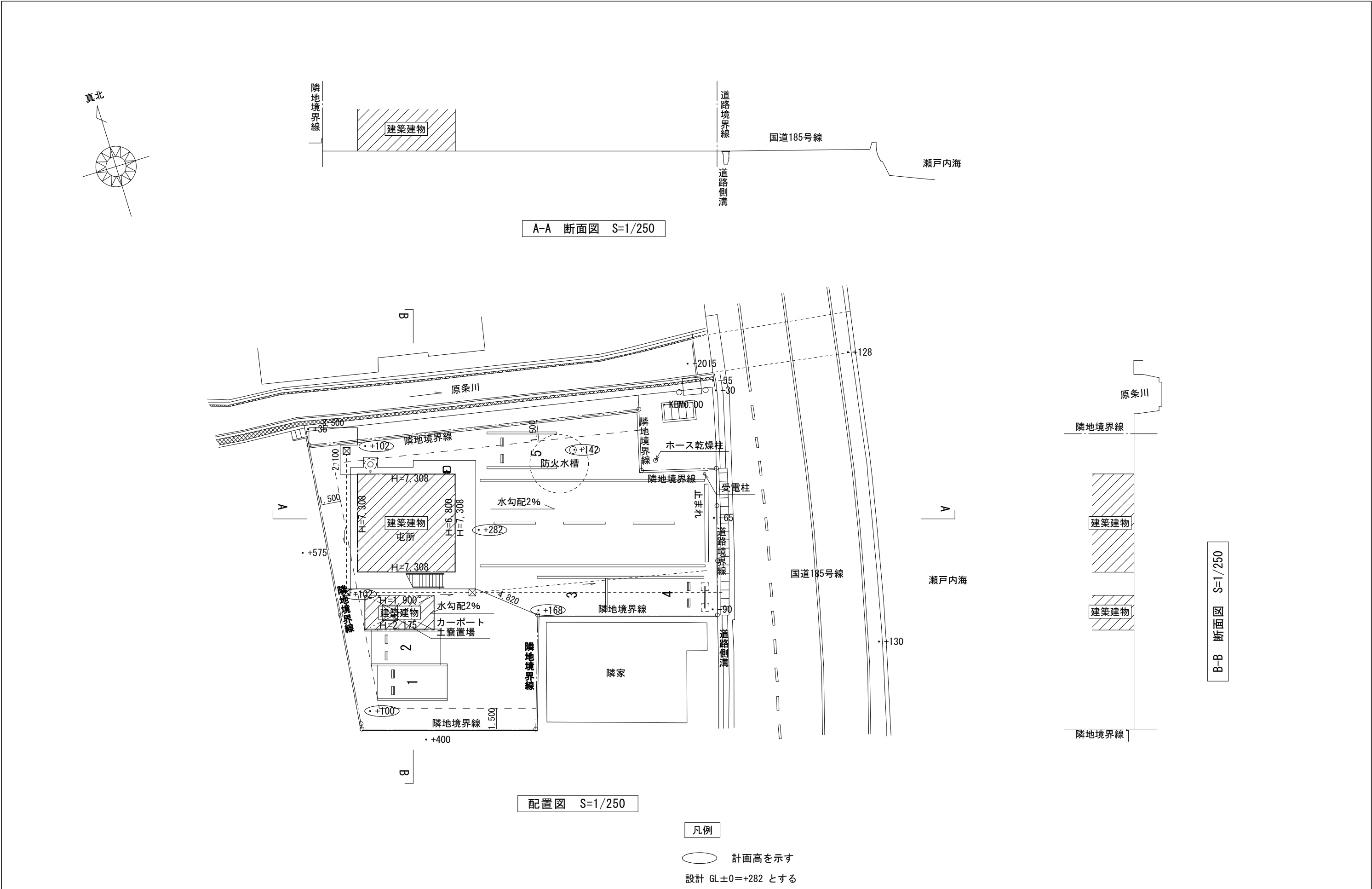
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22（1）0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. A / 08	図面縮小率
			CH.	CH.	2025.01.		DR.		須波分団屯所建設工事
							NAME		付近見取図、建物概要

外 部 仕 上 表			
屋 根	ウレタン塗膜防水 断熱材：硬質ウレタンフォーム t＝50	ガ ー デ ン パ ン	流し600型、水栓柱
外 壁	押出成形セメント板（メース）フラットパネル t＝60の上複層塗材E吹付	断熱材	天井裏：グラスウール24K t＝100mm、外壁・間仕切壁：グラスウール24K t＝65mm（待機室・トイレ）
根廻り	コンクリート打放しの上面補修	タラップ	ステンレス製（図面参照）
外部階段	屋根：折板葺き山高90ハゼ 階段：鉄骨製 溶融亜鉛メッキ	樋	竖樋：カラーVP100、掴み金物SUS 階段屋根 軒樋：塩ビ角樋W＝150
建 具	アルミサッシュ（つらいち枠）、アルミドア、高耐食カラー鋼板軽量バランスシャッター	庇	アルミ庇 出幅1000（アルフィン同等品）
文字記入	シャッター（表） 文字（200×200） 三原市消防団 須波分団屯所 駐車禁止（文字サイズは担当者と打合せの事）	消火器	ABC消火器10型 2本
汲取り便槽	簡易水洗、臭突（バンド、ステンレスSUS304）、便槽	雑工事	防火水槽蓋設置 防火水槽看板設置
犬走り	コンクリート金コテ仕上げエポキシ系防塵塗装防滑仕上	参考事項	
車止め：ピラー	スチール製 ロングピラー H1500 φ165.2(FPA-17UHサンポール同等品) 4ヶ所	建築工事仕様	図面に記載されていない事項は、全て公共建築工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）令和4年度版による。

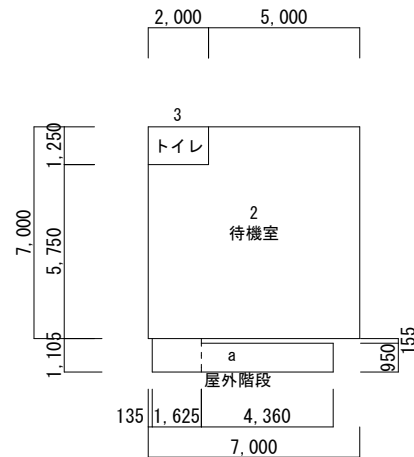
特記事項 法37条の「指定建築材料」はJ I S、J A S規格品又は国土交通大臣の認定を受けたものとする。 各種建築材料はノンアスベスト製品とする。 ウレタン系防塵塗装ーボウジンテックス#5000U同等品 ケイカル板ーケイ酸カルシウム板 不燃材料（H12建告第1400号） PB-石膏ボード（GB-R）JIS A6901 ※水廻りの石膏ボードは防水ボードを使用する事。 防水ボード：JIS A6901 シーゾング 石膏ボード（GB-S） EP-Gーつや有合成樹脂エマルションペイント塗り SOP-合成樹脂調合ペイント塗り OSCL-オイルステインクリヤラッカー塗り NAD-アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り FE-フタル酸樹脂エナメル塗り EP-合成樹脂エマルションペイント塗り CL-クリヤラッカー塗り OS-オイルステイン塗り			
内 部 仕 上 表			

階	室 名	床	巾 木 ・ 腰	壁	天 井	天井高	備 考
		仕 上	仕 上	仕 上	仕 上		
1	車庫	コンクリート金コテ仕上げ エポキシ系防塵塗装防滑仕上	コンクリート打放の上面補修の上EP-G	押出成形セメント板の上EP-G、鉄部 DP塗装	鉄部 DP塗装	3000	ヘルメット掛け/かっぱ掛け3ヶ用3ヶ所 鋼製棚
2	待機室	長尺塩ビシート貼り t＝2.0（木目調） 構造用合板 t＝15 ネダフォーム t＝65洋室用	ソフト巾木H＝60	PB t＝12.5の上ビニルクロス貼 水廻り：化粧ケイカル板 t＝5.0 柱型：Mバー19取付PB t＝12.5の上ビニルクロス貼	化粧石膏ボード t＝9.5 （スクエアトーン吸音タイプ）同等品	2500	流し台L=1800 下足入 窓にブラインド
	トイレ	同 上	同 上	PB t＝12.5の上ビニルクロス貼	同 上	2400	洋便器（簡易水洗用）、手洗器 紙巻器、鏡

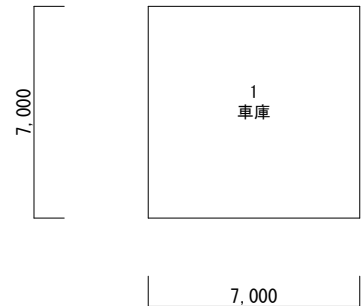
特記事項		訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡 田 建 築 設 計 事 務 所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. A 09	図面縮小率	
						2025. 01.		須波分団屯所建設工事		A-3 : 100%	
				CH.	CH.	DR.		NAME		A-4 : 71%	
								外部・内部仕上表			



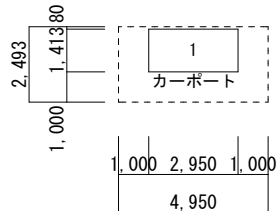
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE 1/250	TITLE	NO. A 10	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.		須波分団屯所建設工事		
				DR.		NAME		
						配置図、断面図		



2 階建物面積求積図 S=1/250



1 階建物面積求積図 S=1/250



1 階建物面積求積図 S=1/250

建物面積求積表 (㎡) 屯所

階	符号 (室名)		計算式	面積
1	1	車庫	7.00 × 7.00	49.0000
2	2	待機室	7.00 × 5.75+5.00 × 1.25	46.5000
	3	トイレ	2.00 × 1.25	2.5000
	a	屋外階段	1.625 × 1.105+4.36 × 0.95	5.937625

屯所

面積表		
1 階床面積	1 = 49.0000	㎡
	= 49.00	㎡
2 階床面積	2+3 = 49.0000	㎡
	= 49.00	㎡
延べ床面積		
	1階+2階床面積 = 98.00	㎡
建築面積	1 階床面積+a = 54.937625	㎡
	= 54.93	㎡

計画建物面積表 (㎡)

棟別	延べ床面積	建築面積
屯所棟	98.00	54.93
カーポート棟	4.16	4.16
合計	102.16	59.09

建物面積求積表 (㎡) カーポート

階	符号 (室名)		計算式	面積
1	1	カーポート	2.95 × 1.413	4.16835

カーポート

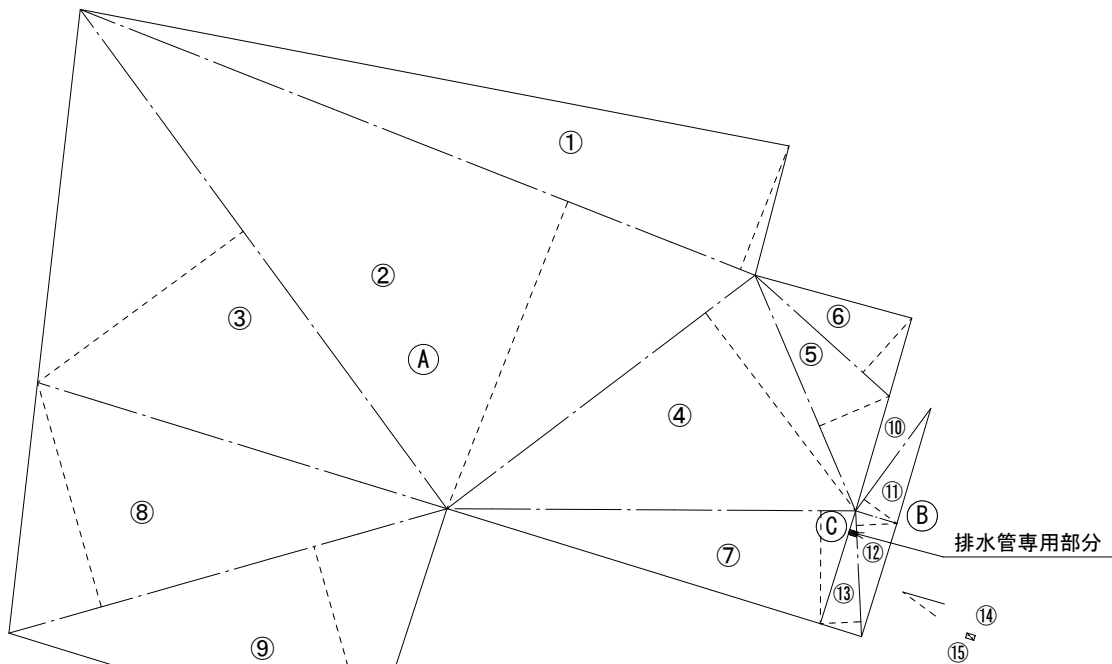
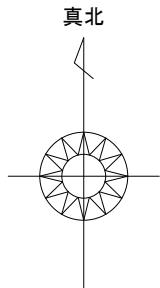
面積表		
1 階床面積	1 = 4.16835 = 4.16	㎡ ㎡
延べ床面積	1 階床面積 = 4.16	㎡
建築面積	1 階床面積 = 4.16835 = 4.16	㎡ ㎡

① 敷地面積求積表

番号	底辺	高さ	倍積
1	23.987	4.387	105.230969
2	23.987	10.915	261.818105
3	20.485	8.441	172.913885
4	12.782	8.219	105.055258
5	8.473	2.511	21.275703
6	5.976	2.417	14.443992
7	13.512	3.734	50.453808
8	15.065	7.711	116.166215
9	15.065	6.805	102.517325
合計			949.87526
二除面積			474.93763
面積 (㎡)			474.93

② 道路改築部分求積表

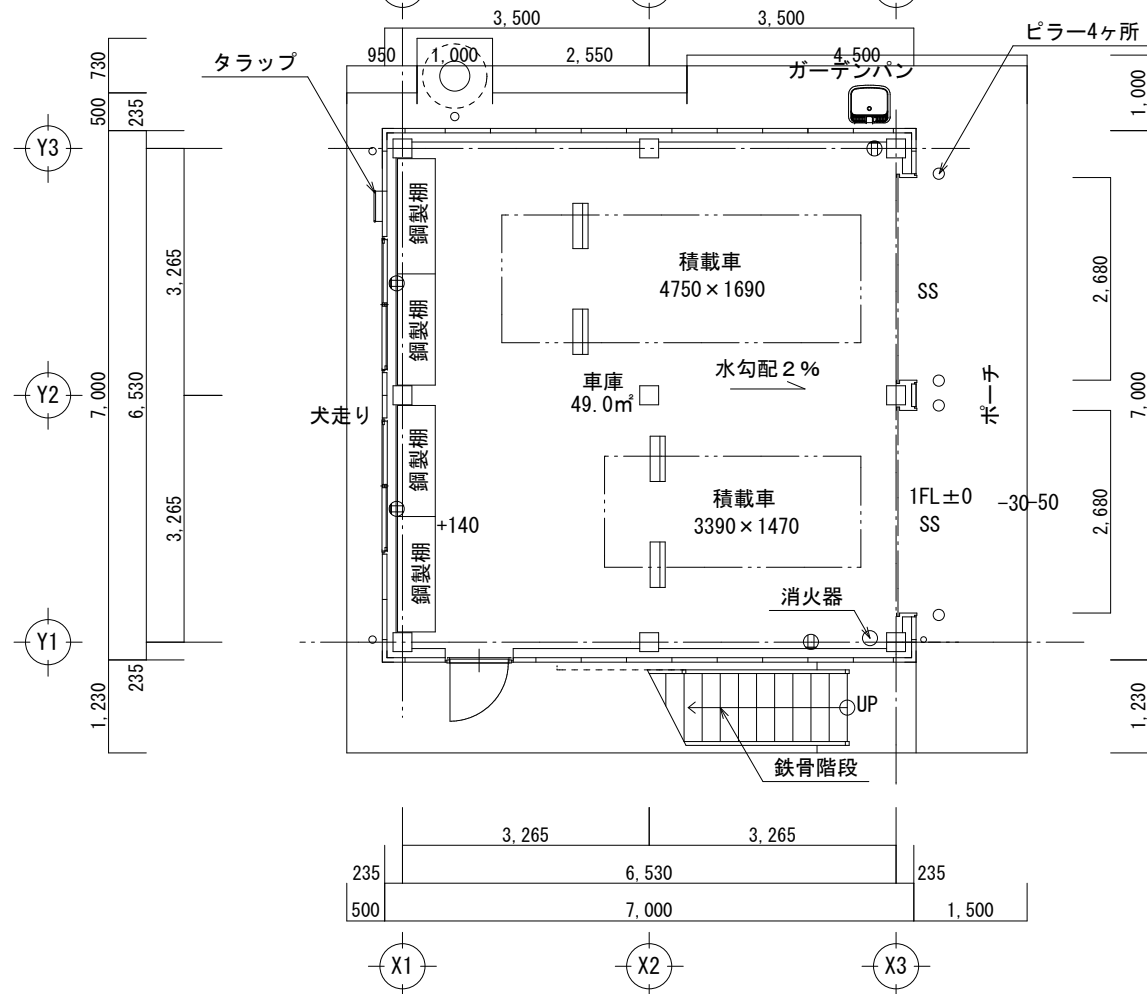
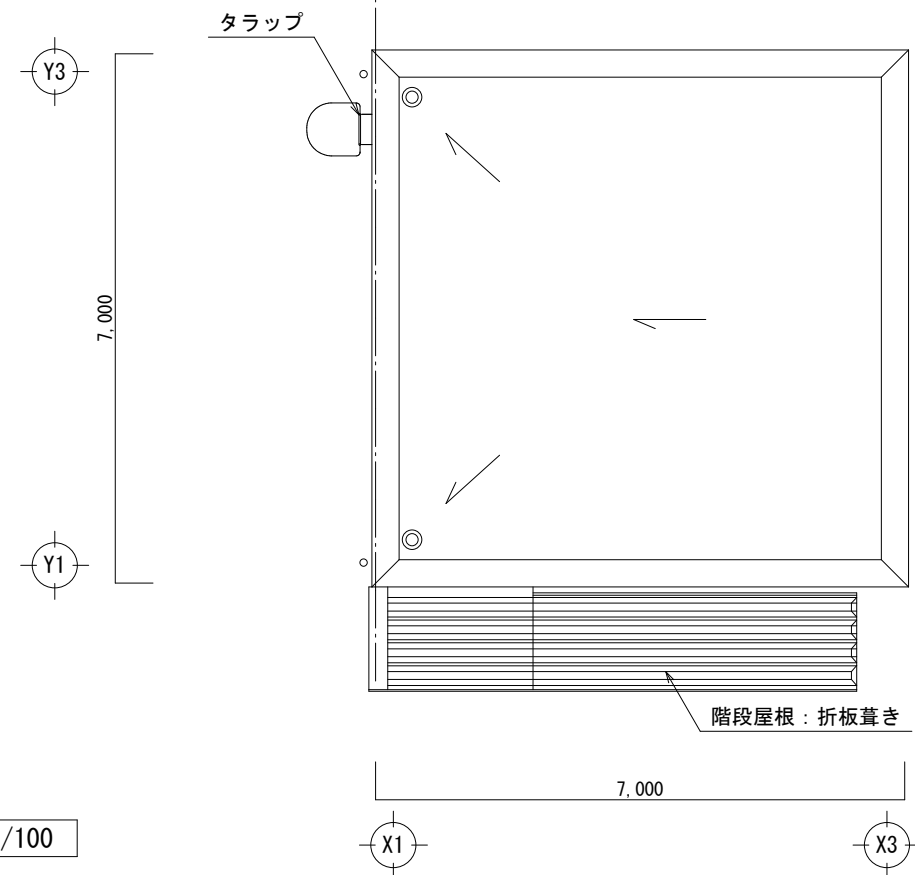
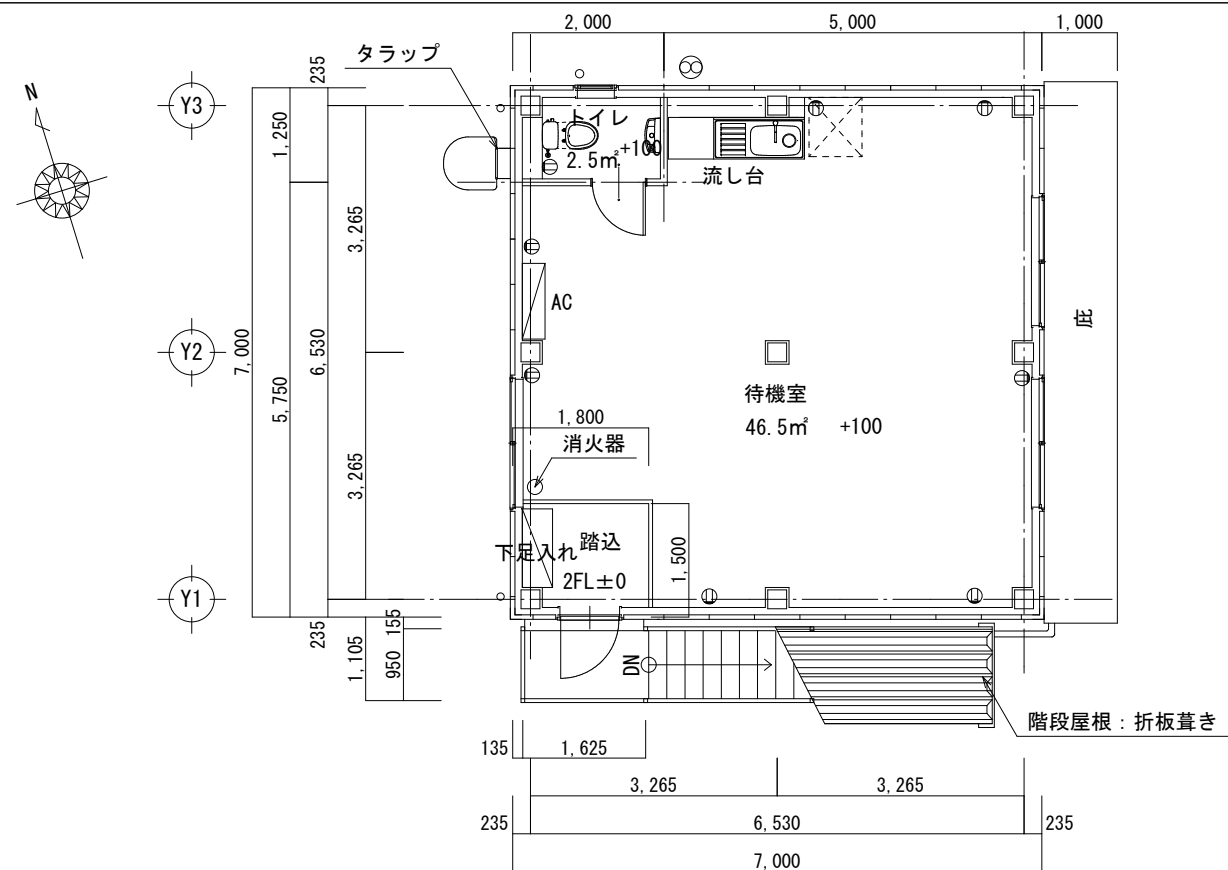
番号	底辺	高さ	倍積
10	4.207	1.343	5.650001
11	4.207	1.349	5.675243
12	4.159	1.347	5.602173
13	4.159	1.342	5.581378
合計			22.508795
二除面積			11.2543975
面積 (㎡)			11.25



丈量図 S=1/250

③ 道路占用部分求積表

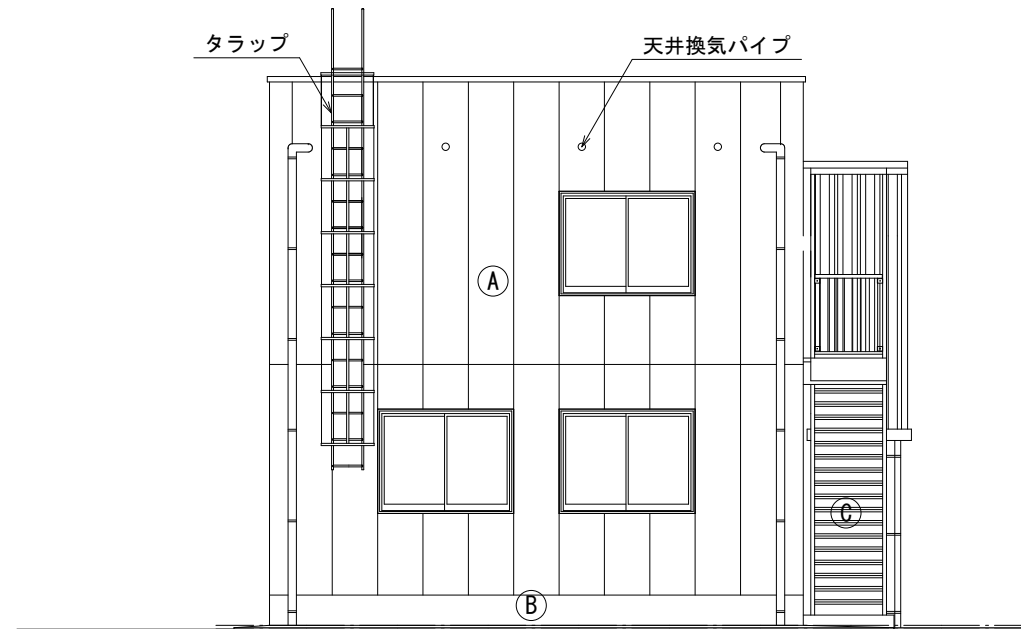
番号	底辺	高さ	倍積
14	0.329	0.142	0.046718
15	0.329	0.142	0.046718
合計			0.093436
二除面積			0.046718
面積 (㎡)			0.09



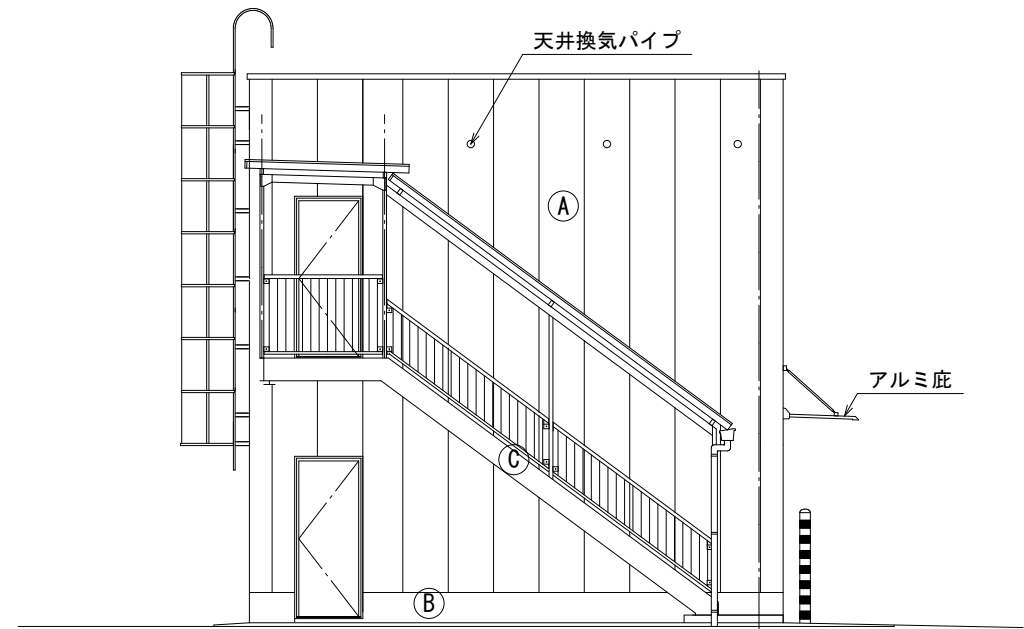
面積表

	m ²	坪
建築面積	54.93	16.61
延面積	98.00	29.64
1階床面積	49.00	14.82
2階床面積	49.00	14.82

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率	
			CH.	CH.		DR.			須波分団屯所建設工事
						1/100	NAME	12	A-3 : 100%
							平面図、屋根伏図		A-4 : 71%



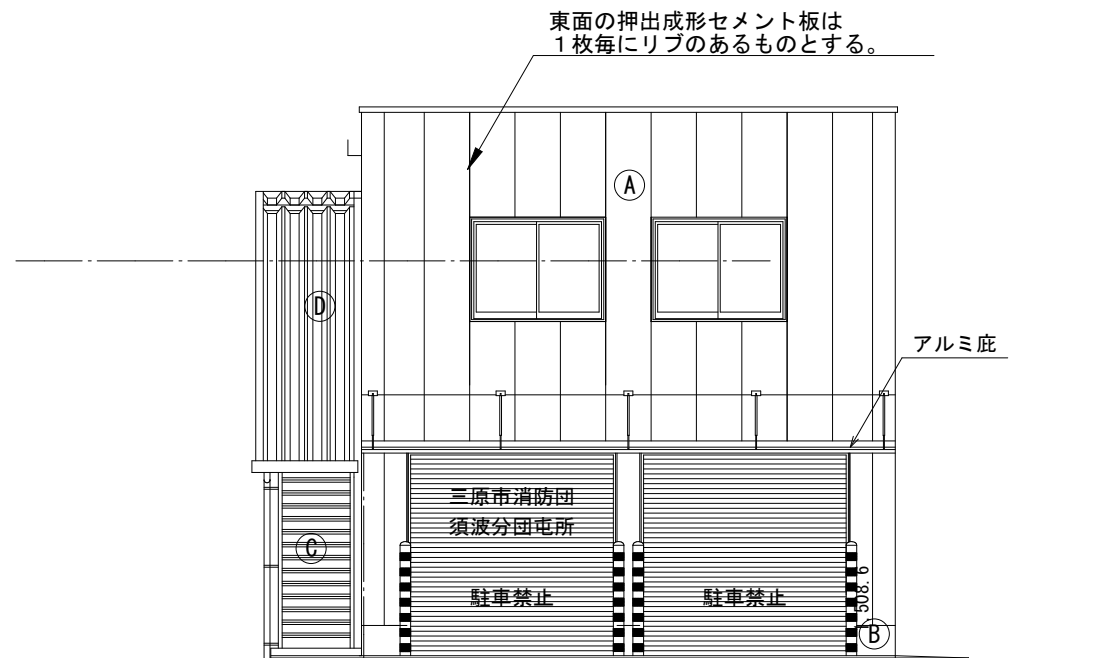
西側立面図 S=1/100



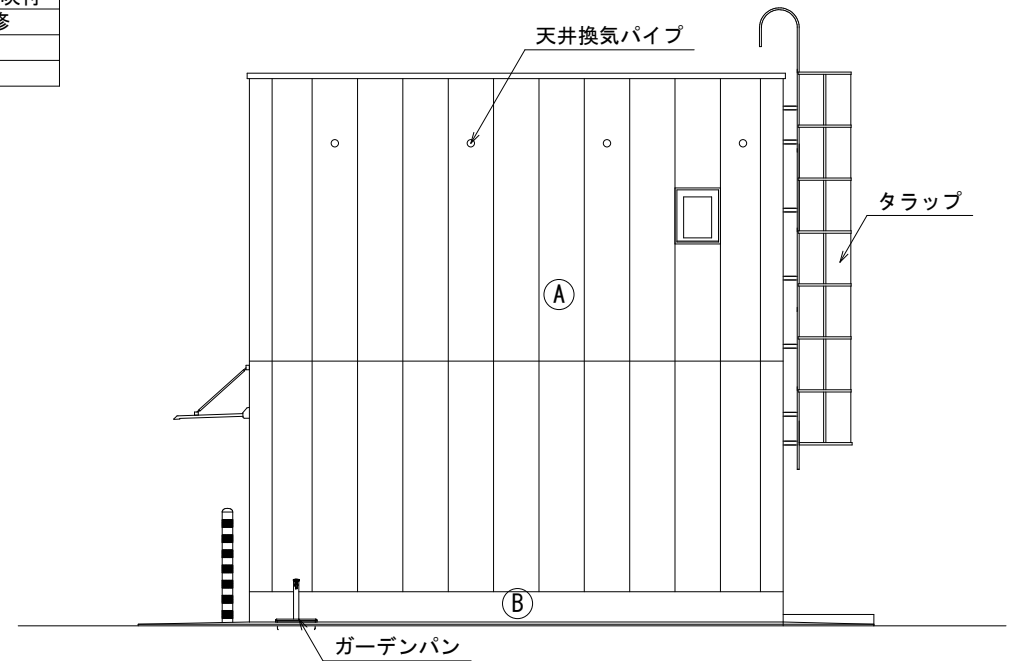
南側立面図 S=1/100

外部仕上表

記号	仕 上
A	押出成形セメント板の上複層塗材E吹付
B	コンクリート打ち放しの上面補修
C	鉄骨階段 溶融亜鉛メッキ
D	階段屋根 折板葺き

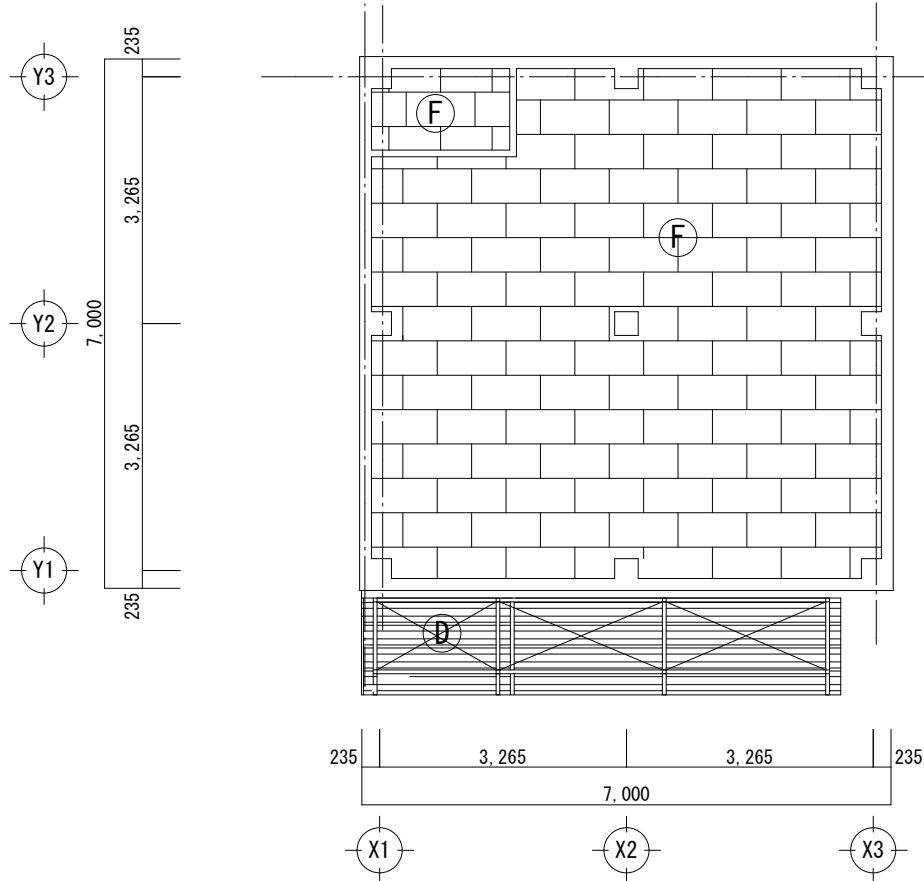


東側立面図 S=1/100

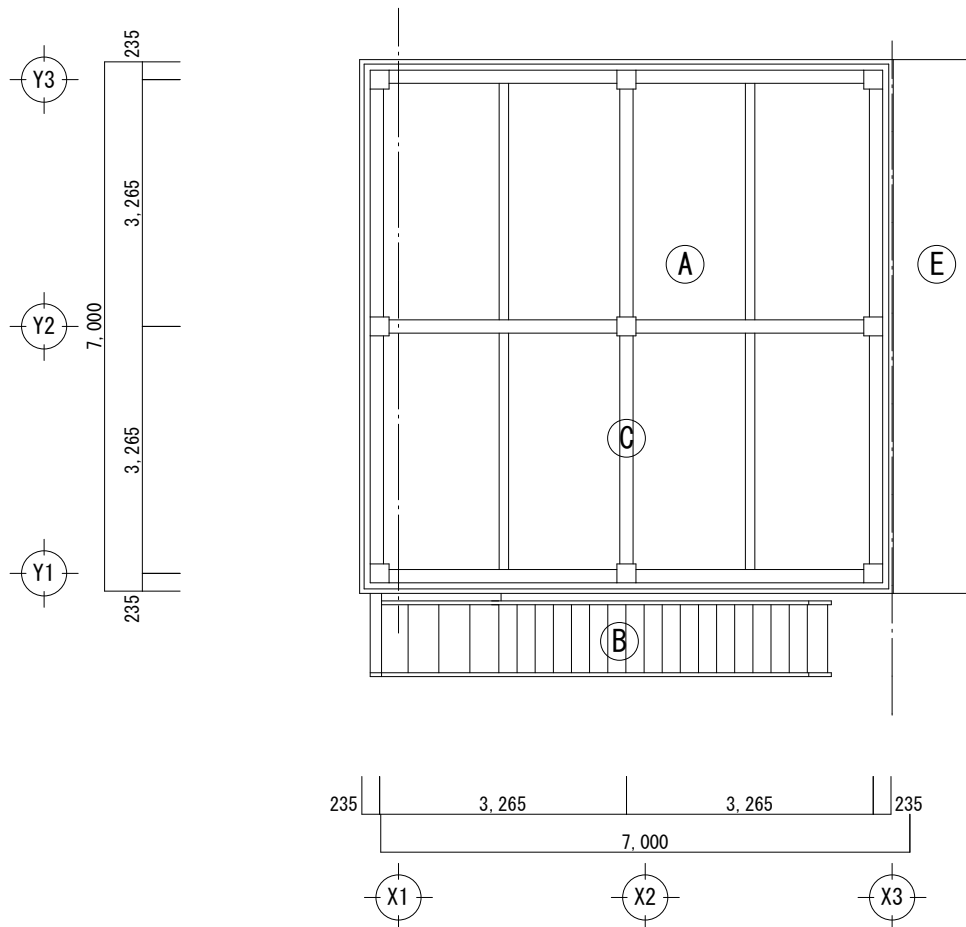


北側立面図 S=1/100

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE 1/100	TITLE 須波分団屯所建設工事 NAME 立面図	NO. A 13	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.				



2階天井伏図 S=1/100

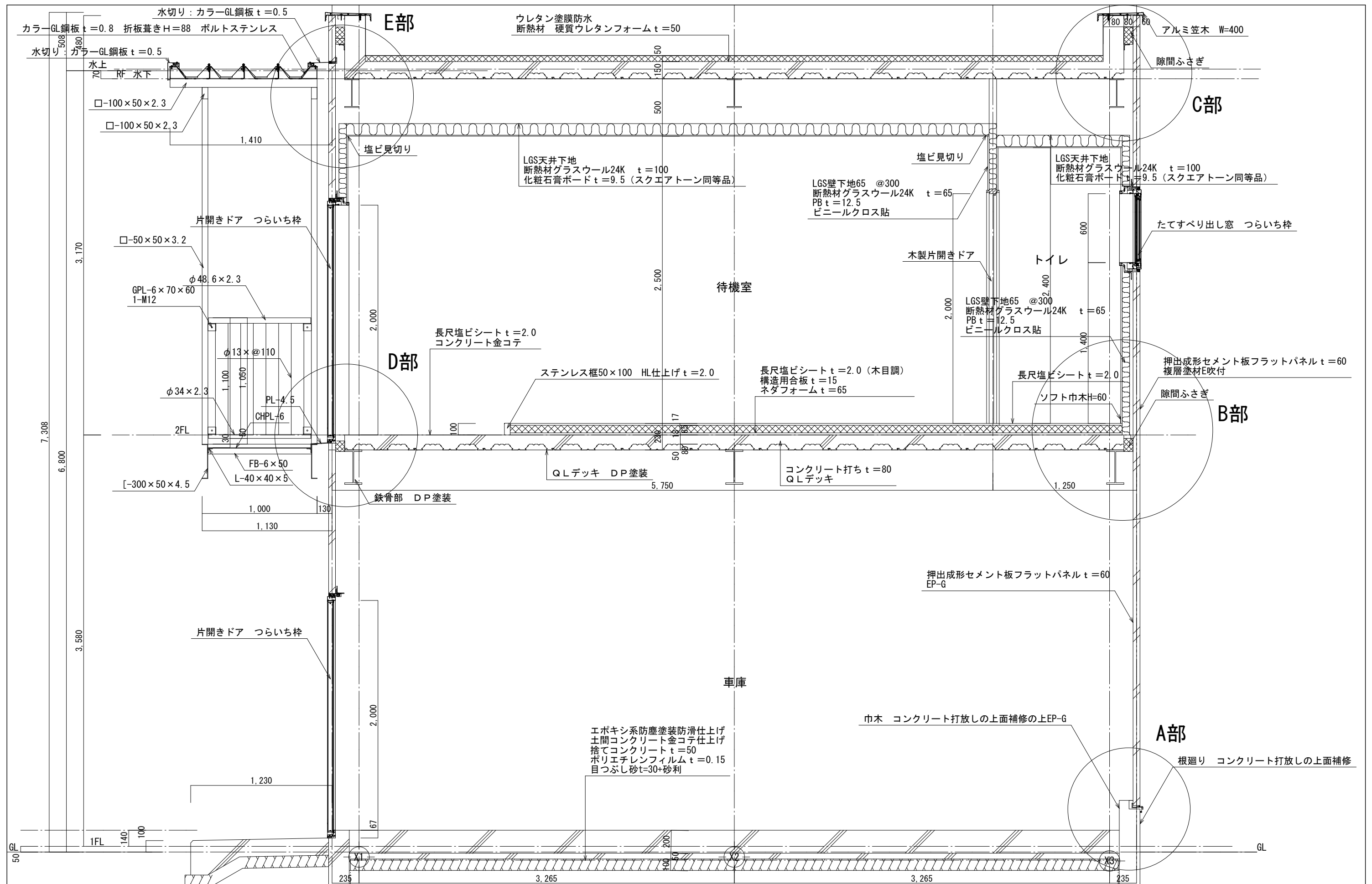


1階天井伏図 S=1/100

天井仕上表

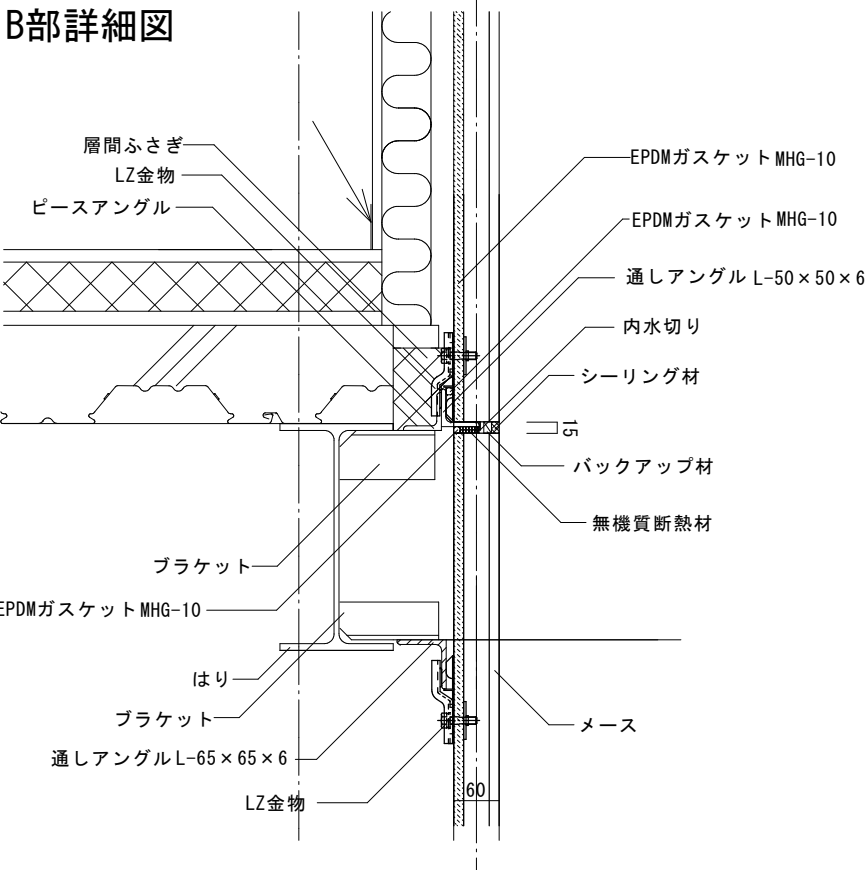
符号	仕 上
A	Q L デッキの上DP塗装
B	溶融亜鉛メッキ
C	鉄骨部下地処理の上DP塗装
D	折板葺き表し
E	アルミ庇表し
F	化粧石膏ボード t=9.5 (スクエアトーン吸音タイプ) 同等品

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE 1/100	TITLE	NO. A 14	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.		須波分団屯所建設工事		
				DR.		天井伏図		

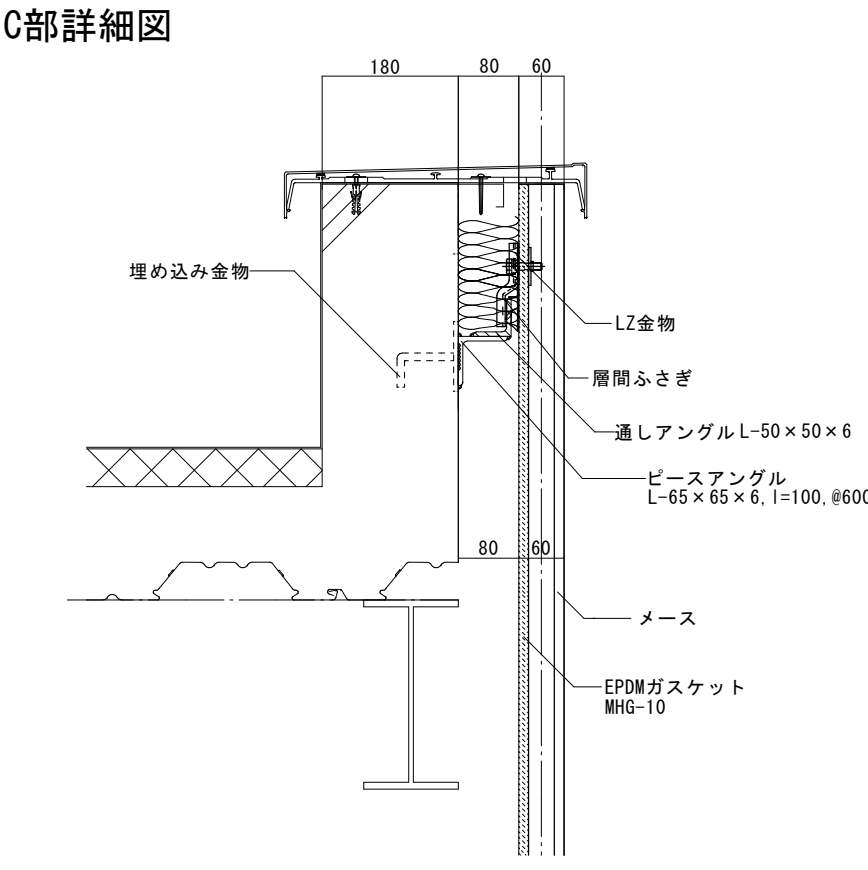


特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/30	TITLE	NO. A 16	図面縮小率
			CH.	CH.	DR.		須波分団屯所建設工事		A-3 : 100%
							矩計図 (2)		A-4 : 71%

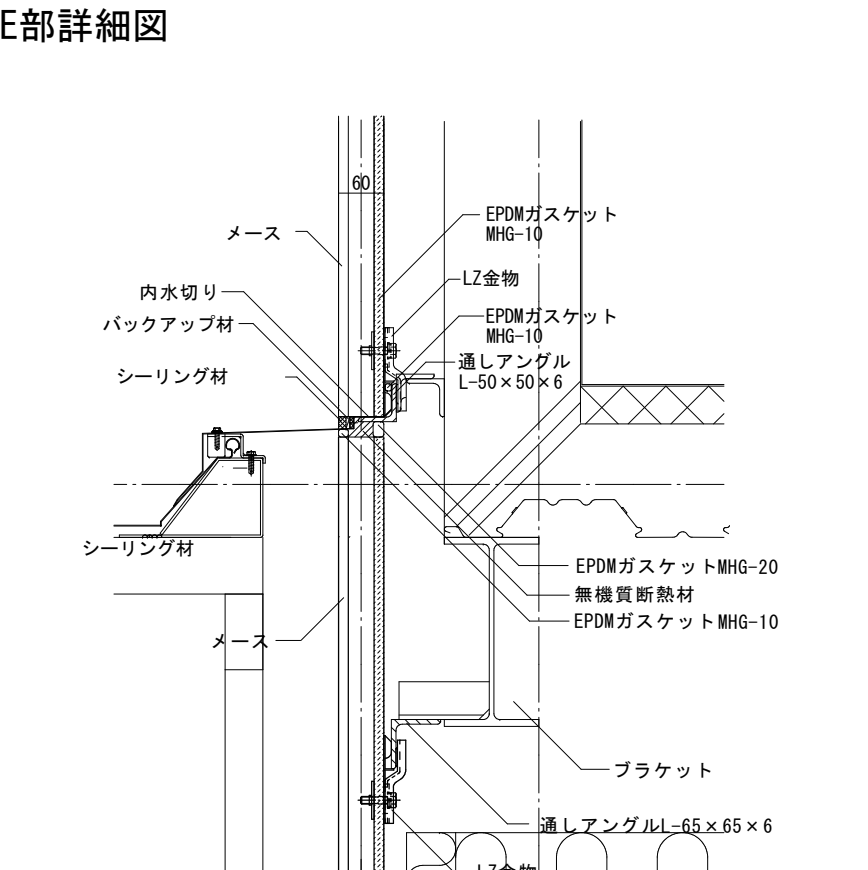
B部詳細図



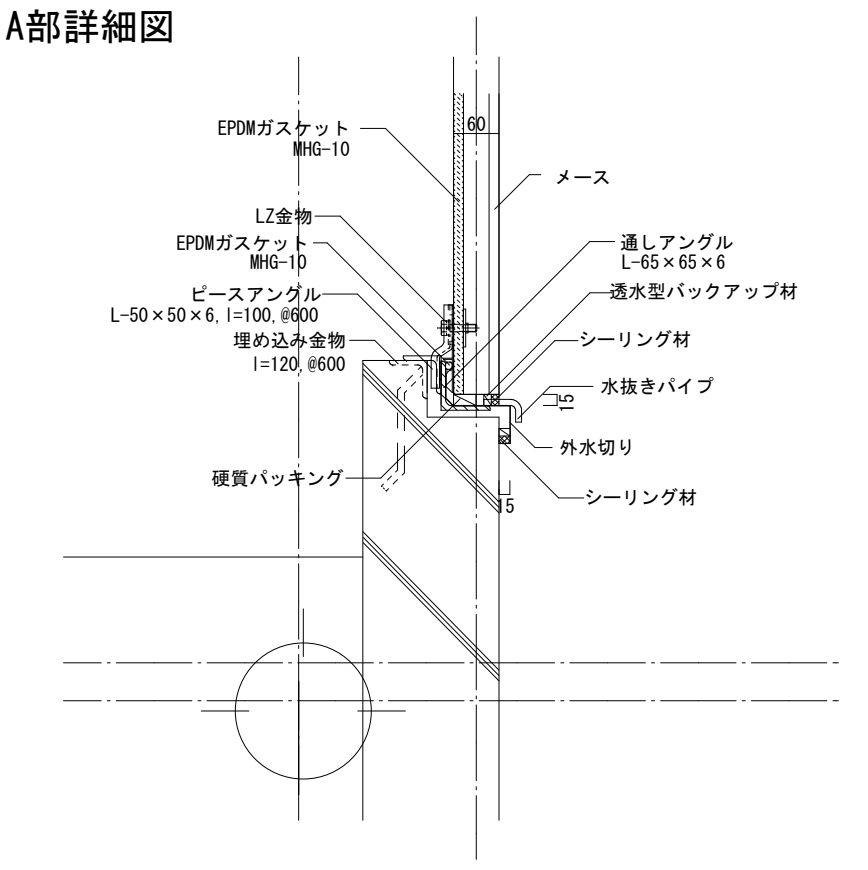
C部詳細図



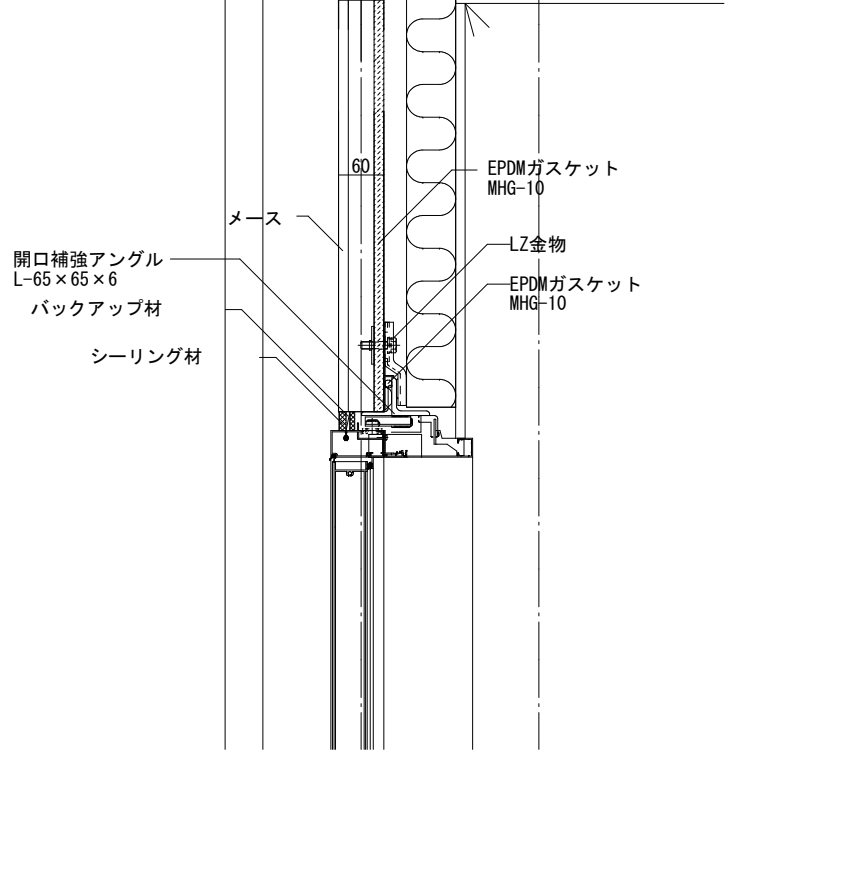
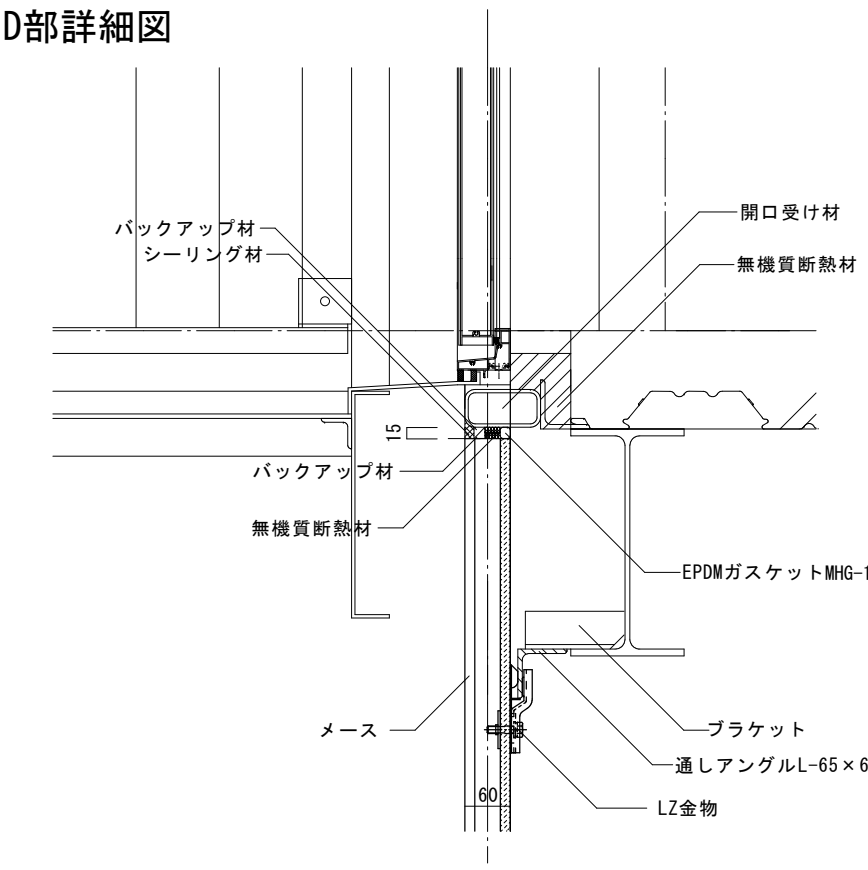
E部詳細図



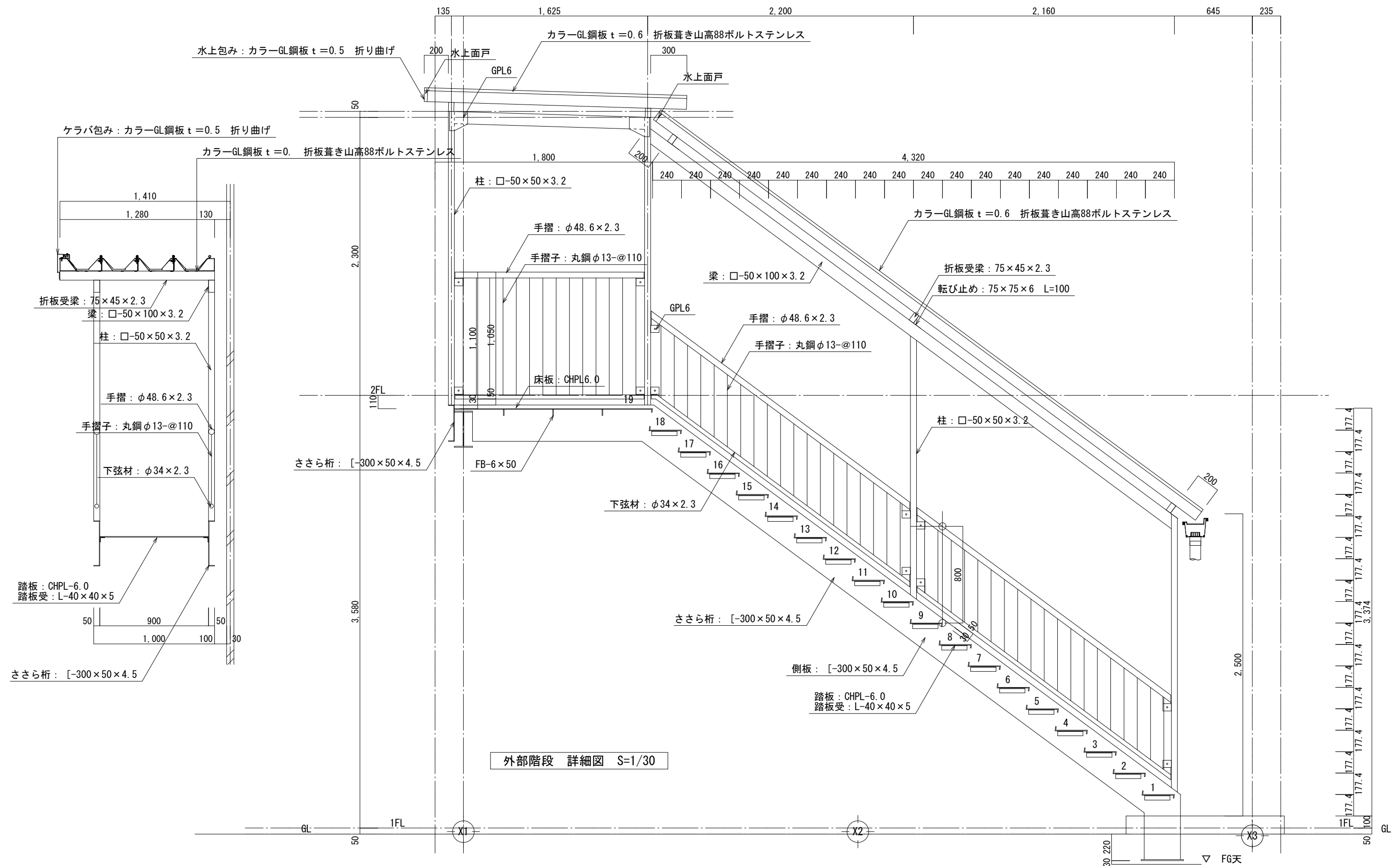
A部詳細図

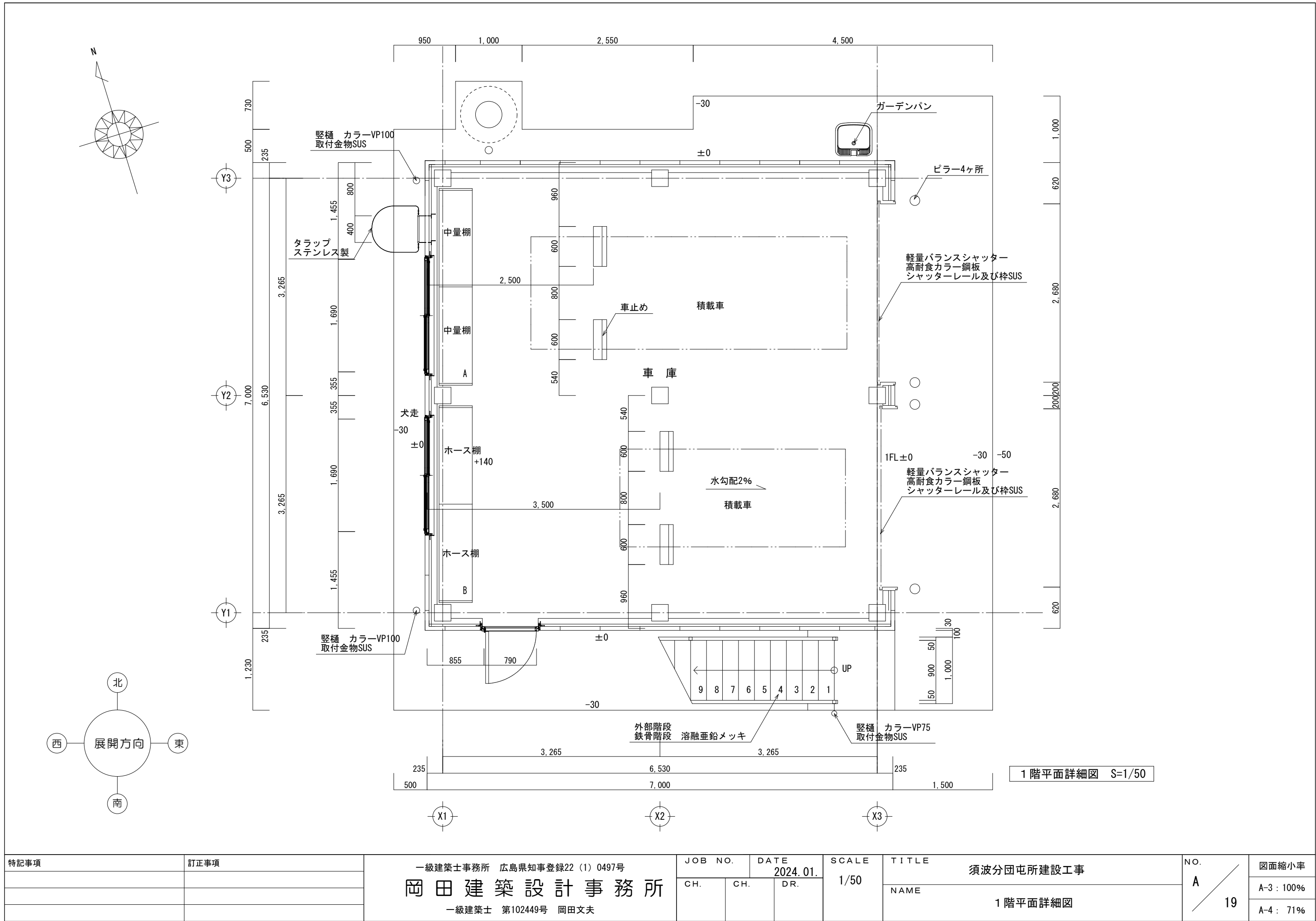


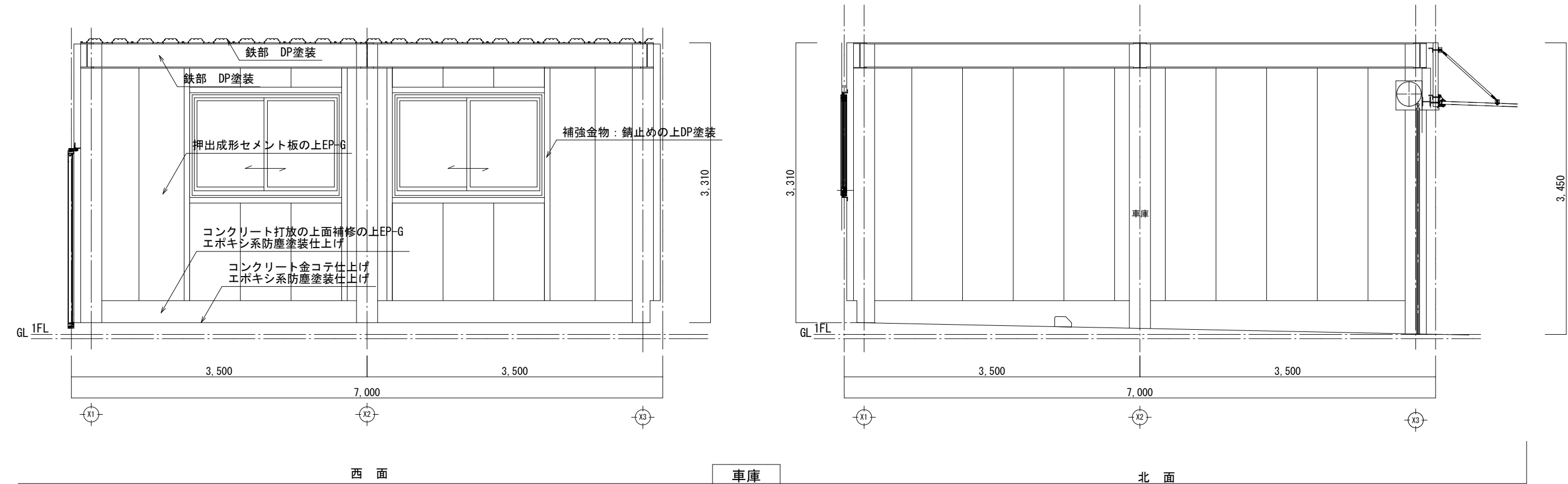
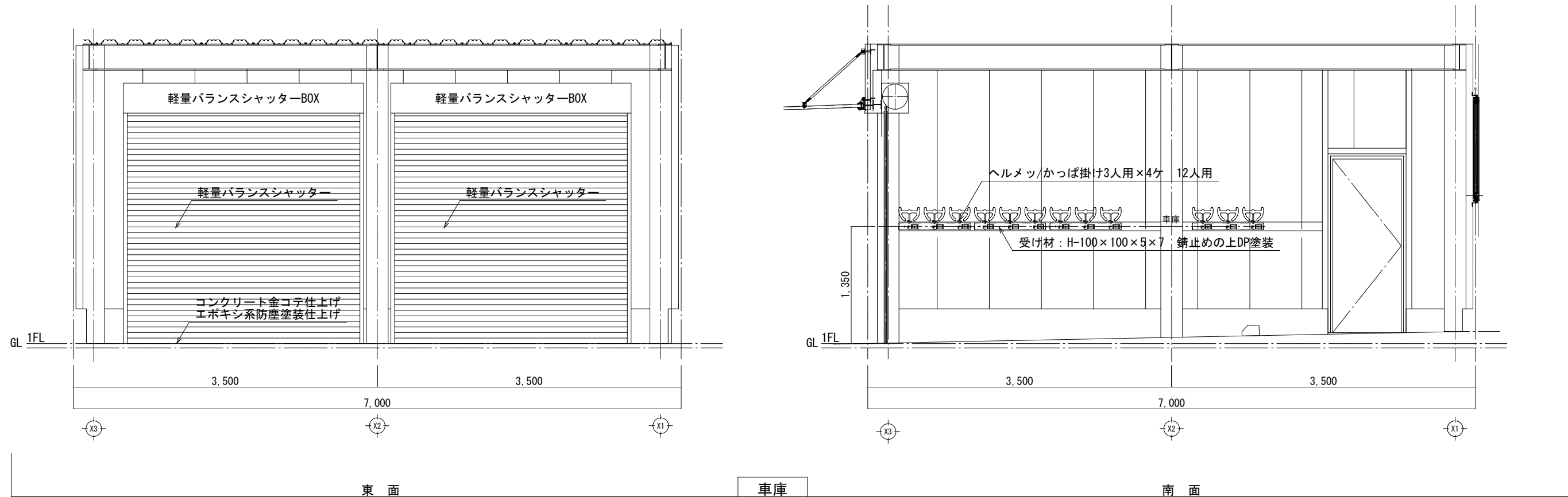
D部詳細図



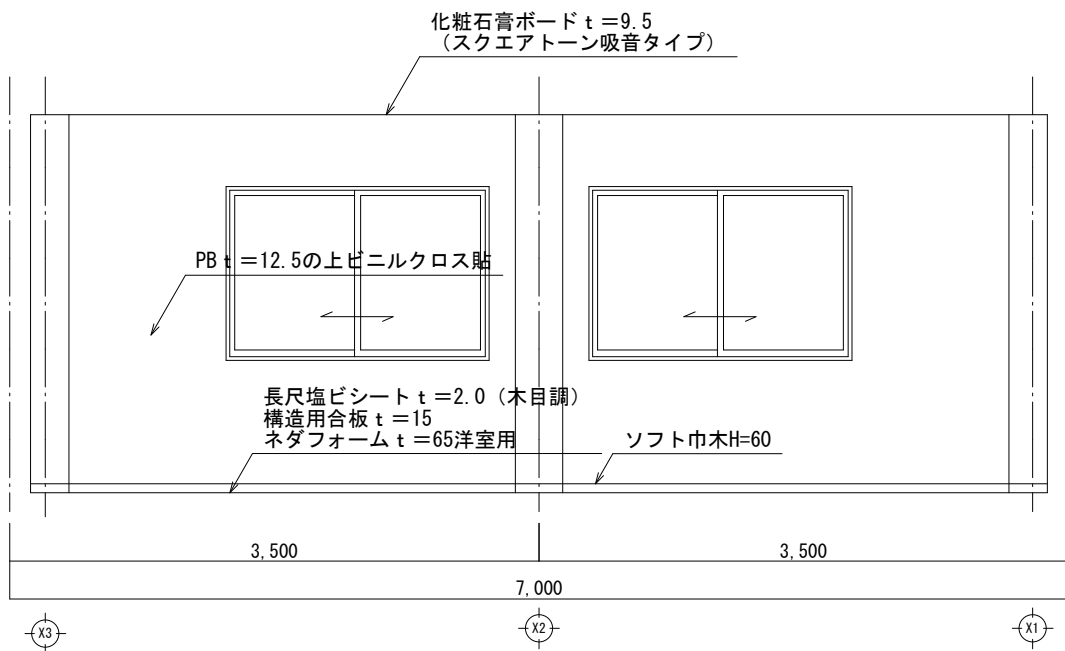
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡 田 建 築 設 計 事 務 所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE 2025. 01.		SCALE 1/10	TITLE 須波分団屯所建設工事		NO. A 17	図面縮小率
									A-3 : 100%		
									A-4 : 71%		





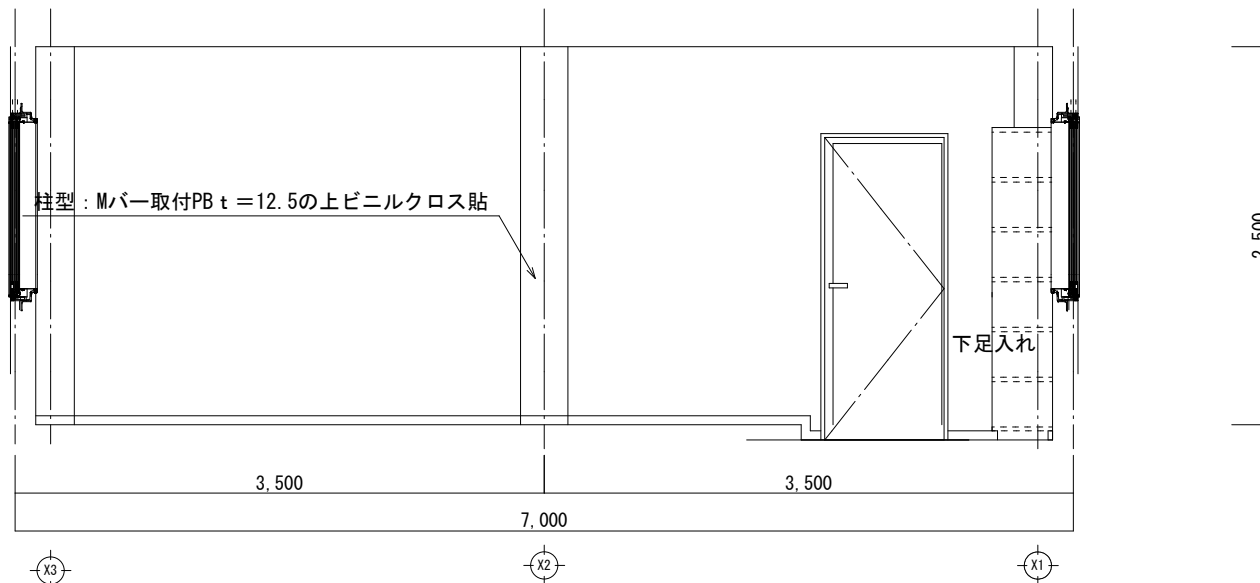


特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO. A 21	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	2024.01.	1/50	須波分団屯所建設工事		
			CH.	DR.		展開図 (1)		

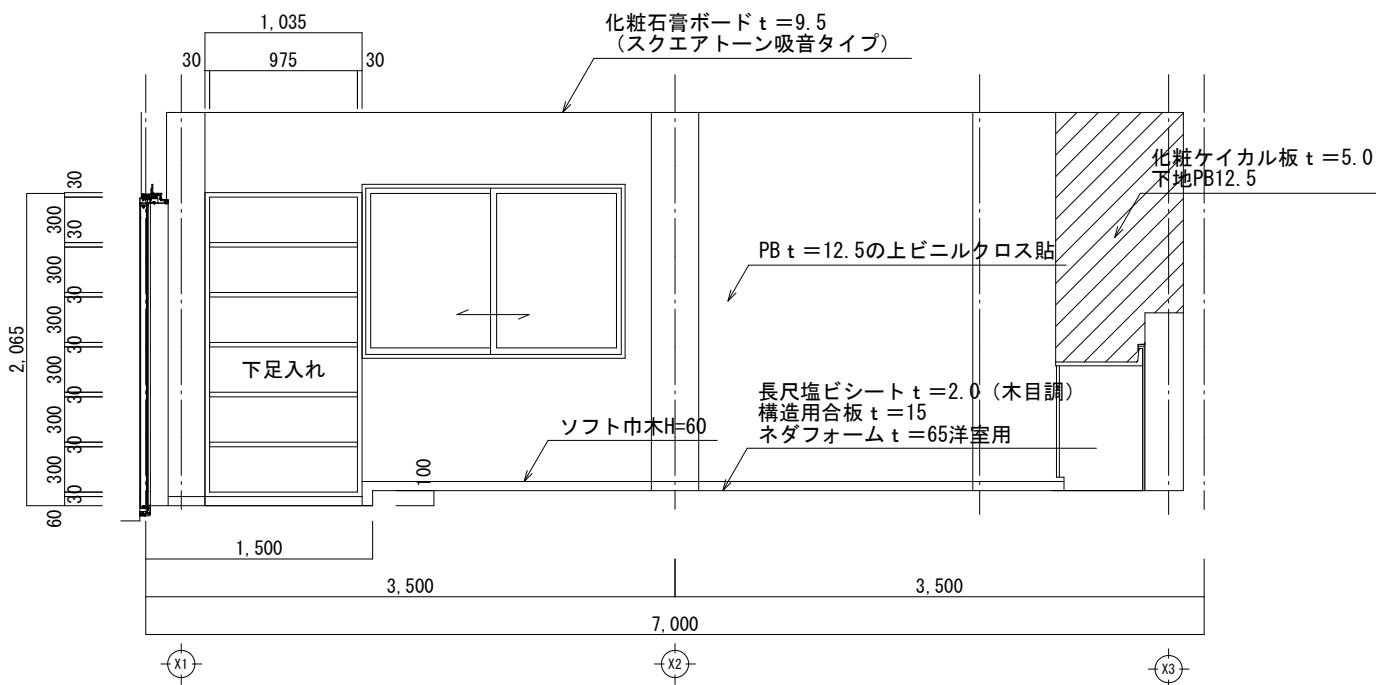


東 面

待機室

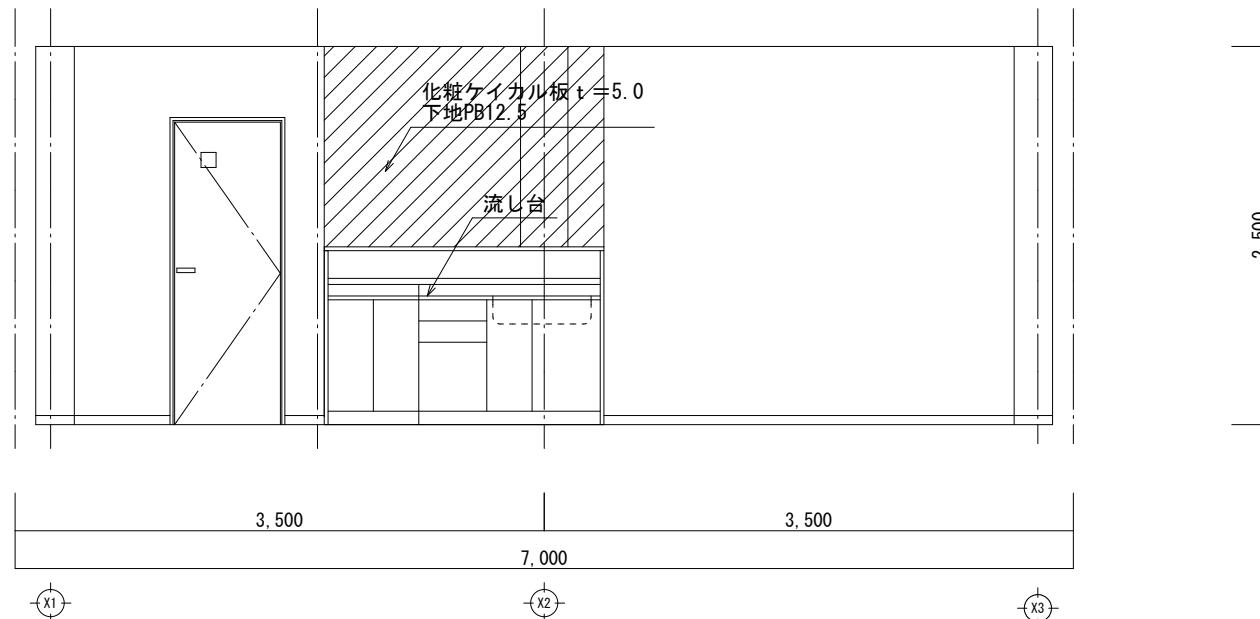


南 面



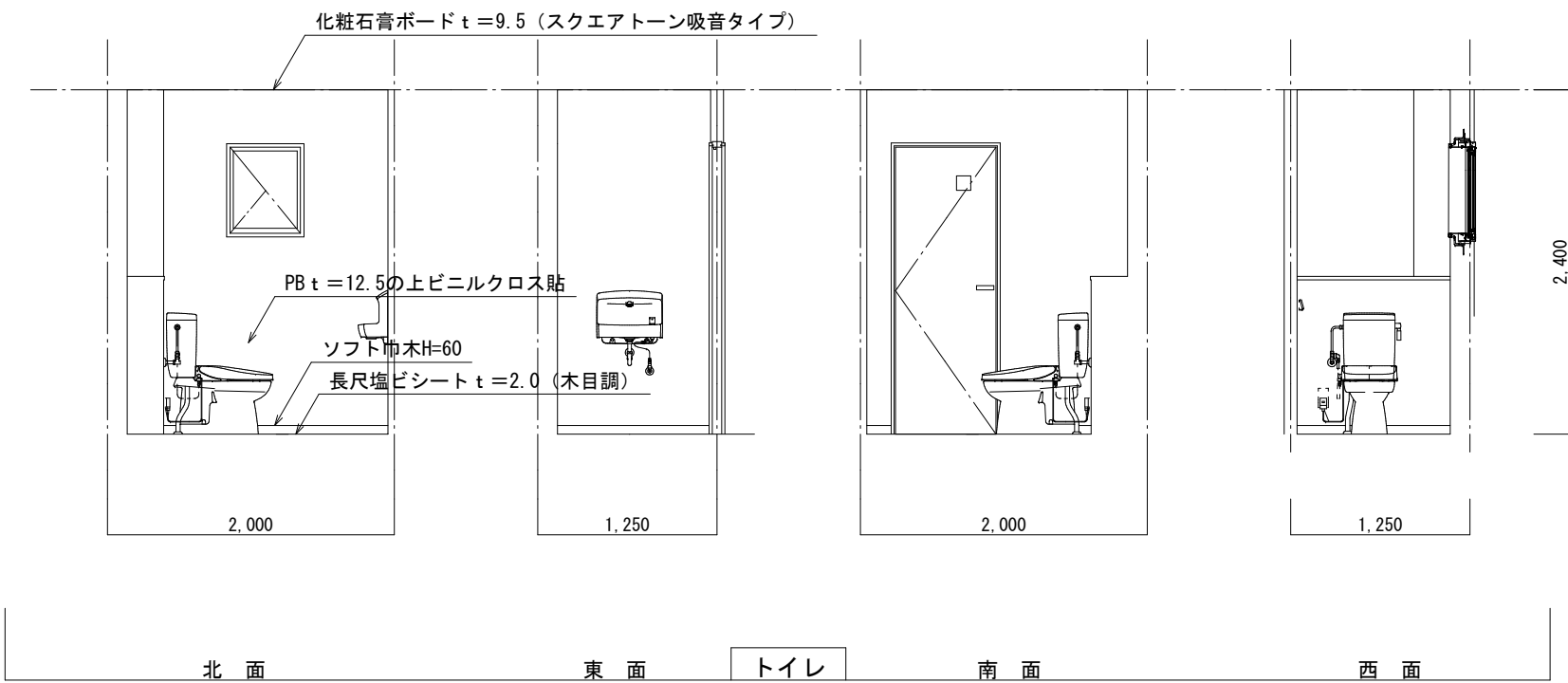
西 面

待機室



北 面

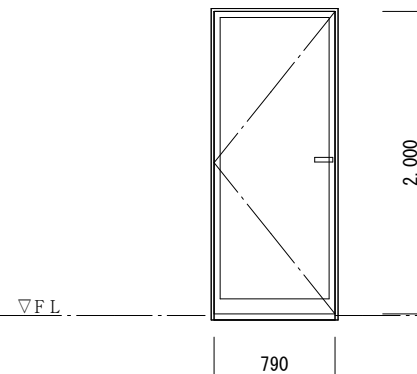
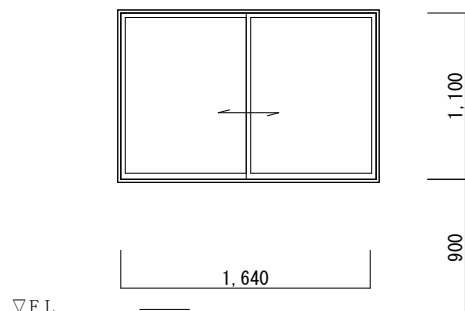
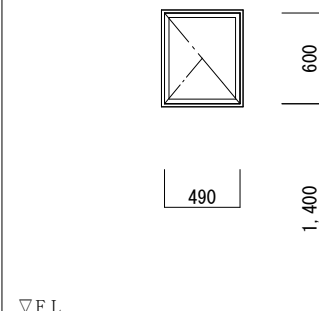
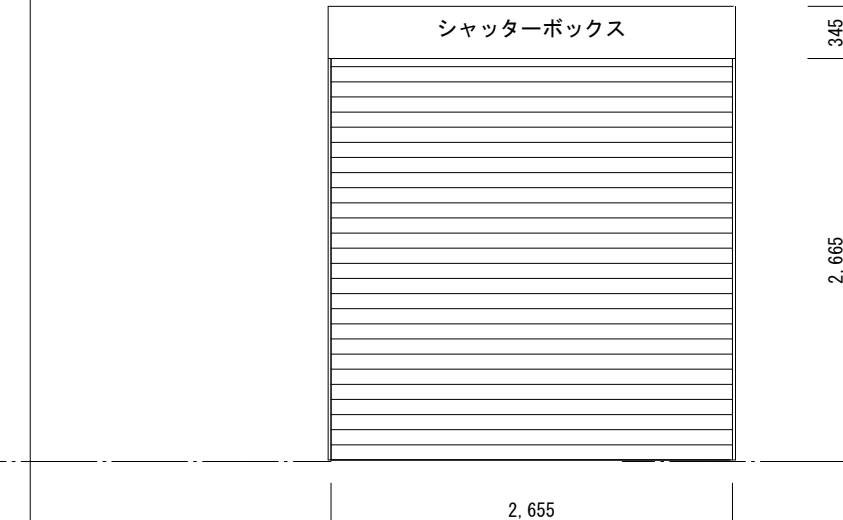
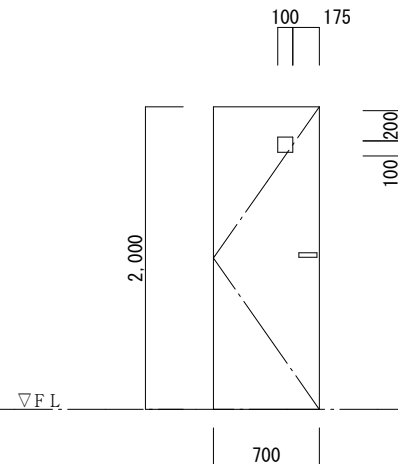
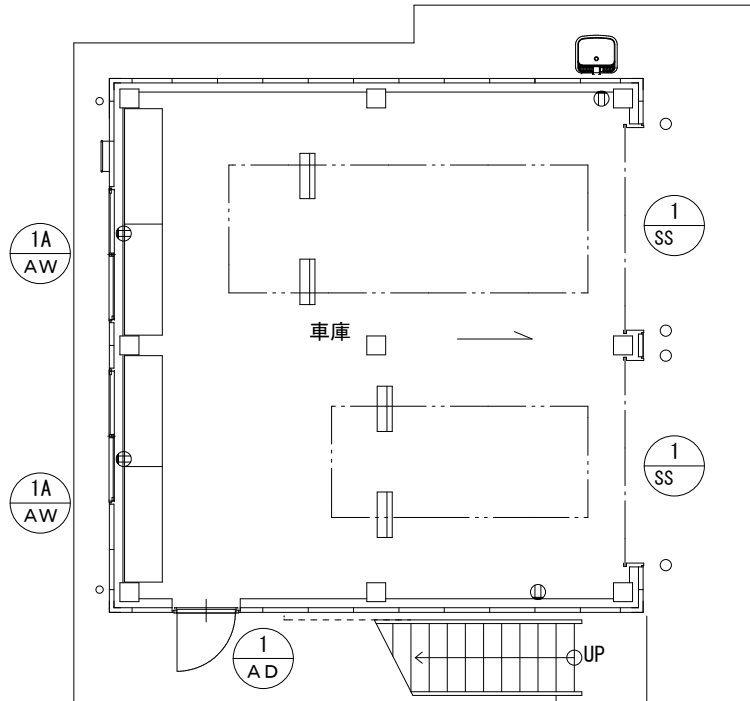
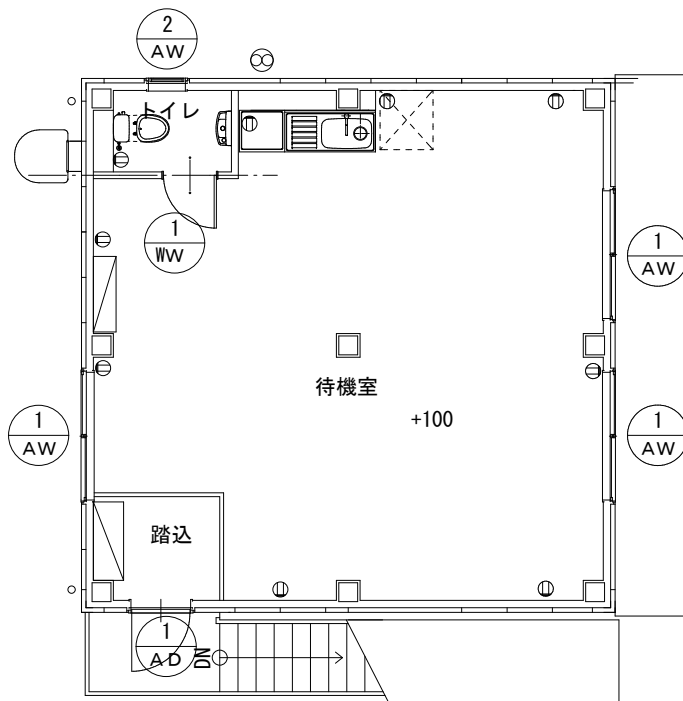
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	2024.01.	1/50	須波分団屯所建設工事	A	
				DR.		展開図 (2)	22	

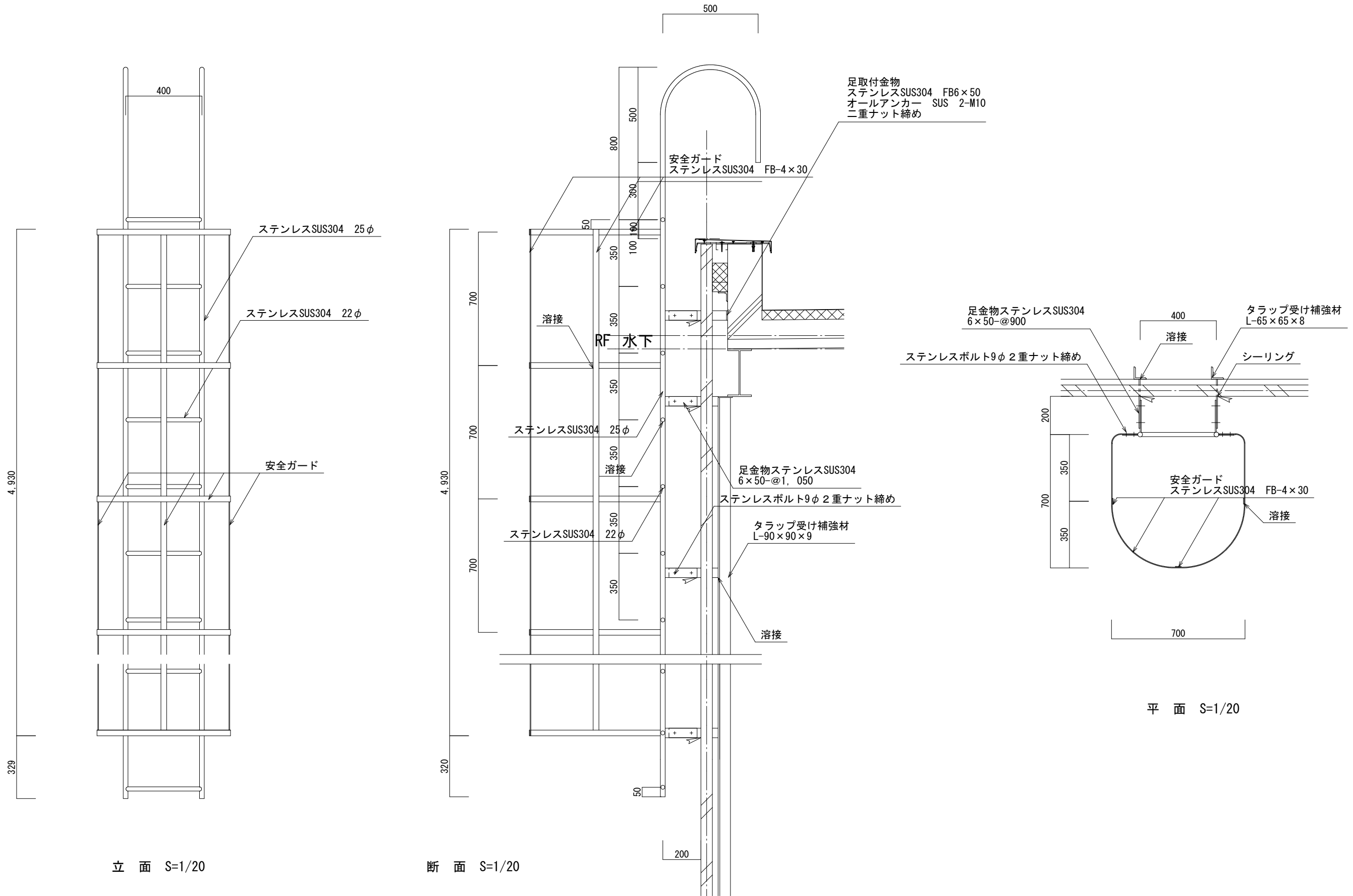


室 名	車 庫
床	コンクリート金コテの上エポキシ系防塵塗装防滑仕上げ
巾木	コンクリート打放の上面補修の上 EP-G
壁	押出成形セメント板フラットパネル t=60 EP塗装
天 井	Q Lデッキの上DP塗装
備 考	鉄部はDP塗装

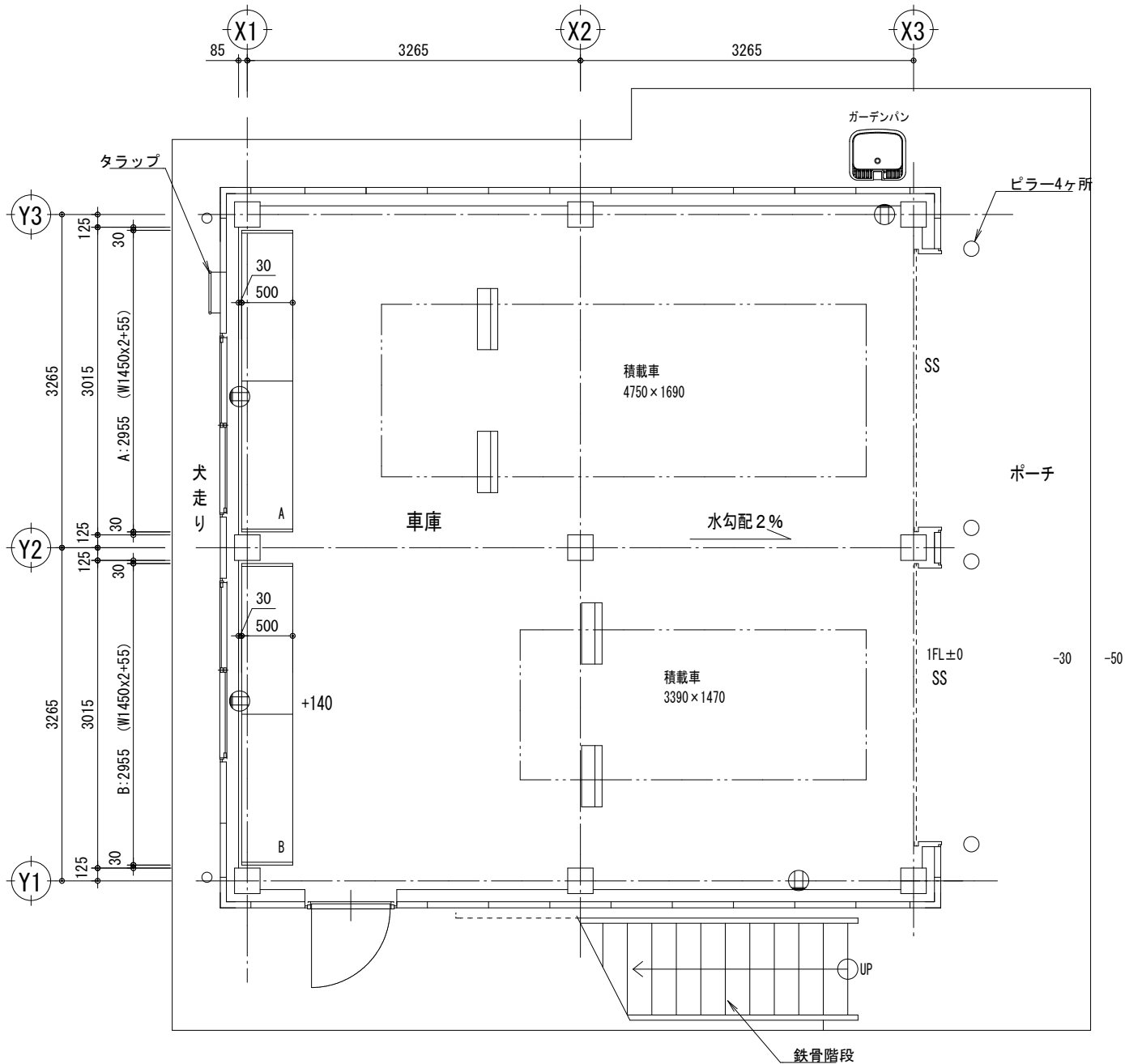
室 名	待機室
床	長尺塩ビシート t=2.0 (木目調)
巾木	ソフト巾木H=60
壁	PB t=12.5の上ビニルクロス貼、化粧ケイカル板貼 t=5.0
天 井	化粧石膏ボード t=9.5 (スクエアトーン吸音板) 同等品
備 考	

室 名	トイレ
床	長尺塩ビシート t=2.0 (木目調)
巾木	ソフト巾木H=60
壁	PB t=12.5の上ビニルクロス貼
天 井	化粧石膏ボード t=9.5 (スクエアトーン吸音板) 同等品
備 考	

符号	AD-1	数量：2	AD-1、AD-1A	数量：5	AW-2	数量：1	SS-1	数量：2				
室名	車庫、待機室		車庫（AD-1A）、待機室		トイレ		車庫					
姿 図												
	形式		片開きドア つらいち枠		引き違い窓 つらいち枠		高耐食カラー鋼板軽量バランスシャッター					
	見込、WH		70、W800*H2,000（有効寸法）		70、W1,650*H1,100（有効寸法）		70、W500*H600（有効寸法）					
	材質		アルミ		アルミ		アルミ					
仕上	陽極酸化塗膜複合皮膜（B 2）		陽極酸化塗膜複合皮膜（B 2）		陽極酸化塗膜複合皮膜（B 2）							
硝子			型板 4 mm+ A 16+透明3mmLowE、型板4mm（AD-1A）		型板 4 mm+ A 16+透明3mmLowE							
金物	レバーハンドル、シリンダ錠、額縁（待機室）		クレセント、補助錠、アルミ膳板、額縁		カムラッチ、アルミ膳板、額縁		シャッターレールSUS 、三方枠：SUS t=1.5 H.L、標準金物一式					
備考			網戸（GF）		網戸（GF）		三和シャッター（潮彩 同等品）					
符号	WD-1	数量：1										
室名	トイレ											
姿 図												
	形式		片開きドア									
	見込、WH		40、W700*H2,000									
	材質		木製フラッシュ戸									
仕上	ポリ合板張り											
硝子	型板4mm											
金物	レバーハンドル、ラバトリー錠、丁番、DC、標準金物一式											
備考												
特記事項		訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22（1）0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫			JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率	
						CH.	CH.	DR.	1/50 1/200	須波分団屯所建設工事	A 24	A-3：100%
									建具配置図、建具表	A-4：71%		



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
			CH.	CH.				
				DR.				
			2025. 01.		1/20	須波分団屯所建設工事	A 25	A-3 : 100%
						トラップ 詳細図		A-4 : 71%

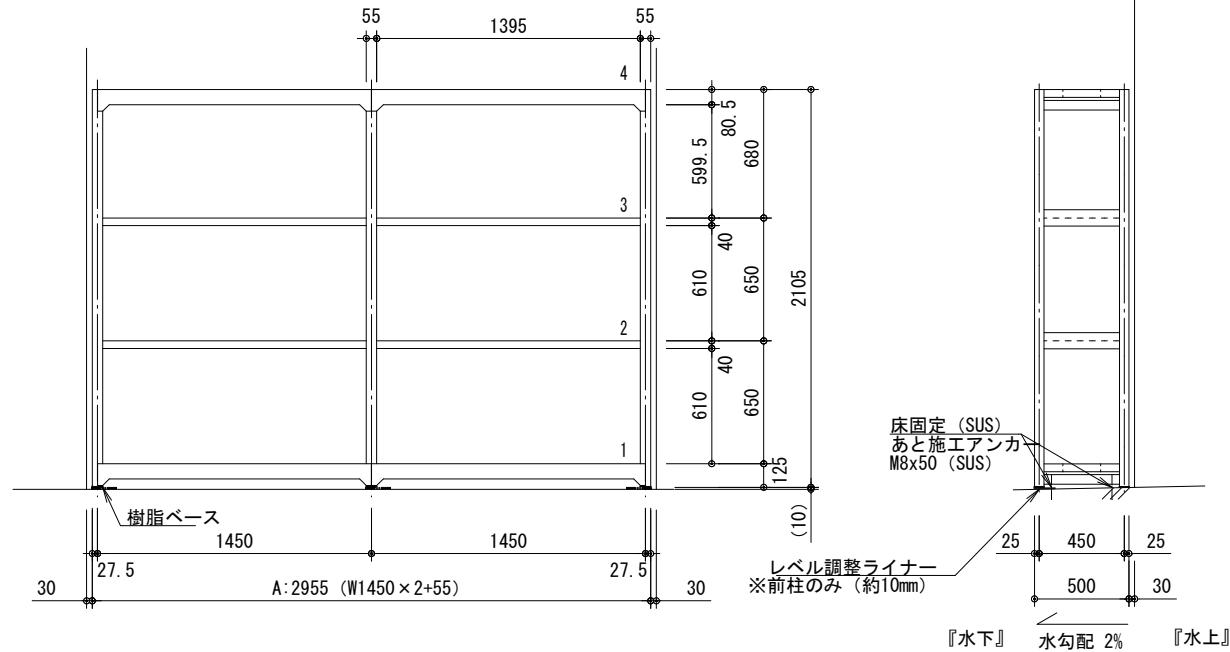


1階 車庫 ホース棚 配置図 S=1/60

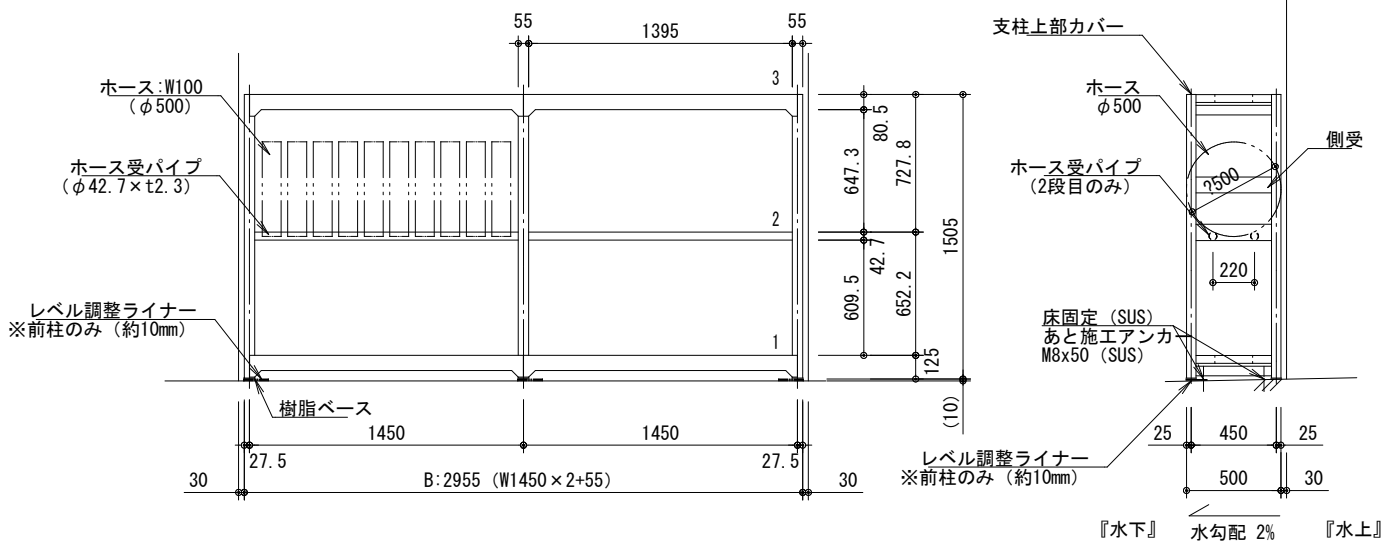
1階 車庫 中量棚 ホース棚 数量表

	記号	型 式	台 数	延連数	棚段数	ホース棚
中量棚	A	単式 2連 有効3段 BLH a72-bb4S0R同等品	1	2	6	-
ホース棚	B	単式 2連 有効2段 (ホース受パイプ付) BLH a52-bb3S0R同等品	1	2	2	2
合 計			2	4	8	2

a=1450mm (間口支柱芯々寸法))
bb=D500mm (奥行外寸)



1階 車庫 中量棚 姿図 S=1/40

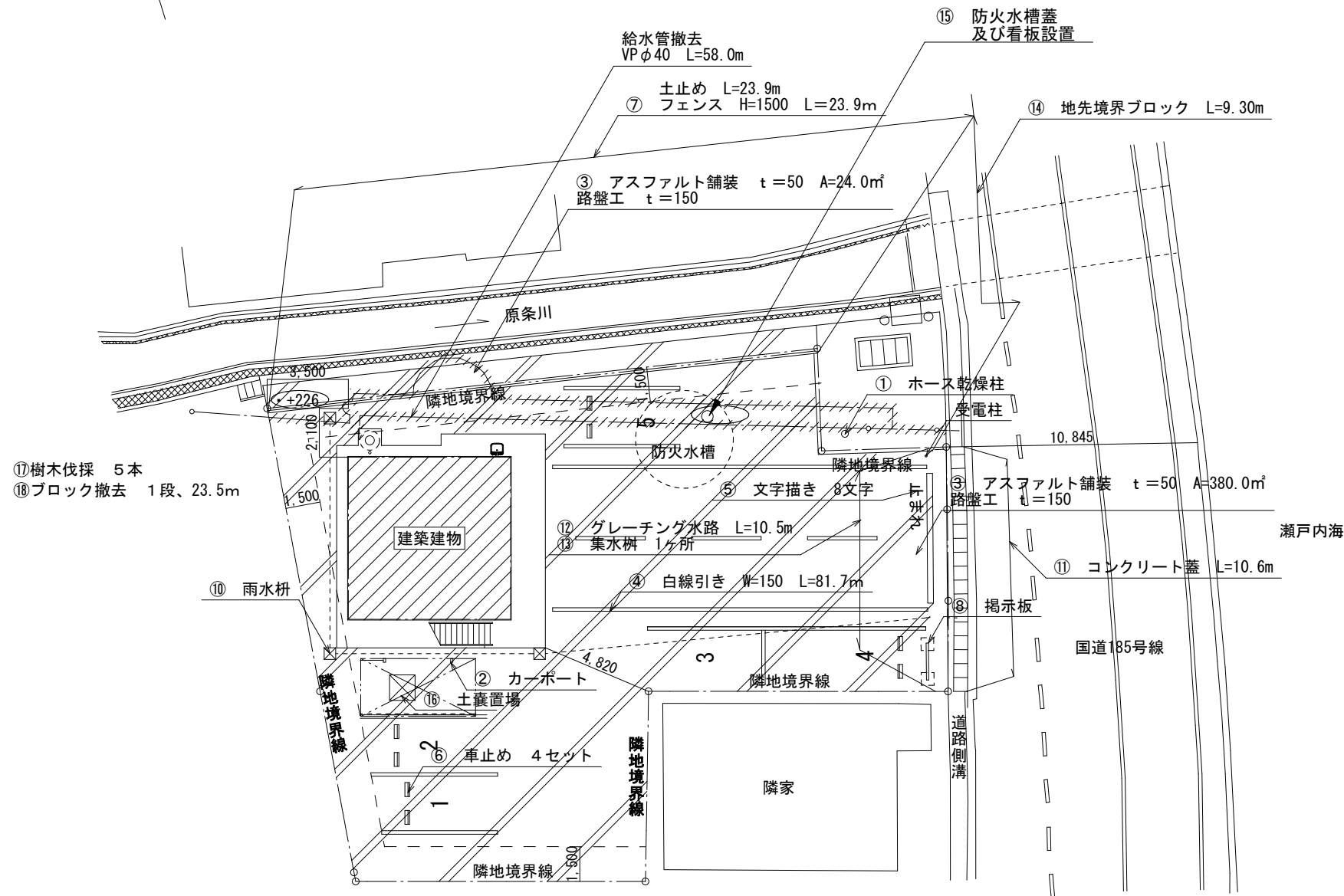


1階 車庫 ホース棚 姿図 S=1/40

備考

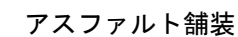
附属品	: B棚～ホース受パイプ及び側受 (2段目のみ・H84) 、支柱上部カバー
床固定	: 床固定 (M8 : SUS)
棚構造	: 支柱・連ツナギ・側ツナギによるブレースを用いないボルトレスフレーム構造
棚板奥行	: 450mm
段替ピッチ	: 50mm (ホース受パイプヶ所のみ)
支柱形状	: C-55×50x10 (複柱式)
棚板耐荷重	: 450kg/段 (等分布荷重)
ホース受パイプ耐荷重	: 200kg/段 (等分布荷重)
塗装色	: ホワイト系色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: IS09001 及び IS014001 認証取得工場

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築 設計 事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.	DR.	NAME	A	
						(車庫) 中量棚、ホース棚 配置図、姿図	26	



外構一覽表

番号	工事名	数量	単位
1	ホース乾燥柱	1	台
2	カーポート	1	ヶ所
3	アスファルト舗装	404.0	m ²
4	白線引き	81.7	m
5	文字描き	8	文字
6	車止め	4	セット
7	フェンス・土止め	23.9	m
8	掲示板	1	台
10	雨水樹	2	ヶ所
11	コンクリート蓋	10.6	m
12	グレーチング水路	105	m
13	集水樹	1	ヶ所
14	地先境界ブロック	9.3	m
15	防火水槽蓋及び看板	1	ヶ所
16	土嚢置場（パレット）	1	ヶ所
17	樹木伐採	5	本
18	ブロック撤去	1 23.5	段 m

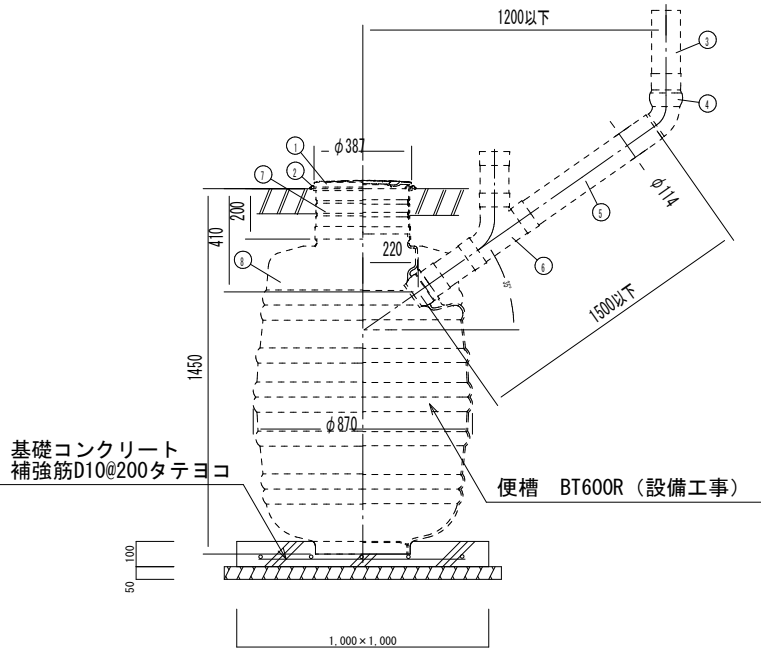


特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. A 27	図面縮小率
			CH.	CH.	DR.		2025.01.		須波分団屯所建設工事
							NAME		(外構) 配置図

(外構) ① ホース乾燥柱 取付詳細図 S=1/50



便槽設置 詳細図 S=1/30



便槽設置 断面詳細図 (参考図) S=1/30

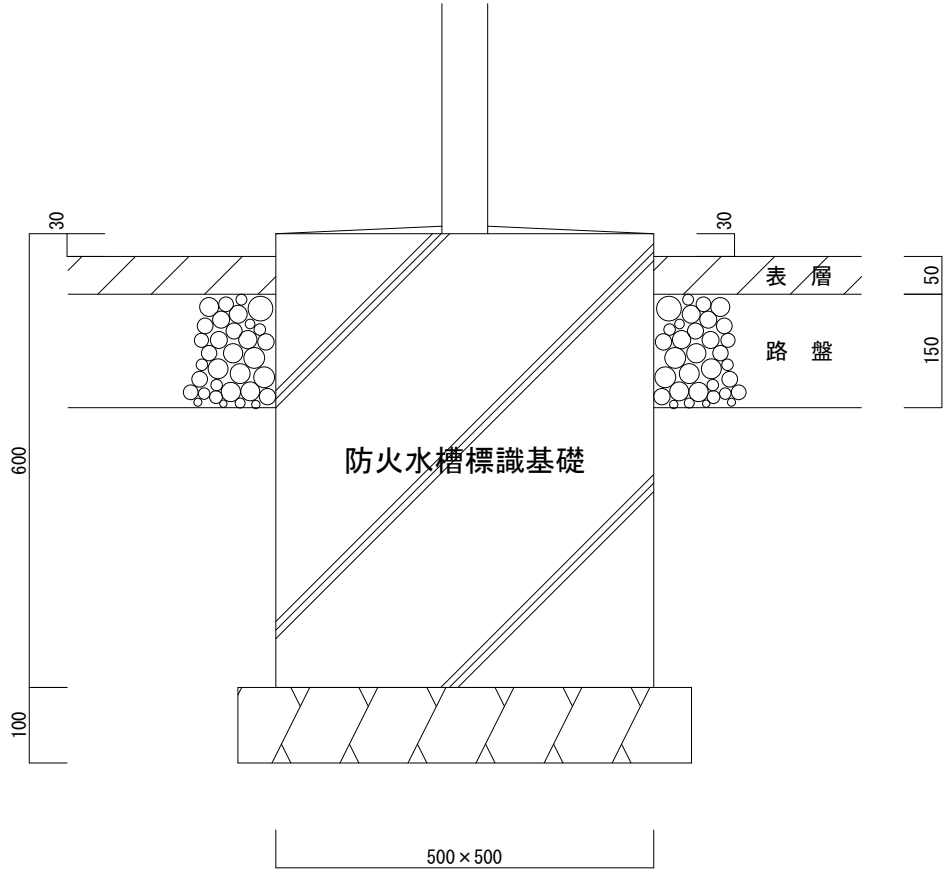
※便槽設置工事においては簡易矢板打ちを行う。
※埋戻しはA種とする (水締め、機器による締固め)
※品番はL I X I Lを示す (同等品以上)

部品構成表

No.	部 品 名	材 質	個数	備 考
1	マンホール	P-P	1	
2	マンホール枠	P-P	1	
3	導入パイプ (300mm)	P-V-C	1	φ107×φ114
4	自在エルボ	P-V-C	1	
5	導入パイプ (650mm)	P-V-C	1	φ107×φ114
6	導入チーズ	P-V-C	1	(キャップ付)
7	マンホールアダプター	P-V-C	1	*注1
8	縦型便槽	P-V-C	1	

*注1: 同梱品に加え、マンホールアダプター (別売、BT-14R) を1個継足し可

防火水槽標識基礎 詳細図 S=1/10



特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号
岡田 建築設計事務所
一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB NO.	DATE
CH.	2025. 01.
CH.	DR.

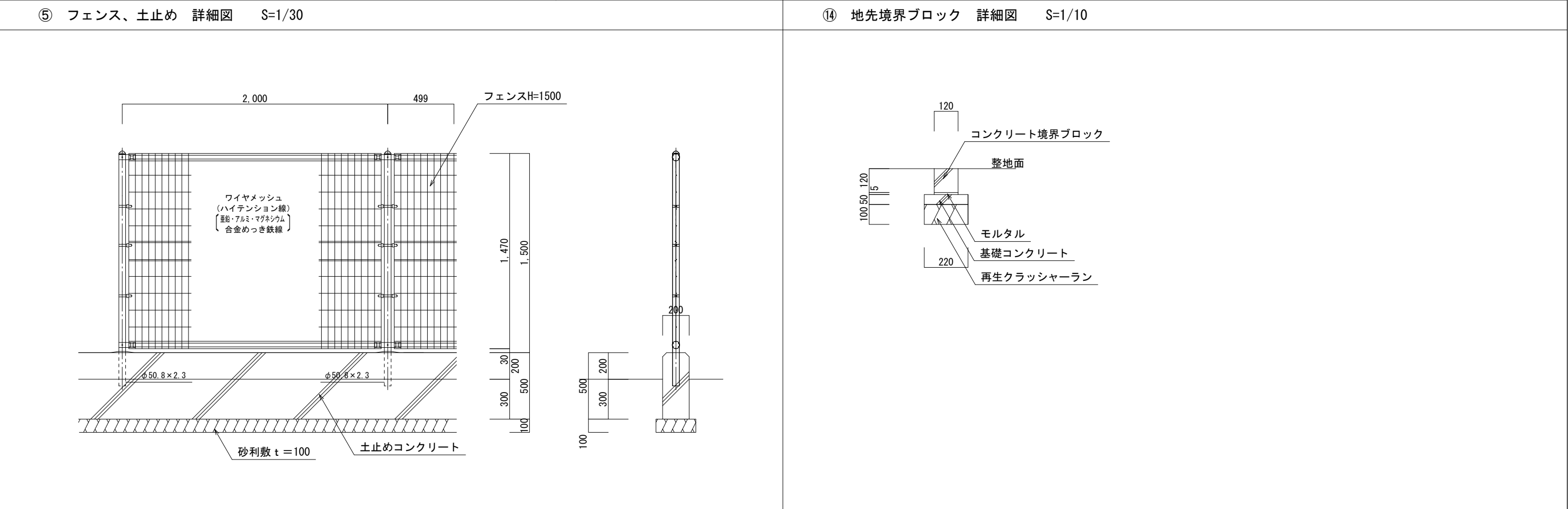
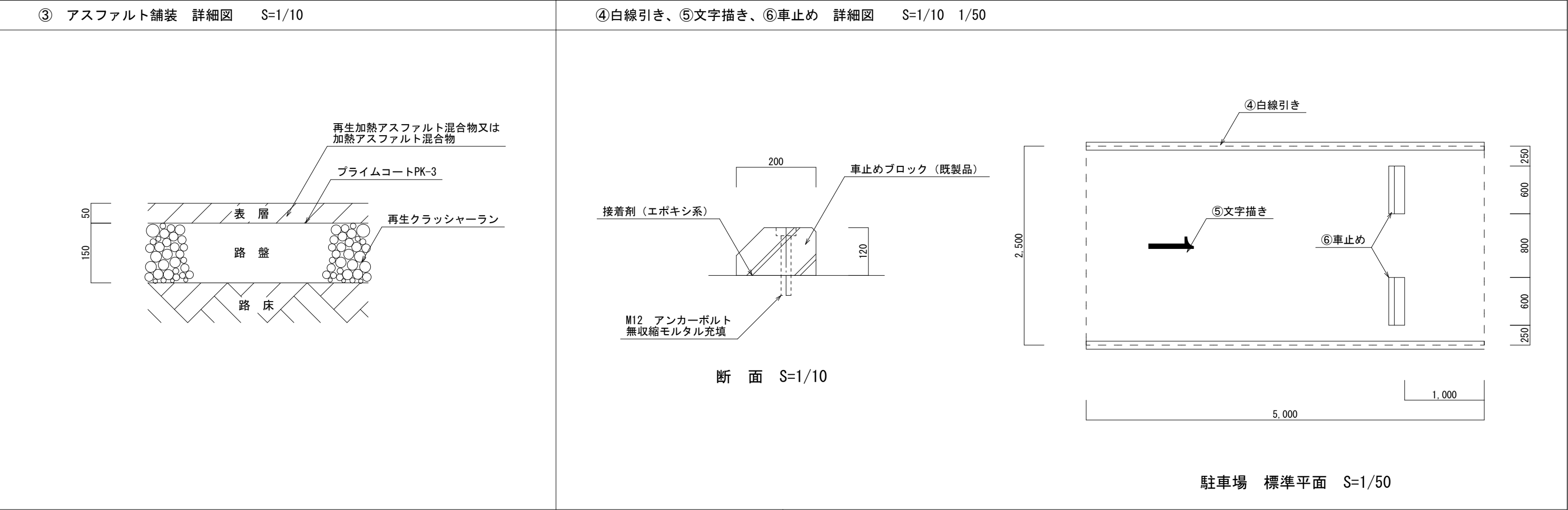
SCALE
1/50
1/30
1/10

TITLE
須波分団屯所建設工事
NAME
(外構) ① ホース乾燥柱 取付詳細図 便槽設置、防火水槽標識基礎 詳細図

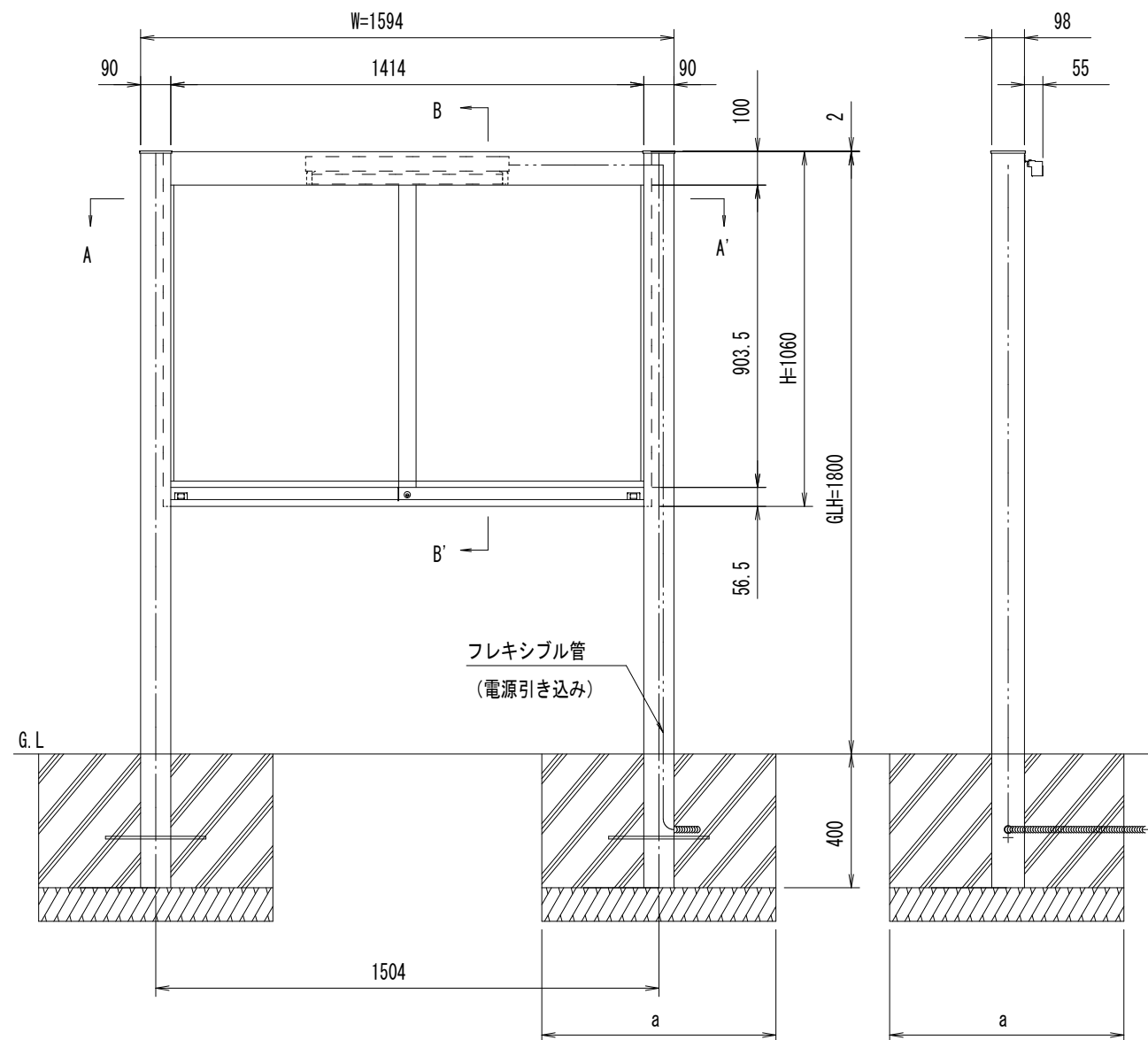
NO.
A
28

図面縮小率
A-3 : 100%
A-4 : 71%

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. A 29	図面縮小率	
			CH.	CH.	DR.		1/100 1/10		須波分団屯所建設工事	A-3 : 100%
							NAME		(外構) ②カーポート詳細図	A-4 : 71%



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/10 1/30 1/20	TITLE	NO. A 30	図面縮小率			
			CH.	CH.	2025. 01.		DR.		須波分団屯所建設工事	A-3 : 100%		
										NAME	(外構) 外構図 (1)	A-4 : 71%



※有効W, 有効Hは掲示可能寸法を示す。

本体・支柱：アルミ押出し形材 クリアー付 重量：41kg
色 調：S L C（サンシルバー），B D（ダークブロンズ）
掲示ボード：マグネットボード（ホホワイト）3mm
（マグネット付）
照 明：L E D（自動点滅器付）AC100V
保 護 板：強化ガラス 5mm
錠 前：プッシュ錠 キー付

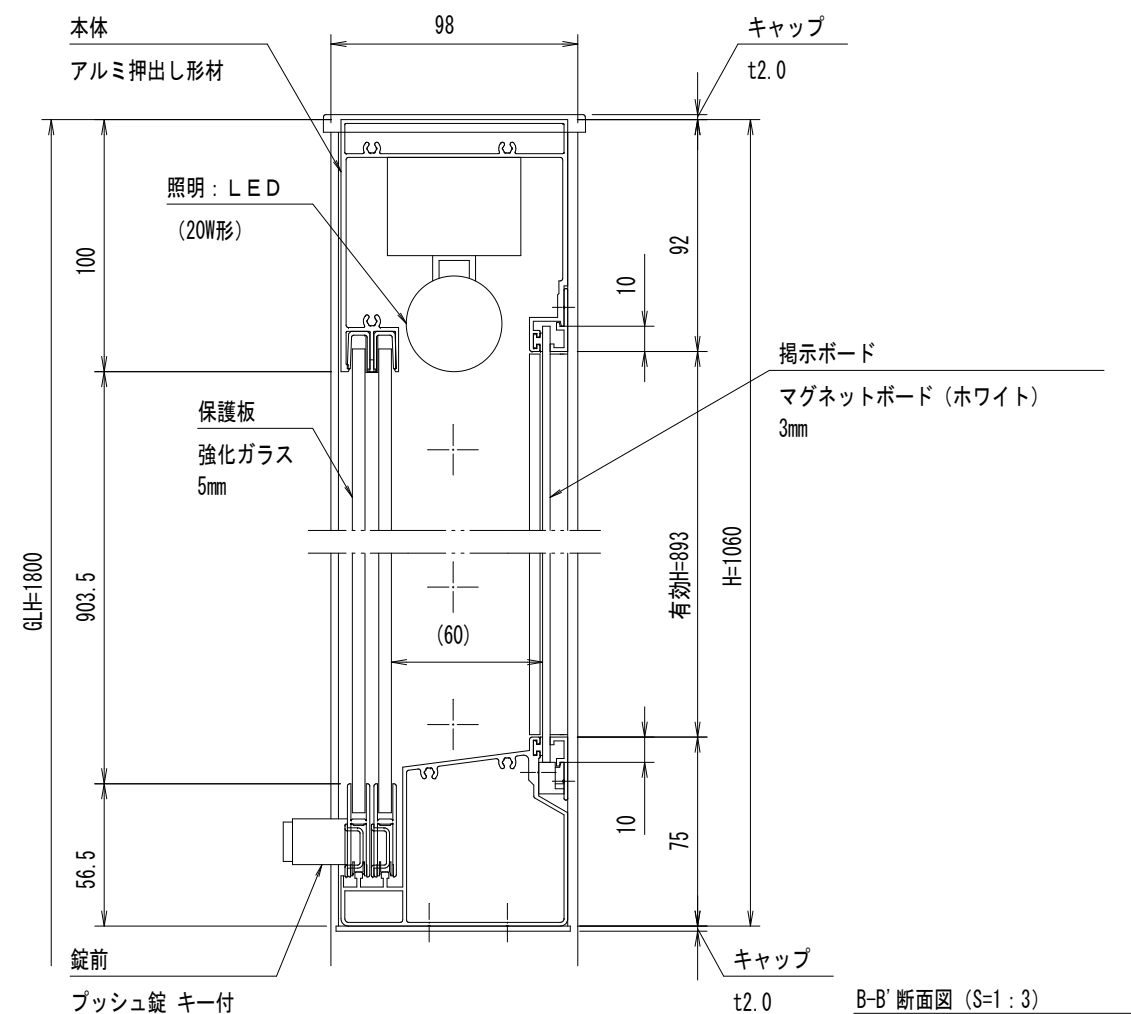
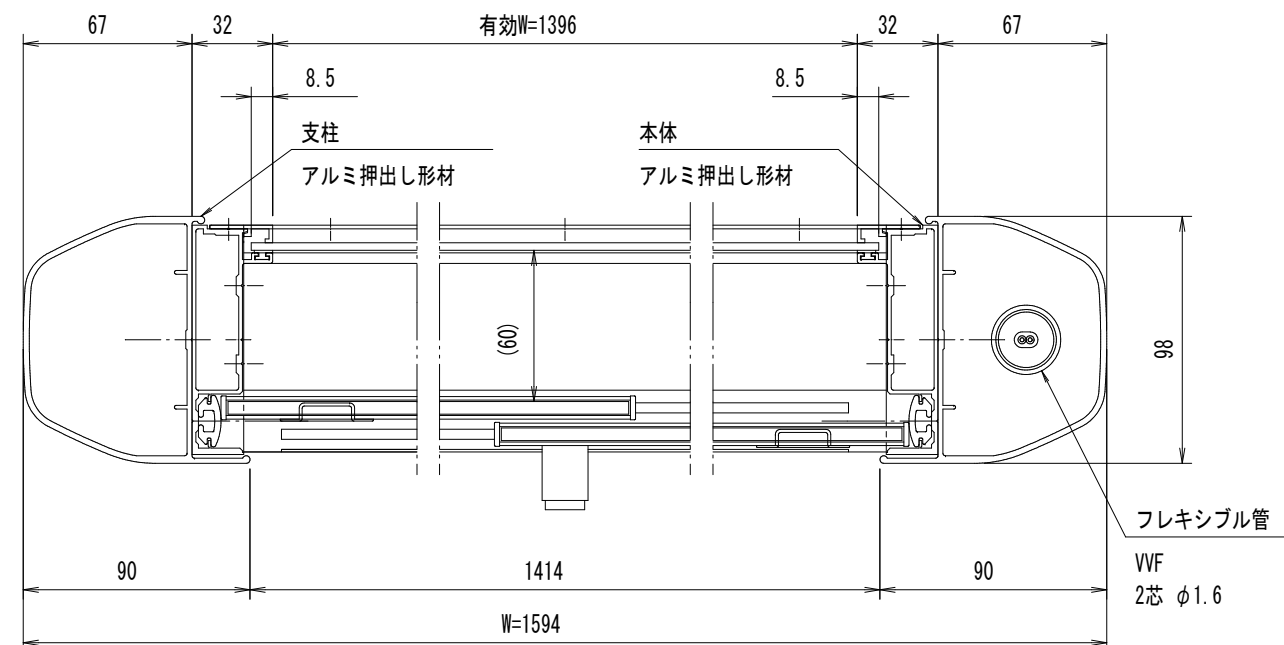
※一次電源は、向かって右側の支柱から引き込み。

PKA-H-1510-S（楨カシイ 同等品）

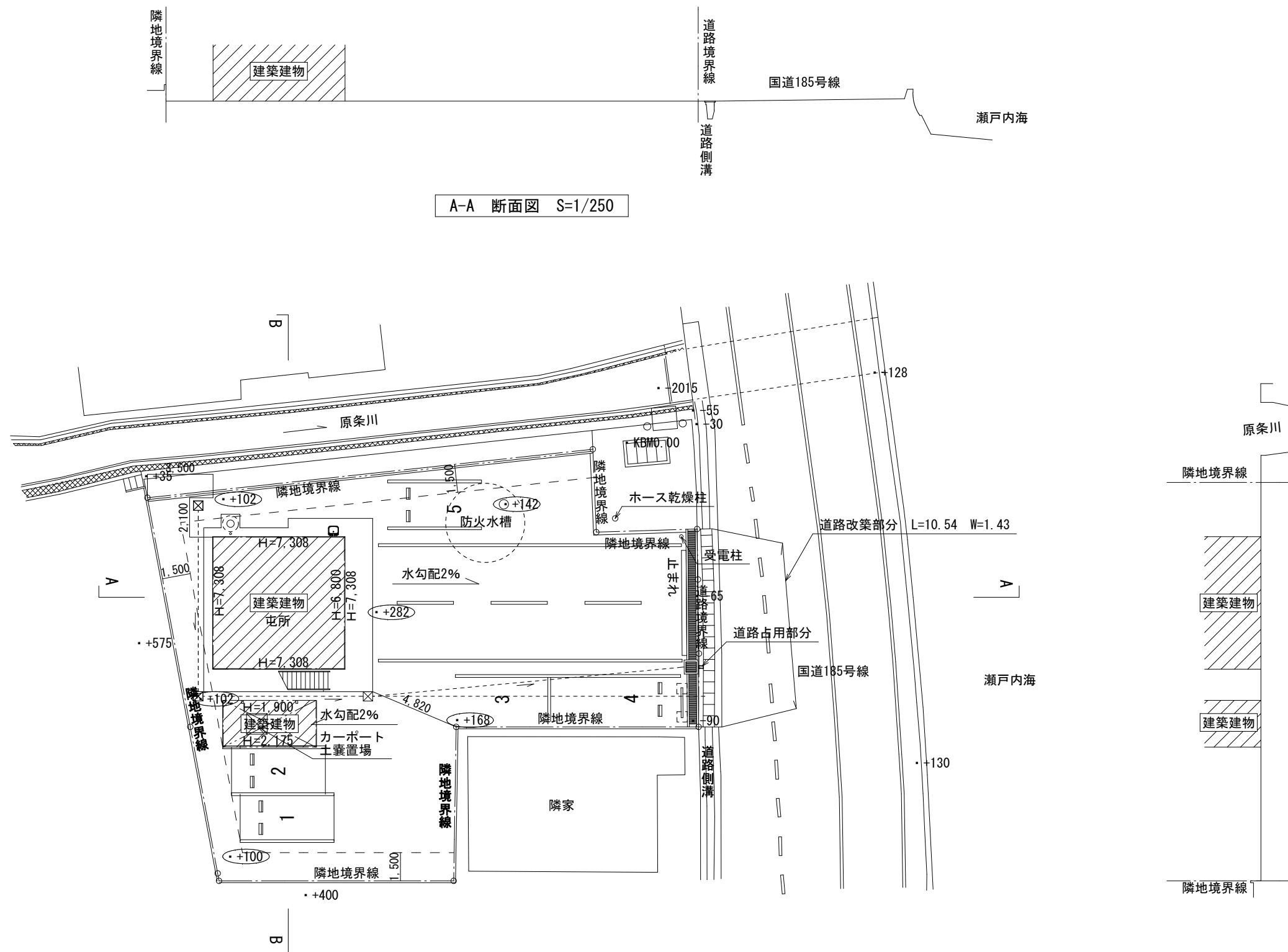
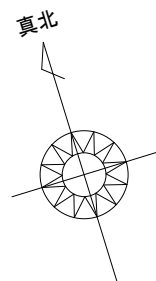
基礎寸法 a

基準風速 Vo (m/s)	地耐力 (kN/m ²)	
	50	100
30	550	450
32	600	450
34	600	500
36	650	500
38	700	550

⑨ 掲示板 詳細図 S=1/20



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO. A 31	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.	DR.	NAME		



A-A 断面図 S=1/250

配置図 S=1/250

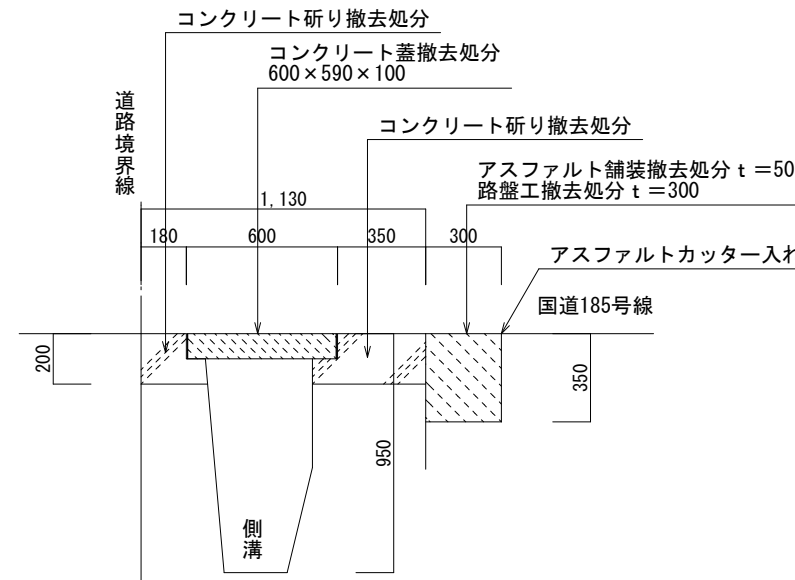
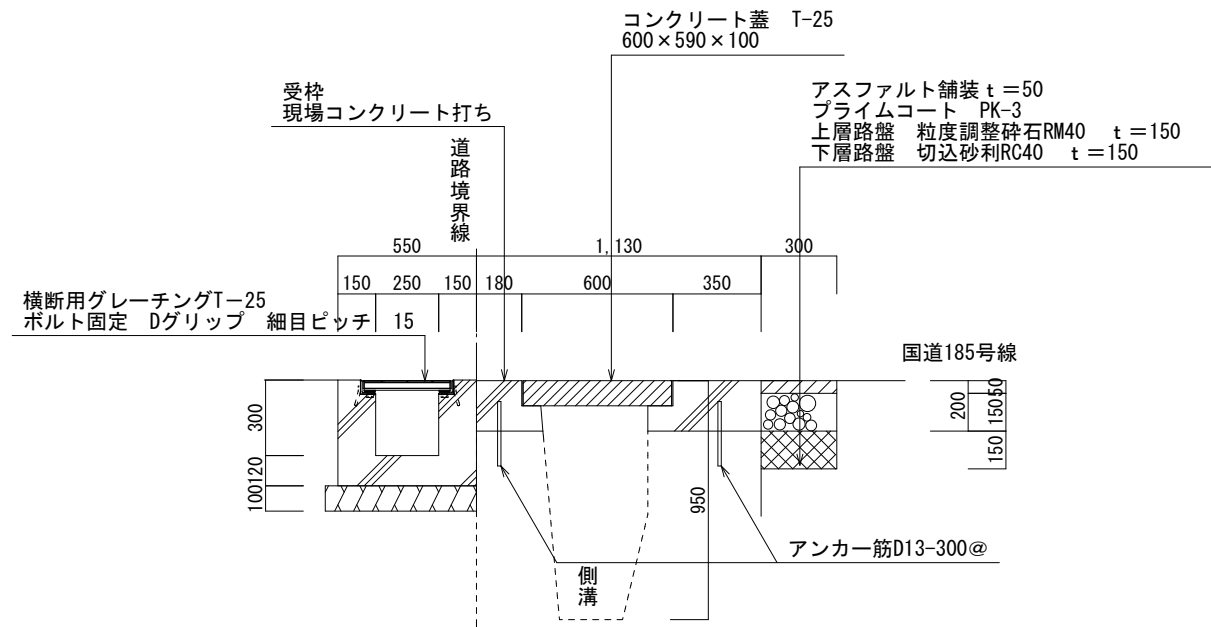
凡例

○ 計画高を示す

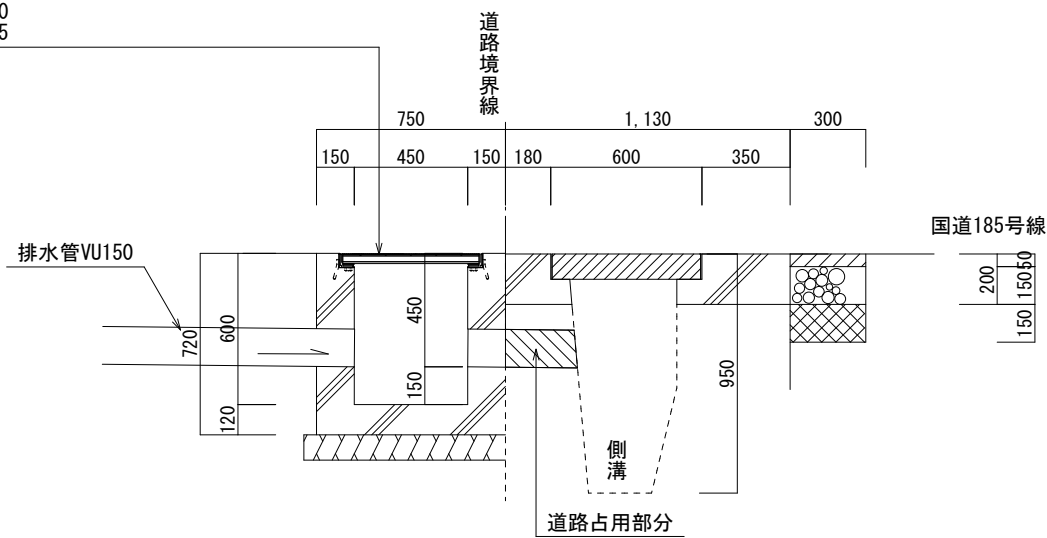
設計 GL±0=+282 とする

B-B 断面図 S=1/250

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO. DATE 2025. 01.	CH.	CH.	DR.	SCALE 1/250	TITLE 須波分団屯所建設工事	NO. A 32	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
								NAME (道路改築) 配置図		



ますふた 落し込式ザラザラ細目 ボルト固定 平ゴム付
ます穴寸法450×450
552×550×60 T-25



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE 2025. 01.	SCALE 1/30	TITLE 須波分団屯所建設工事	NO. A 33	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.		NAME （道路改築）道路側溝、集水枒 詳細図		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値

丸鋼では径

D・・・部材の成

R・・・直径

◎・・・間隔

r・・・半径

CL・・・中心線

○・・・部材間の内法距離

h・・・部材間の内法高さ

ST・・・あばら筋

HOOP・・・帯筋

S.HOOP・・・補強帯筋

φ・・・直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

鉄筋末端部（d：鉄筋の公称直径）				
鉄筋の折曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋の折曲げのり寸法(D)	鉄筋の余長
180°		SD295A SD295B	D16以下 3d以上	4d以上
135°		SD345	D19～D38 4d以上	6d以上
90°		SD390	5d以上	8d以上

(1) 折曲げ角度90°は、スラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT型およびL型ばりに用いるU字形あばら筋と対のキャプタイのみ用いる。

(2) 片持スラブの上端の先端、壁の自由端に用いる先端の余長は4d以上でよい。

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状

鉄筋中間部（d：鉄筋の公称直径）				
鉄筋の折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分
90°以下		あばら筋 帯スパイラル筋	SD295A・B SD345	D16以下 3d以上
			SD295A・B SD345 SD390	D19以上 4d以上
		上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16以下 4d以上
			SD295A・B SD345 SD390	D19～D25 6d以上
			SD295A・B SD345 SD390	D29～D41 8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm2)	定着長さ		重ね継手の長さ	梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さLa※2	小梁及びスラブの折曲げ定着の投影定着長さLb※3
		一般	下端筋			
SD295A SD295B	18	40dまたは30dフックつき		45dまたは35dフックつき	20d	15d
	21	35dまたは25dフックつき		40dまたは30dフックつき	15d	15d
	24～27	30dまたは20dフックつき		35dまたは25dフックつき	15d	15d
	30～36	30dまたは20dフックつき		35dまたは25dフックつき	15d	15d
SD345	18	40dまたは30dフックつき	※1 20dまたは10dフックつき	50dまたは35dフックつき	20d	20d
	21	35dまたは25dフックつき	※1 10dかつ15cm以上	45dまたは30dフックつき	20d	20d
	24～27	35dまたは25dフックつき		40dまたは30dフックつき	20d	15d
	30～36	30dまたは20dフックつき		35dまたは25dフックつき	15d	15d
SD390	21	40dまたは30dフックつき		50dまたは35dフックつき	20d	20d
	24～27	40dまたは30dフックつき		45dまたは35dフックつき	20d	20d
	30～36	35dまたは25dフックつき		40dまたは30dフックつき	20d	15d

※1 片持ち小梁・片持ちスラブの下端筋を直線定着とする場合は、25da以上とする。

※2 基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。

※3 片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。

3. 仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の長さが、フック付き定着長さ(L2h)を確保できない場合は、全長を直線定着長さ(L2)とし、かつ、余長を8d、投影定着長さをLa（かつ原則として柱せいの3/4倍以上）またはLbのみ込ませる。

4. 継手一般

1. ガス圧接形状

2. 重ね継手

3. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接とはならない。

4. 場所打ちコンクリート杭の軸鉄筋を除き、原則としてD29以上の鉄筋は重ね継手としてはならない。(D35以上は必ず溶接継手等による)

5. ガス圧接継手の仕様は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」、突合せ溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

5. 杭

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	

但し、φφの場合（止まり位置の影響をあらかじめ設計上考慮されている場合に限り）
φ>φの場合は工事監理者の指示による

杭径	300φ, 350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@100				

(2) 現場打ちコンクリート杭

3. 杭

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	

但し、φφの場合（止まり位置の影響をあらかじめ設計上考慮されている場合に限り）
φ>φの場合は工事監理者の指示による

杭径	300φ, 350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@100				

(2) 現場打ちコンクリート杭

4. 基礎

(1) 直接基礎

a. 独立基礎

b. 連続基礎

c. べた基礎

基礎梁との定着

(2) 杭基礎

(3) 場所打ち杭

(4) 基礎接合部の補強

5. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合

(2) 布基礎、べた基礎の場合

6. 柱

(1) 柱主筋の継手

(2) 柱主筋の定着

(3) 帯筋

(4) 斜め柱・斜め梁

(5) 絞リ

(6) 二段筋の保持

特記事項

訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録22 (01) 0497号

岡田 建築設計事務所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB NO.

DATE

2025. 01.

CH.

CH.

DR.

SCALE

1/-

TITLE

須波分団屯所建設工事

NAME

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

NO.

S

02

図面縮小率

A-3 : 100%

A-4 : 71%

鉄 骨 構 造 標 準 図

１．一般事項

(１) 材料及び検査

- (a) 構造設計特記仕様による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

(２) 工作一般

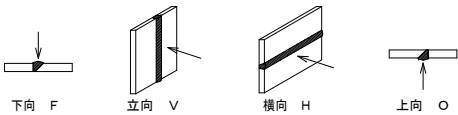
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
(c) 高強度鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

(３) 高力ボルト接合

- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、 $50\mu\text{mRz}$ 以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

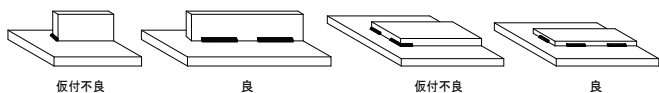
(４) 溶接接合

- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJIZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機 (直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
(d) 溶接方法
アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアガウジング (AAG)
(e) 溶接姿勢

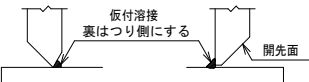


- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付位置

組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する

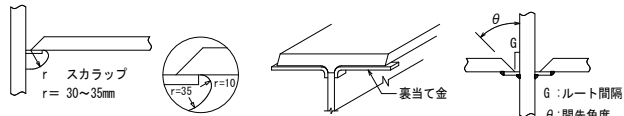


(g) 溶接施工

(イ) エンドタブ

- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
II エンドタブの材質は、母材と同質とする
III エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする
IV プレス鋼板タブ、図形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
(ロ) 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
(ハ) スクラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする
但し梁端が $R=150\text{mm}$ 未満の場合のスクラップは $r=20\text{mm}$ とする

(ニ) ノンスクラップ工法



- (ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

(５) 塗装

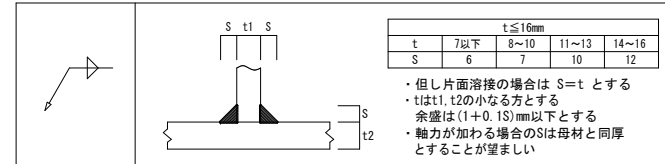
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

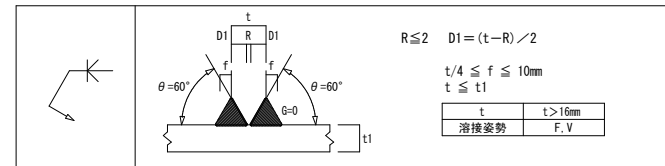
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長

(単位mm)

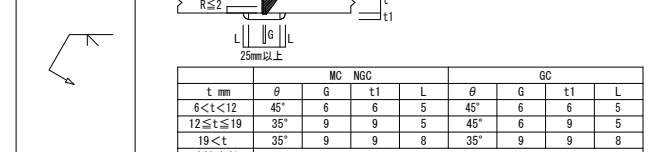
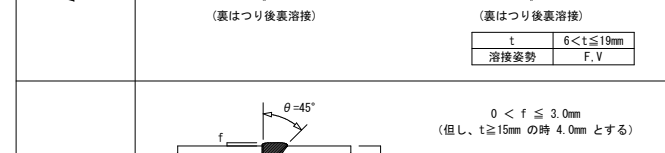
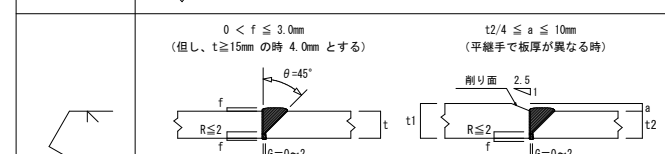
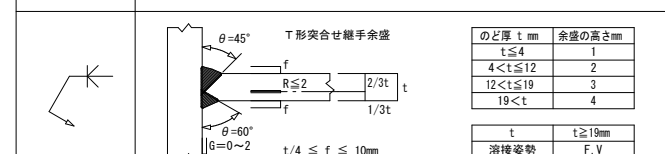
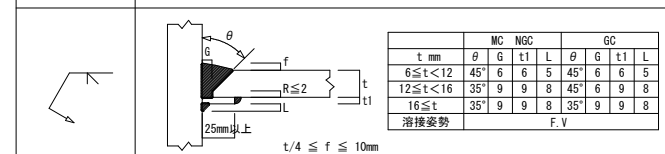
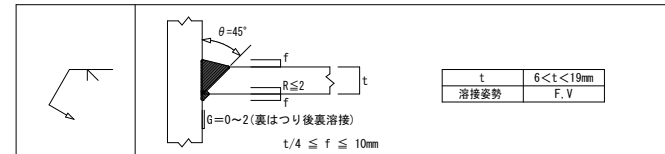
(１) 隅肉溶接



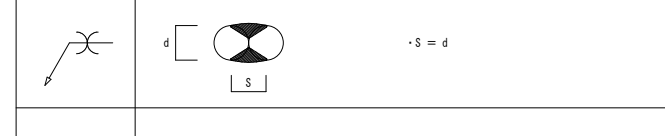
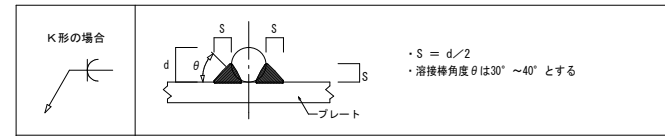
(２) 部分溶け込み溶接 (使用箇所)に注意)



(３) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)



(４) フレー溶接



３．継手規準図

(１) ボルトピッチ (P)

呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

- (注) (１) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(２) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(３) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(３) 梁剛接合継手リスト

符号	部 材 (SS400)	継 手 タ イ プ	ボ ル ト 編 号	ゲ ー ジ 寸 法		ボルト本数				添え板寸法 (mm)			
						フランジ		ウェブ		フランジ		ウェブ	
										外 側 板	内 側 板		
				g1 mm	g2 mm	g3 mm	配 列 (n)	本 数 (nxx)	配 列 (n)	本 数 (nxx)	PL-t1×W1×L1	2PL-t2×W2×L1	2PL-t3×W3×L3
	※部材リスト参照	ブ											

(４) プレースリスト (※隅肉サイズは、下記の寸法を採用する事。)

サイズ	厚さ mm	必要幅(B) mm	ボルト	隅肉サイズ(S)
※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照

径	穴径	p	e
M16	18.0	60	40
M20	22.0	60	40
M22	24.0	60	40

４．その他

(１) 摩擦面の処理 (トルシア形、JIS形高力ボルト接合)

- a) すべり係数が0.45以上確保できる摩擦面の処理方法は下記の方法とする。
① グラインダー等により、スライスプレート全面の範囲について、まくれ、黒皮等を除去した後、屋外に放置して一様にさびを発生させる。
② ショットブラスト又はグリッドブラストで処理し、あらさを $50\mu\text{mRz}$ 以上確保できた場合には、赤さびは発生しなくてもよい。
(４) 溶接材料
鋼材を溶接する場合においては、溶接される鋼材の種類に応じ、下表に定める溶着金属としての性能を有する溶接材料を使用しなければならない。
b) 摩擦面及び座金の接する面の浮きさび・じんあい・油・塗装・スパッタ等は取り除く。また、摩擦面にはクランプきず等凹凸があってはならない。
c) 板厚6mm未満の軽量鉄骨で、すべり係数を0.45/2としているものは、黒皮のままとしよ。なお浮いた黒皮は取り除く。
d) すべり係数試験・すべり耐力試験を行う場合は、特記による。

(２) 摩擦面の処理 (溶融亜鉛めっき高力ボルト接合)

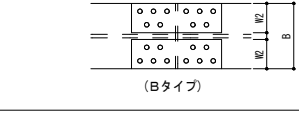
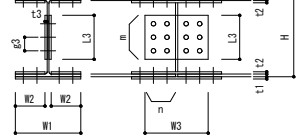
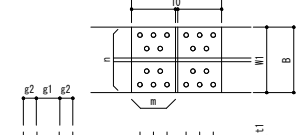
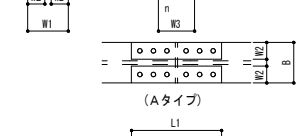
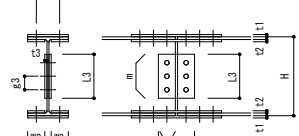
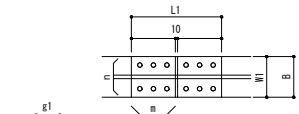
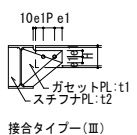
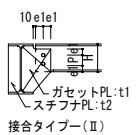
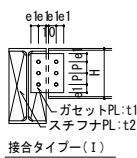
- ① 特記のない場合は、すべり係数値が0.4以上確保できるよう溶融亜鉛めっき後、軽くブラスト処理を施し、表面粗度を $50\mu\text{mRz}$ 以上とする。
② 特記により、摩擦面をりん酸処理する場合は、指定又は認定された条件に基づき、すべり耐力等を確認する。

(３) 溶接

- ・構造耐力上主要な部分の溶接部は、割れ、内部欠陥等の構造耐力上支障のある欠陥がないものとする。
・柱仕口部における梁フランジは、通しダイヤフラムの場合は、ダイヤフラムの板厚の範囲に収まること。
内ダイヤフラムの場合のダイヤフラムと梁フランジのずれ量は、梁フランジ厚さが柱板厚以下の時は梁フランジの1/4かつ5mm以下、梁フランジ厚が柱板厚を超える時には梁フランジの1/5かつ4mm以下とする。
(但し、仕口部の鋼材の長期及び短期に生ずる力に対する各許容応力度に基づき求めた当該部分の耐力以上の耐力を有するよう適切な補強を行った場合はこの限りではない。)
・0.3mmを超えるアンダーカットはあってはならない。但し、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%程度であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さを1mm以下とすることができる。
・突合せ継手の食い違いは、板厚が15mm以下では1.5mm以下、15mmを超える場合は、板厚の1/10以下かつ3mm以下とする。

(２) ピン接合梁継手リスト

符号	タイプ	部 材 (SS400)	ボルト				がセット	スチナ	備考
			H.T.B	e1	p	t1			
※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照	※部材リファ参照



(５) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
○梁端部 (スパンの1/8以内かつ2D以内) は避ける。
○孔径(φ)は0.4D以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。
○梁骨の1/4以下かつ100mm未満は、補強なし。
○補強プレートは板厚が12mmを超える場合は、両面補強とする。

一 般 の 場 合

孔 径	使 用 鋼 管	孔 径	使 用 鋼 管
100φ	φ114.3×4.5	200φ	φ216.3×5.8+PL
125φ	φ139.8×5.0	250φ	φ267.4×6.6+PL
150φ	φ165.2×5.0	300φ	φ318.5×7.9+PL
175φ	φ190.7×5.3		

Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社

耐火補強筋不要仕様

〔耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用〕

Q Lデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、Q Lデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設 計

材料／デッキプレート		[ISO 9001 認証取得]	
デッキプレート種類		板厚 (mm)	表 面 処 理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 ■ハ有リ □無し	□1.0	□亜鉛めっき [□Z12 □Z27] □JFEエポキシ(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他()
			□裏面防錆処理(一次塗装) QL プライマー(P) *1
		■1.2 □1.6	■亜鉛めっき [□Z12 □Z27] ■JFEエポキシ(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他() □無し *2
材 質		JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G	

材料／コンクリート	
種 類	■普通コンクリート
設計基準強度	□18 □21 ■24 □() N/mm ²
厚さ(Q Lデッキ山)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 ■100 □() mm

材料／溶接金網・異形鉄筋	
□溶接金網	JIS G 3351 □φ6-75×75 □φ6-150×150 □φ6-100×100 □()
■異形鉄筋	JIS G 3112, 3117 □D10-150×150 ■D10-200×200 □()

接 合	
梁 と の 接 合	□隅付きスタッド JIS S 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による *4)
	■焼抜き栓溶接 下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鉄 接合箇所は特記による
	□その他

耐 火	
デッキプレート	耐火区分
QL99-50	床1時間
	床2時間
QL99-75	床1時間
	床2時間
その他	□指定なし □() □()

特 記 無 記	
支保工有	□有 □無
支保工有	□有 □無

焼抜き栓溶接
デッキプレート幅方向
QL99-50

QL99-75

デッキプレートスパン方向
「Q Lデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

A w = $\frac{1.5 Q_d}{Q_0} \times 1000 \text{ mm}$ かつ600mm 以下	
A w: 焼抜き栓溶接ピッチ	
Q ₀ : 設計最大せん断力(N/m)	
Q _d : 焼抜き栓溶接1個あたりの長期許容せん断力(N)	
板厚	1.0 1.2 1.6
Q _d (N)	4,000 4,900 7,350 (SPW) 6,860 (APW)
A w = () mm (注) 接合に隅付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。	

■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)		単位 (mm)	
コンクリート厚 (mm)	80	85	90
QL50	1.0 2.28 2.42 2.64	1.0 2.26 2.39 2.61	1.0 2.24 2.37 2.59
	1.2 2.42 2.56 2.78	1.2 2.40 2.53 2.75	1.2 2.38 2.51 2.73
	1.6 3.06 3.24 3.54	1.6 3.03 3.21 3.51	1.6 3.01 3.18 3.47
	2.0 3.66 3.84 4.14	2.0 3.63 3.81 4.11	2.0 3.61 3.78 4.07
QL75	1.0 2.28 2.42 2.64	1.0 2.26 2.39 2.61	1.0 2.24 2.37 2.59
	1.2 2.42 2.56 2.78	1.2 2.40 2.53 2.75	1.2 2.38 2.51 2.73
	1.6 3.06 3.24 3.54	1.6 3.03 3.21 3.51	1.6 3.01 3.18 3.47
	2.0 3.66 3.84 4.14	2.0 3.63 3.81 4.11	2.0 3.61 3.78 4.07

注1: 普通コンクリート(単位重量24(N/m³))、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2: ①数値は表面処理が亜鉛めっきまたは塗装品の許容スパンを示す。注3: 上表を超える場合、別途支保工が必要。
S造・施工時のスパンの取り方

【単続支持】		【連続支持】	
スパン		スパン	スパン

耐 火 仕 様

○共通事項 支持梁・鉄骨梁、コンクリート・設計基準強度18~36 N/mm²の普通コンクリート
溶接金網(JIS G 3351)又は異形鉄筋(JIS G 3112, G 3117) 寸法は下表参照
耐火補強筋: 不要

【QL99-50】	
認定番号 [FP060FL-0100 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-50-10	単続支持
QL99-50-12	連続支持
QL99-50-16	連続支持
支持スパン	コンクリート厚さ
2,700mm 以下	80mm 以上
許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋
5,400N/m 以下	縦径6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鉄(φ4.5) 隅付きスタッド(φ13以上)

【QL99-75】	
認定番号 [FP060FL-0102 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単続支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	コンクリート厚さ
3,000mm 以下	80mm 以上
許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋
5,400N/m 以下	縦径6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鉄(φ4.5) 隅付きスタッド(φ13以上)

【FP060FL-0099 (床1時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単続支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	コンクリート厚さ
3,400mm 以下	80~100mm
許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋
3,500N/m 以下	縦径6mm以上・150×150mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	隅付きスタッド(φ13以上)

【FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	
デッキプレート品名	支持形式
QL99-75-10	単続支持
QL99-75-12	連続支持
QL99-75-16	連続支持
支持スパン	コンクリート厚さ
2,500mm 以下	90mm 以上
許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋
6,000N/m 以下	縦径6mm以上・100×100mm以下 D10以上・200×200mm以下
梁との接合(図)	隅付きスタッド(φ13以上)

アクセサリ	
フラッシング	クローサー
ハンガー金具	

施

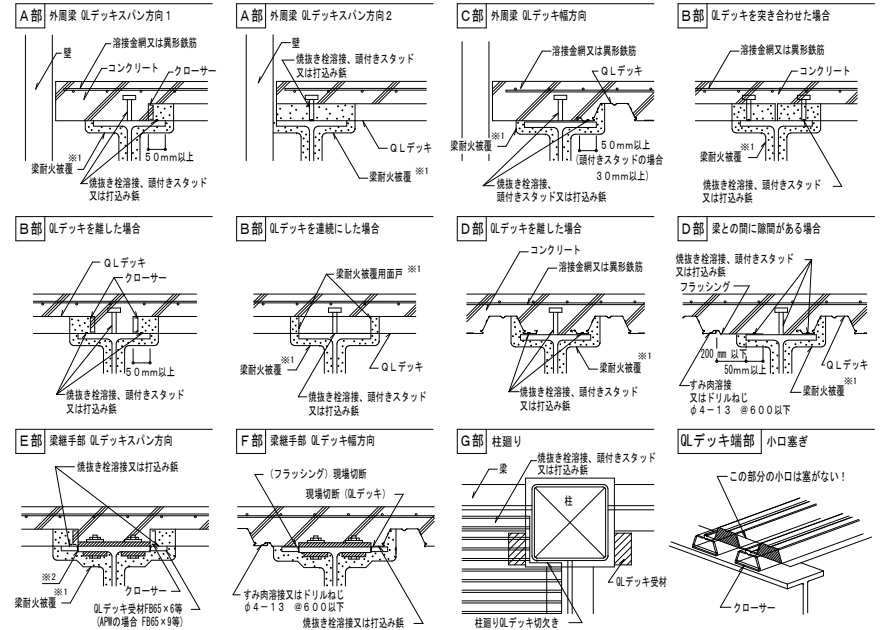
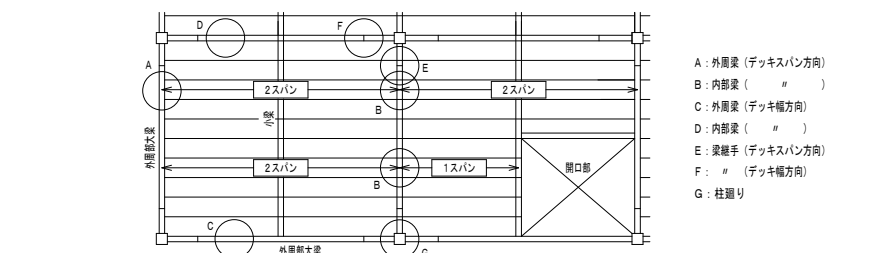
施工順序		敷 込 み	
1) 隅付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	隅付きスタッド 打込み鉄 焼抜き栓溶接	鉄骨梁の場合 1) 隅付きスタッドに1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が来るように敷込む。	デッキプレート幅方向の隅部は、50mm以上あることを確認する。 (隅付きスタッドの場合は30mm以上) 3) デッキプレート長手方向の大梁の隅部は、50mm以上あることを確認する。

工

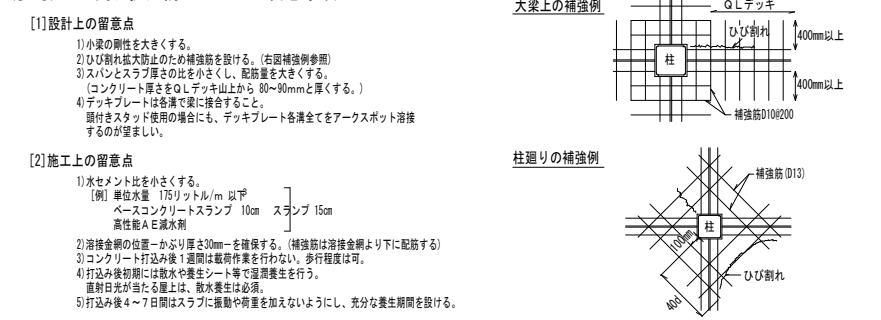
施工順序		敷 込 み	
1) 隅付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	隅付きスタッド 打込み鉄 焼抜き栓溶接	鉄骨梁の場合 1) 隅付きスタッドに1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が来るように敷込む。	デッキプレート幅方向の隅部は、50mm以上あることを確認する。 (隅付きスタッドの場合は30mm以上) 3) デッキプレート長手方向の大梁の隅部は、50mm以上あることを確認する。

標 準 納 ま り

支持梁: 鉄骨梁



(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

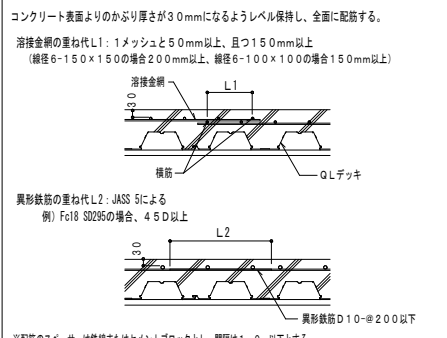


デッキプレートと梁との接合

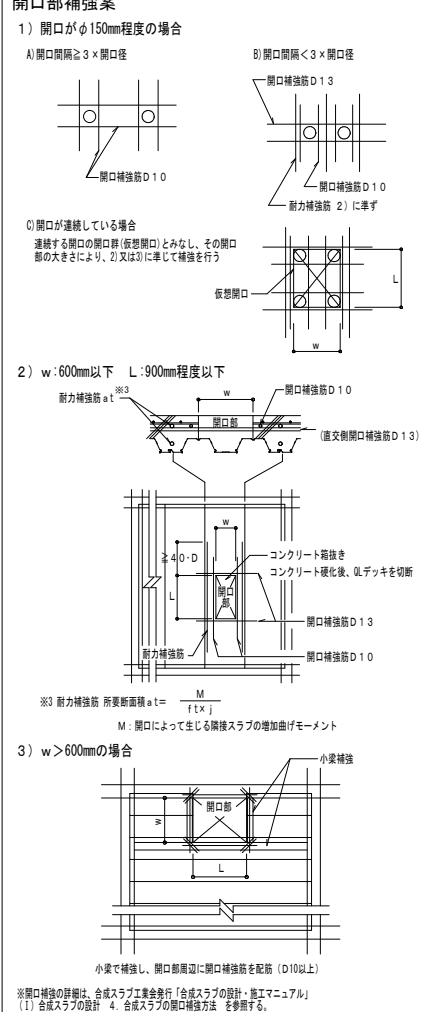
焼抜き栓溶接 [SPW]		自動焼抜き栓溶接 [A.P.W.]	
1) 隅付きスタッド	2) 打込み鉄	3) 焼抜き栓溶接	
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	施工は打込み板設置業者の施工要領による。	施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	
デッキプレートと梁とのアークスポット溶接等で接合する。	施工は打込み板設置業者の施工要領による。	施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	
		施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	

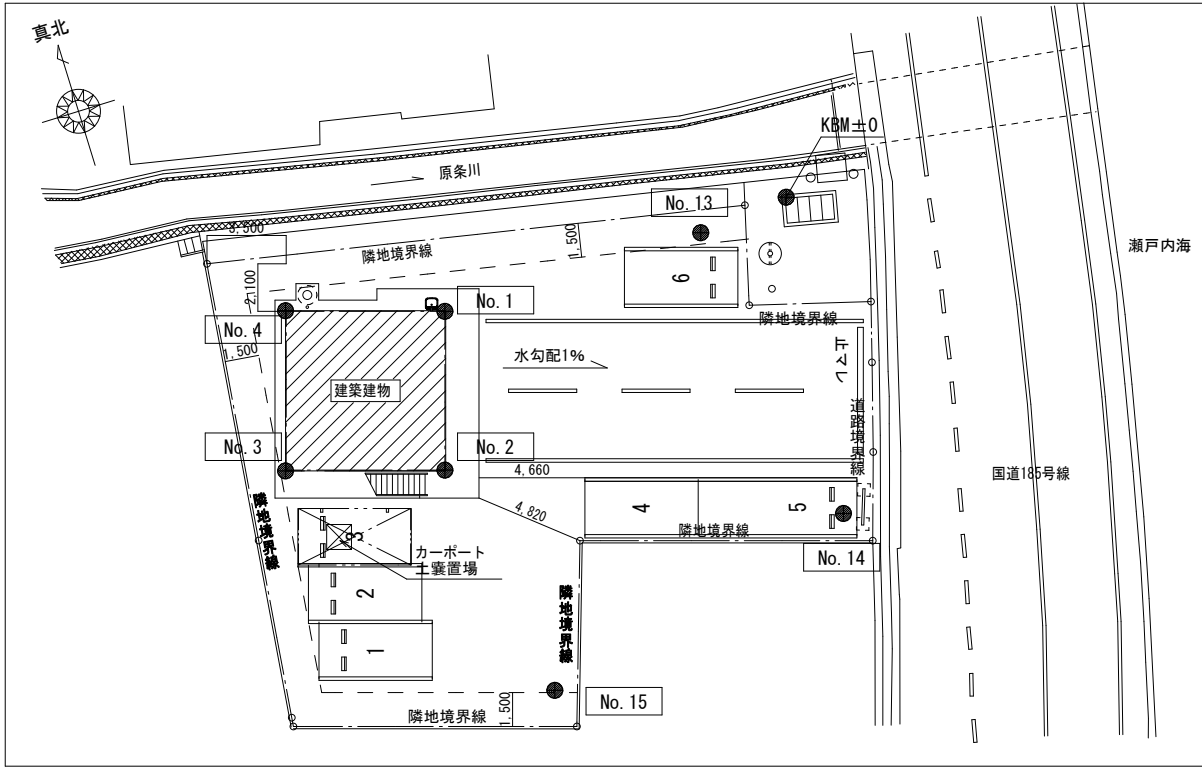
自動焼抜き栓溶接 [A.P.W.]		自動焼抜き栓溶接 [A.P.W.]	
1) 隅付きスタッド	2) 打込み鉄	3) 焼抜き栓溶接	
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	施工は打込み板設置業者の施工要領による。	施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	
デッキプレートと梁とのアークスポット溶接等で接合する。	施工は打込み板設置業者の施工要領による。	施工は、JASS6「鉄骨工事」による。	

スラブの配筋



開口部補強案





地盤調査位置図

調査場所					広島県三原市須波1丁目3-1		測点番号		01		
標高		KBM -0.01 m		最終貫入深さ		0.54 m		調査年月日		2024年07月17日	
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS	
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事 音・感触 貫入状況 土質		推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8	---	打撃	砂質土			2.5	34.8
1.00	30	0.50	25	120	h' y'h' y	打撃	砂質土			10.0	102.0
1.00	81	0.54	4	2025	h' y'h' y	空転	砂質土			137.6	>120

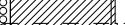
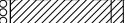
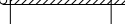
調査場所		広島県三原市須波1丁目3-1				測点番号		02				
標高		KBM +0.02 m		最終貫入深さ		0.53 m		調査年月日		2024年07月17日		
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS		
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事 音・感触 貫入状況 土質		推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25, 50, 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250		換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	6	0.25	25	24			砂質土				3.6	44.4
1.00	84	0.50	25	336	h' y'h' y	打撃	砂質土				24.5	>120
1.00	55	0.53	3	1833	h' y'h' y	モーメント多	砂質土				124.8	>120

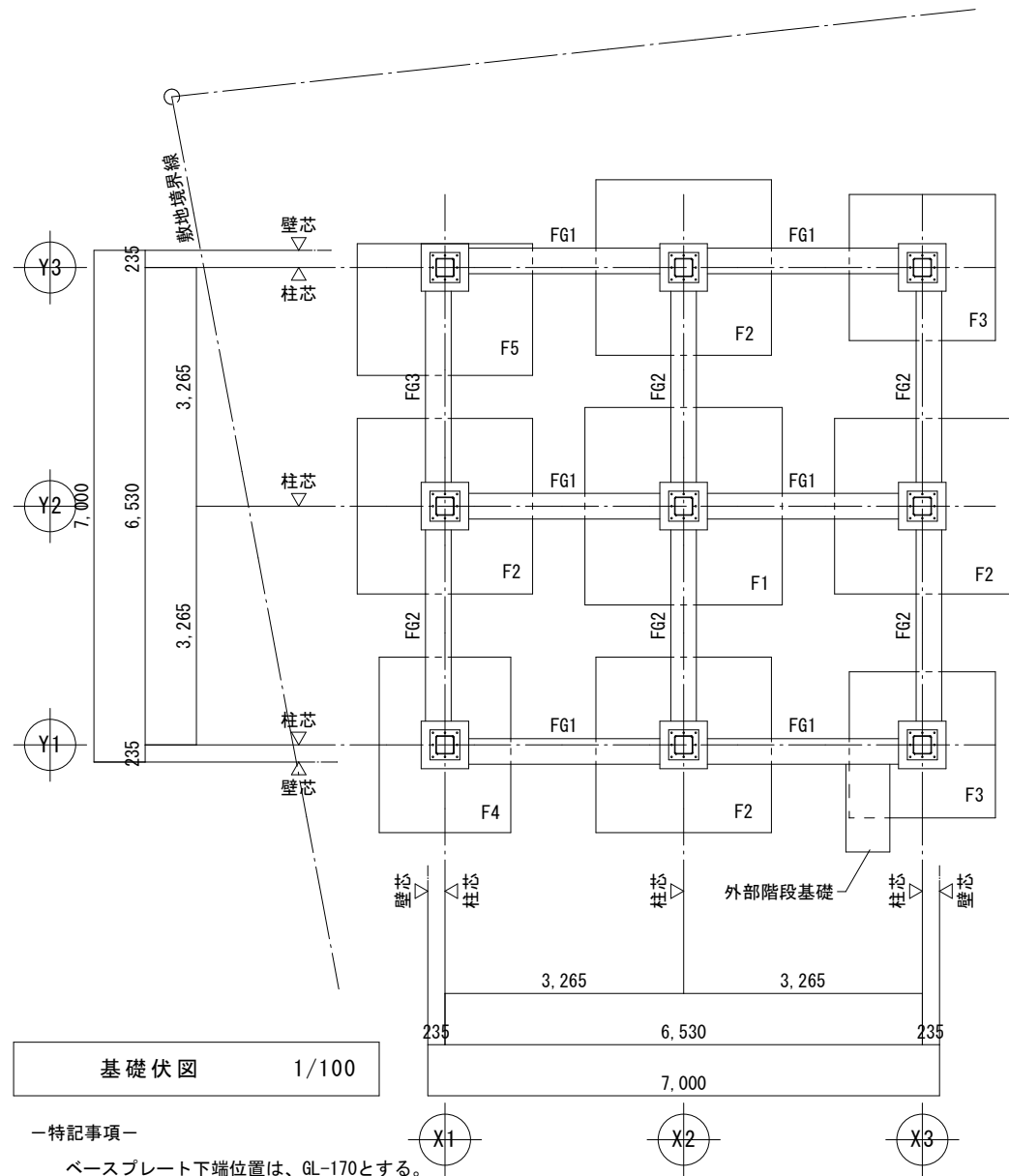
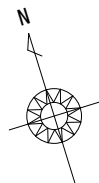
調査場所					広島県三原市須波1丁目3-1		測点番号		03		
標高		KBM -0.05 m		最終貫入深さ		0.52 m		調査年月日		2024年07月17日	
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS	
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事 音・感触 貫入状況 土質		推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8			砂質土			2.5	34.8
1.00	42	0.50	25	168	h' y'h' y	打撃	砂質土			13.2	>120
1.00	57	0.52	2	2850	h' y'h' y	モーメントで	砂質土			192.9	>120

調査場所					広島県三原市須波1丁目3-1		測点番号		04		
標高		KBM -0.01 m		最終貫入深さ		0.51 m		調査年月日		2024年07月17日	
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS	
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事		推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8	音・感触	貫入状況	土質			2.5	34.8
1.00	28	0.50	25	112	h' y'h' y		砂質土			9.5	97.2
1.00	51	0.52	1	5100	h' y'h' y	空転	砂質土			343.7	>120

調査場所		広島県三原市須波1丁目3-1				測点番号		13							
標高		KBM -0.03 m		最終貫入深さ		1.87 m		調査年月日		2024年07月17日					
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS					
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事			推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250				換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8				砂質土						2.5	34.8
1.00	10	0.50	25	40	h' y'h' y			砂質土						4.6	54.0
1.00	32	0.75	25	128	h' y'h' y			砂質土						10.5	106.8
1.00	13	1.00	25	52				砂質土						5.4	61.2
1.00	25	1.25	25	100				砂質土						8.7	90.0
1.00	2	1.50	25	8				砂質土						2.5	34.8
1.00	8	1.75	25	32				砂質土						4.1	49.2
1.00	114	1.87	12	950	h' y'h' y	空転		砂質土						65.6	>120

調査場所		広島県三原市須波1丁目3-1				測点番号		14				
標高		KBM -0.09 m		最終貫入深さ		2.45 m		調査年月日 2024年07月17日				
水位		不明		天候		晴れ		試験方法 半自動式SWS				
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事 音・感触 貫入状況 土質		推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	▽設計GL	換算N値 Nc	長期 許容支持力 qa (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8			砂質土				2.5	34.8
1.00	4	0.50	25	16			砂質土				3.0	39.6
1.00	5	0.75	25	20			砂質土				3.3	42.0
1.00	7	1.00	25	28			砂質土				3.8	46.8
1.00	10	1.25	25	40			砂質土				4.6	54.0
1.00	11	1.50	25	44			砂質土				4.9	56.4
1.00	6	1.75	25	24			砂質土				3.6	44.4
1.00	3	2.00	25	12			砂質土				2.8	37.2
1.00	1	2.25	25	4			砂質土				2.2	32.4
1.00	105	2.45	20	525	h' y'h' y	空転	砂質土				65.6	>120

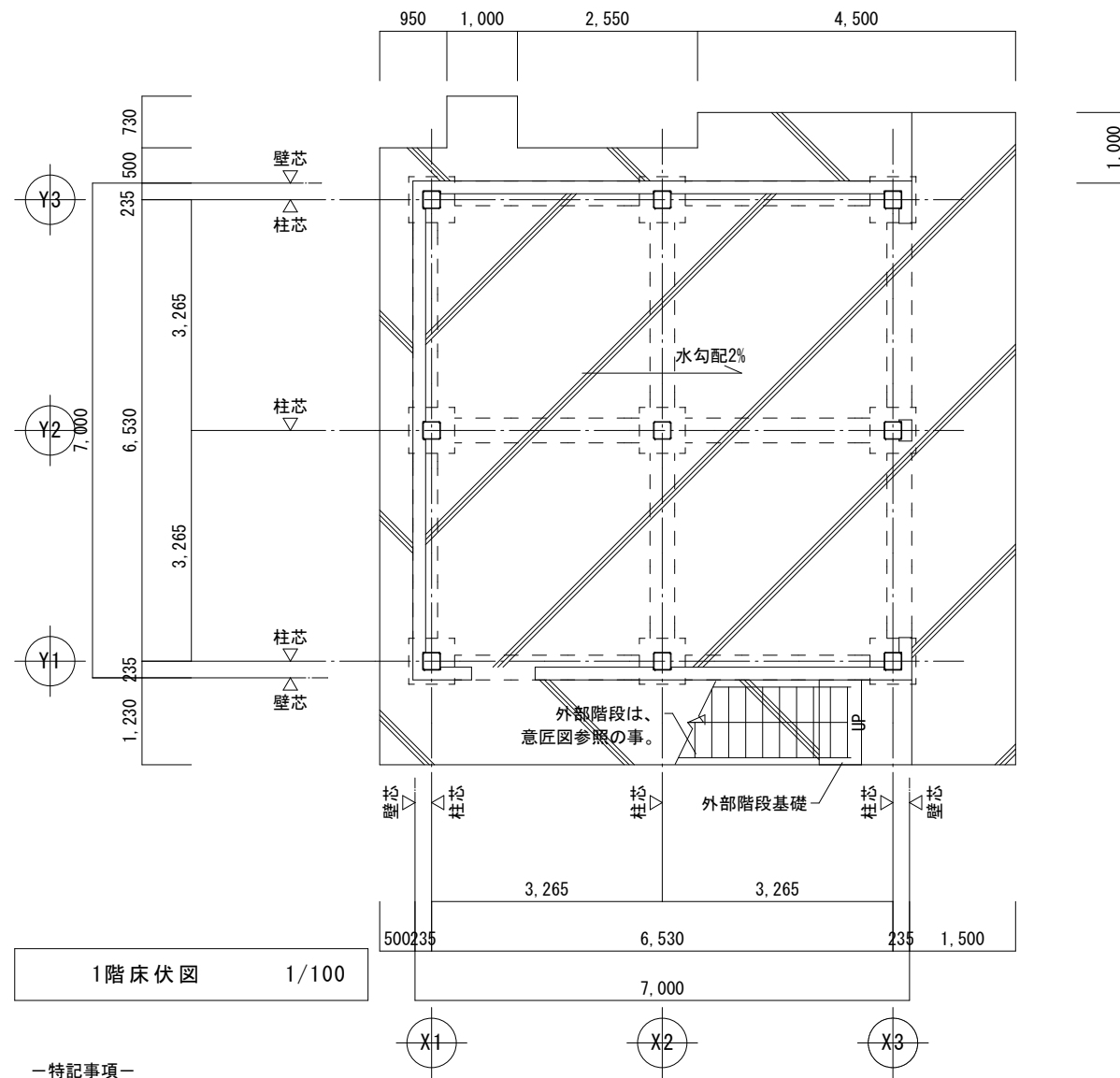
調査場所					広島県三原市須波1丁目3-1			測点番号		15		
標高		KBM -0.02 m		最終貫入深さ		1.27 m		調査年月日		2024年07月17日		
水位		不明		天候		晴れ		試験方法		半自動式SWS		
荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na	貫入深さ (m)	貫入量 (cm)	1m当り 半回転数 Nsw	記 事			推定土質 柱状図	荷重 Wsw kN 0, 25 0, 50 0, 75	貫入量1m当り 半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	換算N値 Nc	長期 許容支持力 qs (kN/m2)
1.00	2	0.25	25	8	音・感触	貫入状況	土質				2.5	34.8
1.00	3	0.50	25	12							2.8	37.2
1.00	6	0.75	25	24	h' y'h' y						3.6	44.4
1.00	7	1.00	25	28							3.8	46.8
1.00	13	1.25	25	52	h' y'h' y						5.4	61.2
1.00	61	1.27	2	3050	h' y'h' y	空転	砂質土				206.3	>120



基礎伏図 1/100

—特記事項—

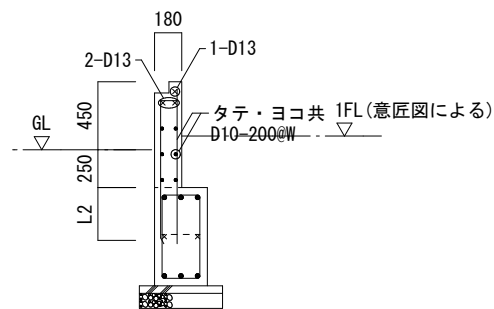
- ベースプレート下端位置は、GL-170とする。
- 柱型天端位置は、GL-200とする。
- 基礎梁天端位置は、GL-250とする。
- 基礎下端位置は、GL-1000とする。



1階床伏図 1/100

—特記事項—

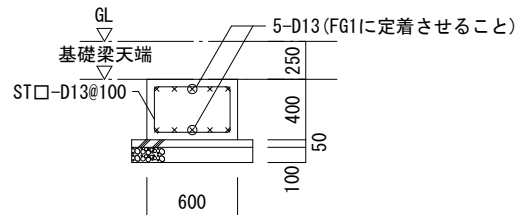
- 土間コンクリートt=200(タテ・ヨコD13-200@W)(差筋: D13-200@)
- 犬走コンクリートt=150(タテ・ヨコD13-200@S)(差筋: D13-200@)
- 土間コンクリート天端位置は、意匠図参照の事。



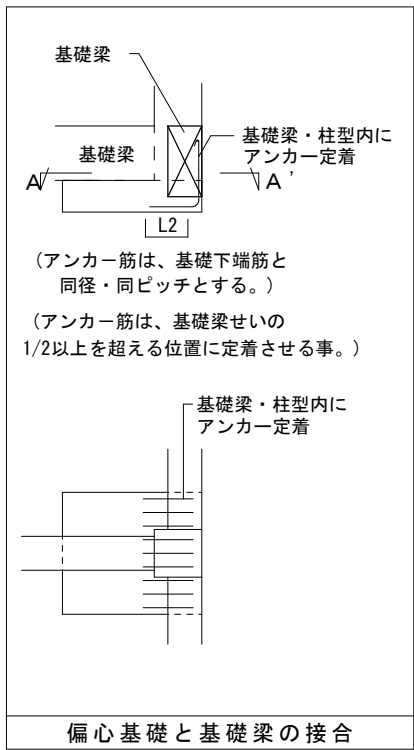
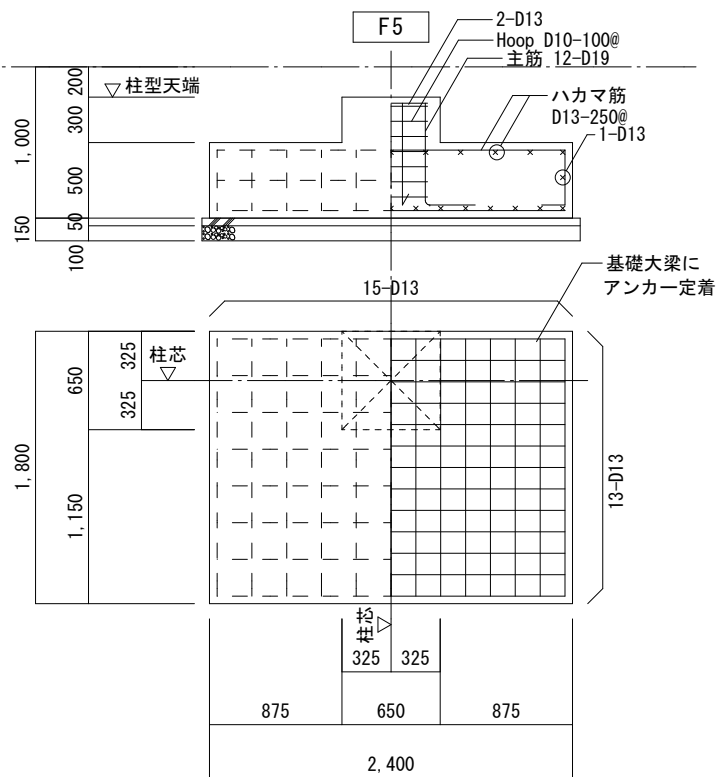
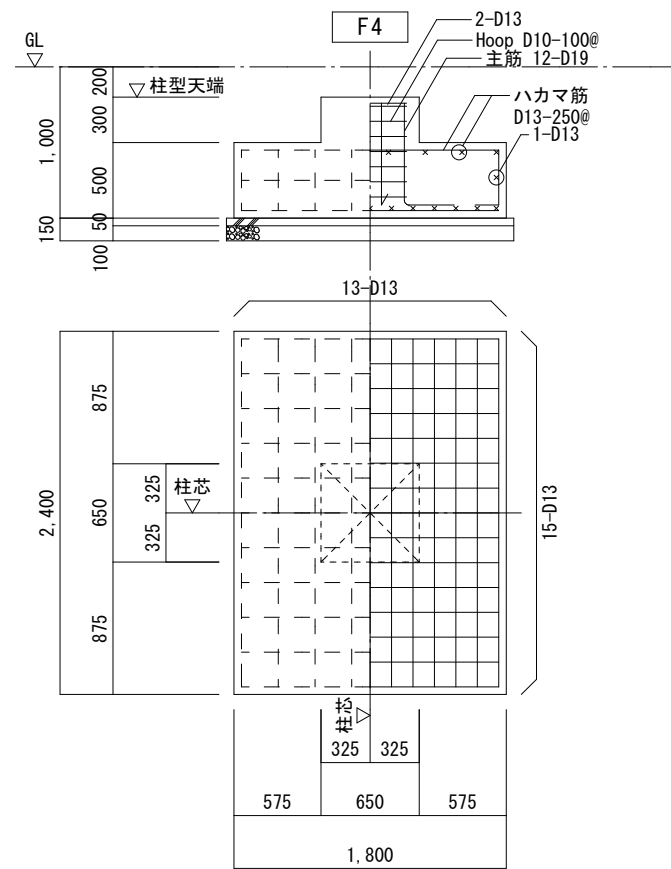
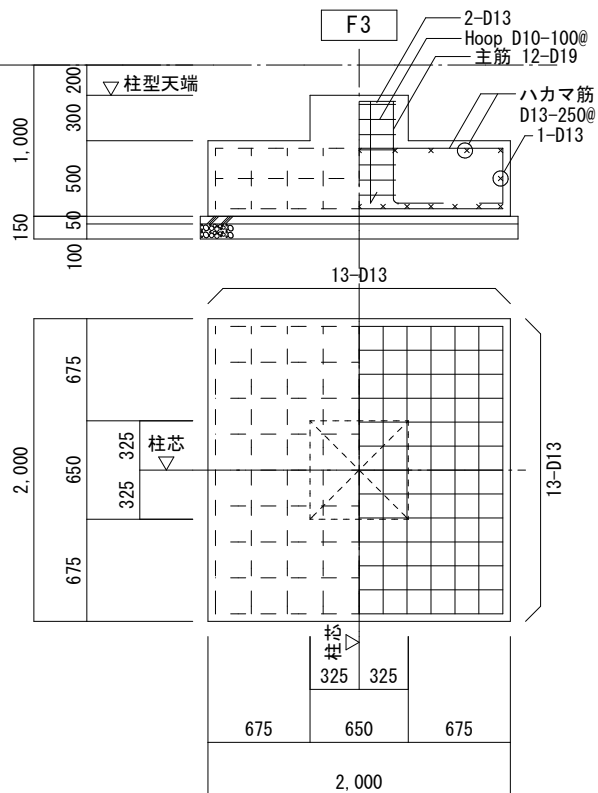
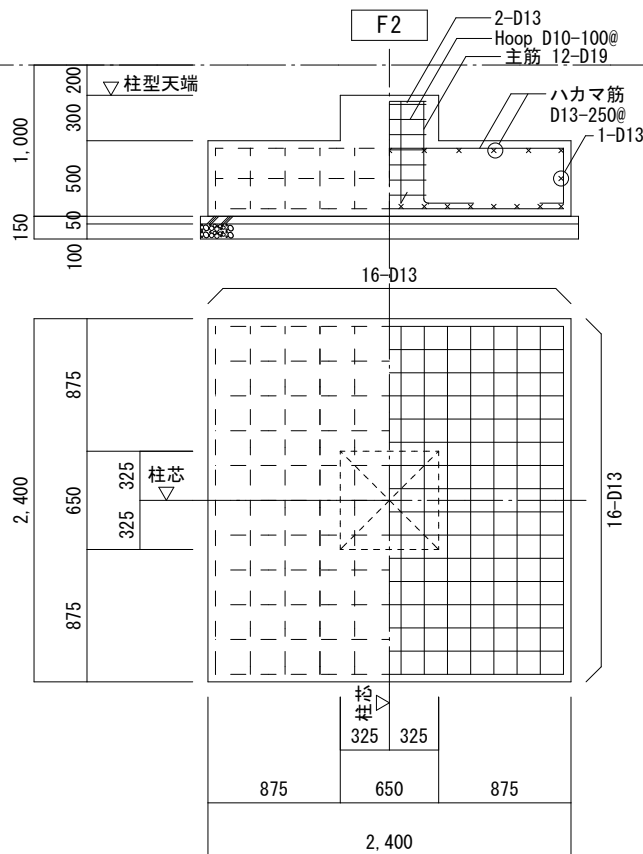
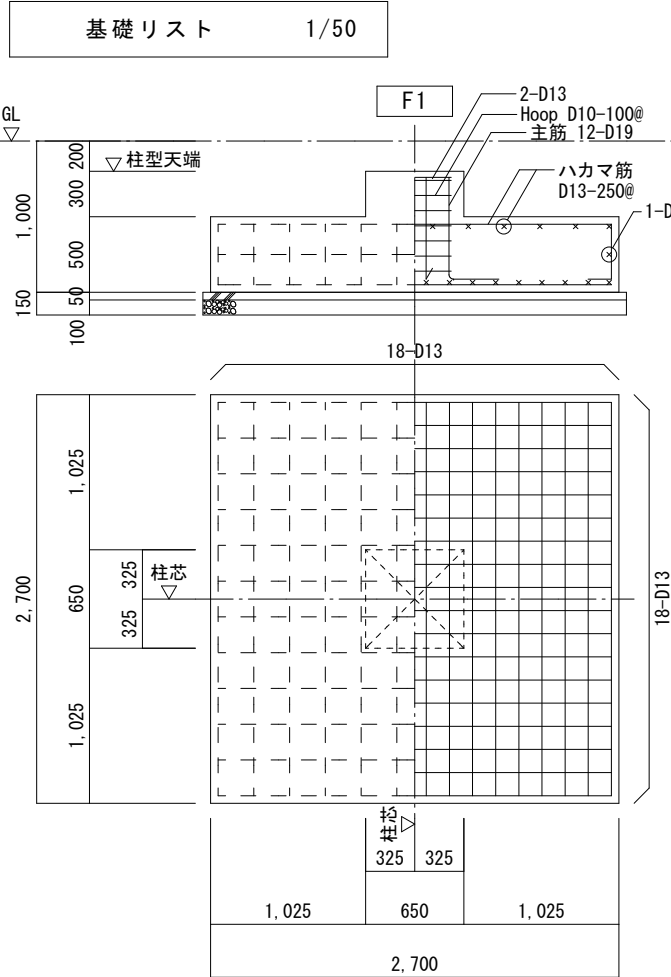
腰壁配筋図 1/50

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE 1/100	TITLE	NO. S 07	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	2025. 01.		須波分団屯所建設工事		
			CH.	DR.		基礎伏図・1階床伏図		

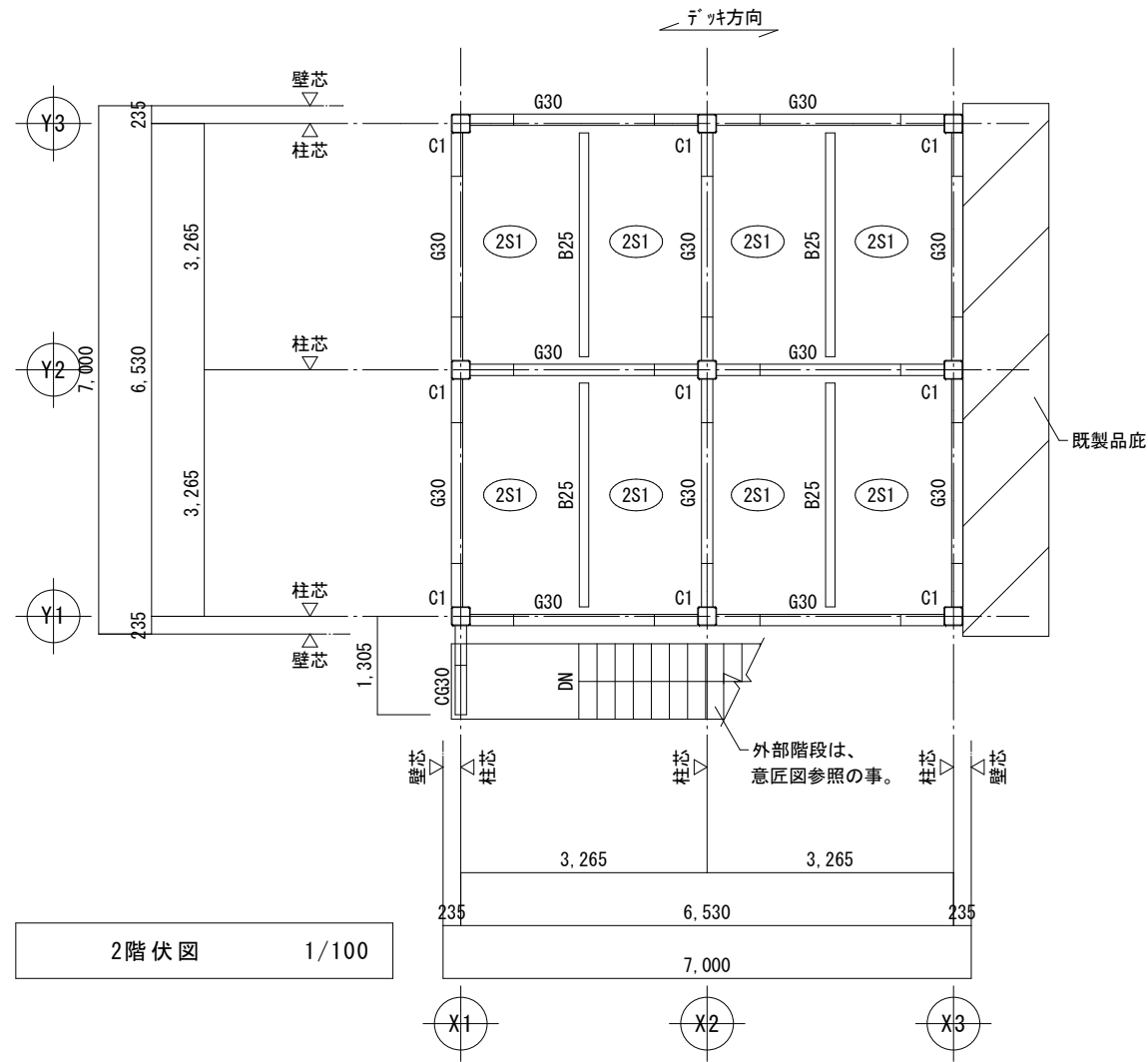
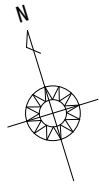
基礎大梁リスト 1/50		
符 号	FG1/FG2	FG3
B×D	350 × 650	350 × 650
位 置	全 域	全 域
断 面		
上端主筋	3-D19	4-D19
下端主筋	3-D19	4-D19
スタップ	D10 - 150@	D10 - 150@
腹 筋	2-D13	2-D13
一特記事項一	・巾止メ筋及び二段受筋は D10@1000 とする。	



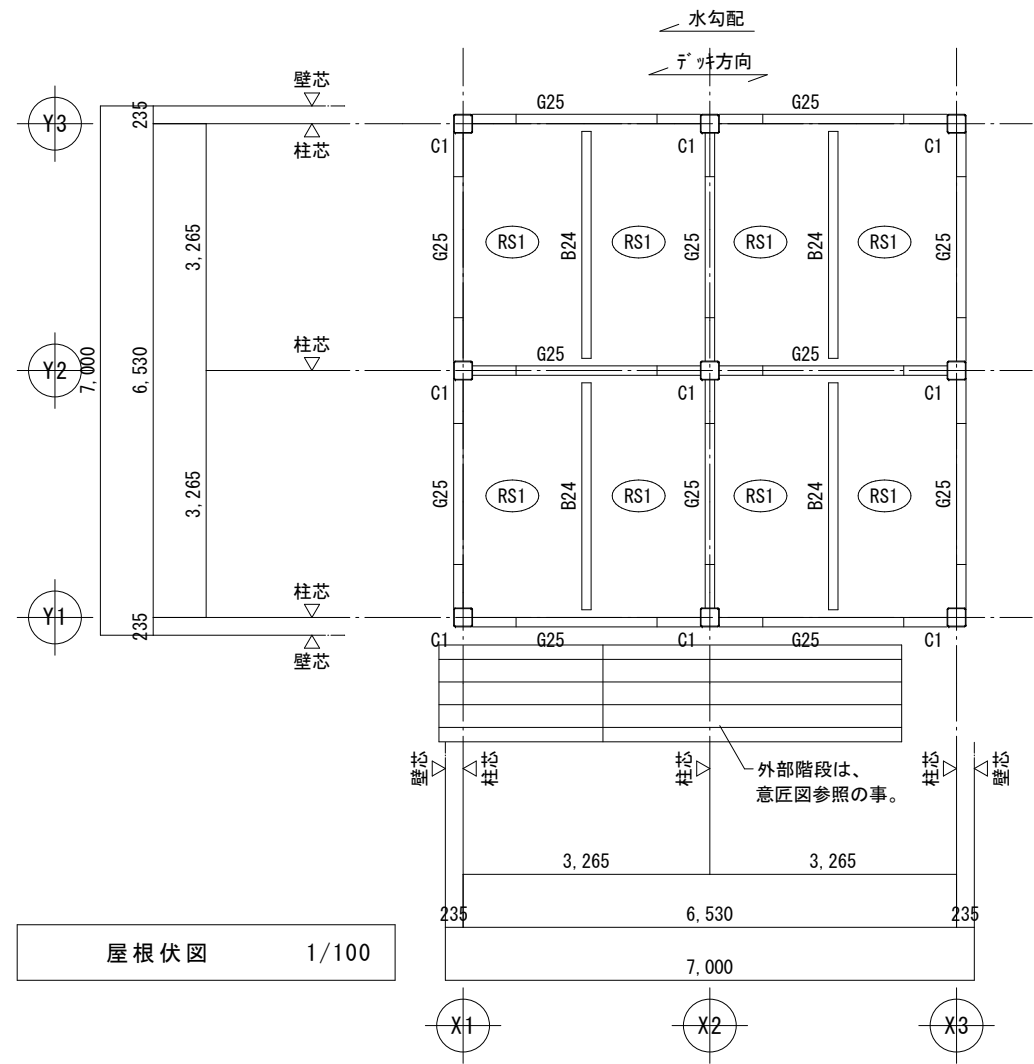
階段基礎図 1/50



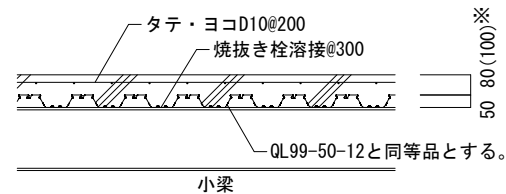
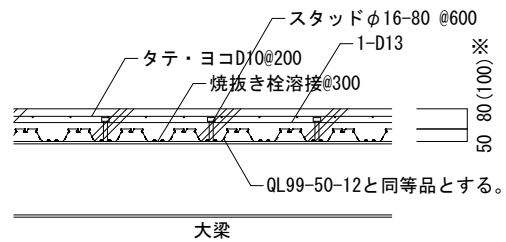
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号			JOB NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO. S 08	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
		岡田 建築設計事務所			CH.	CH.	DR.	1/50		
		一級建築士 第102449号 岡田文夫						須波分団屯所建設工事		
								基礎大梁リスト・基礎リスト		



2階伏図 1/100

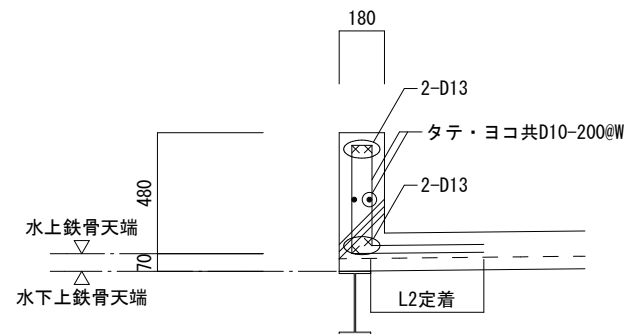


屋根伏図 1/100



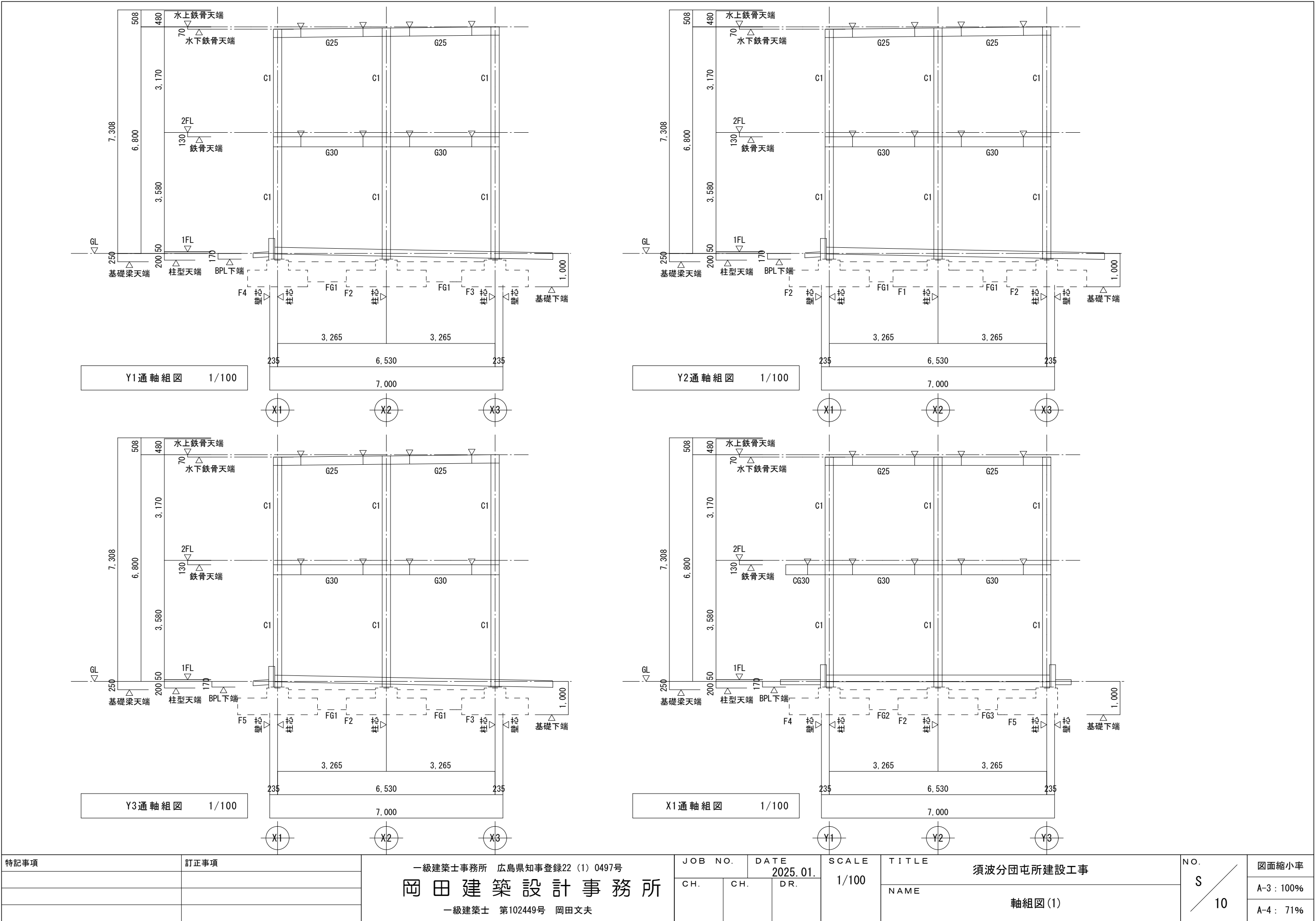
※()内はRS1の寸法を示す

2S1・RS1 QLデッキ床断面図 1/30

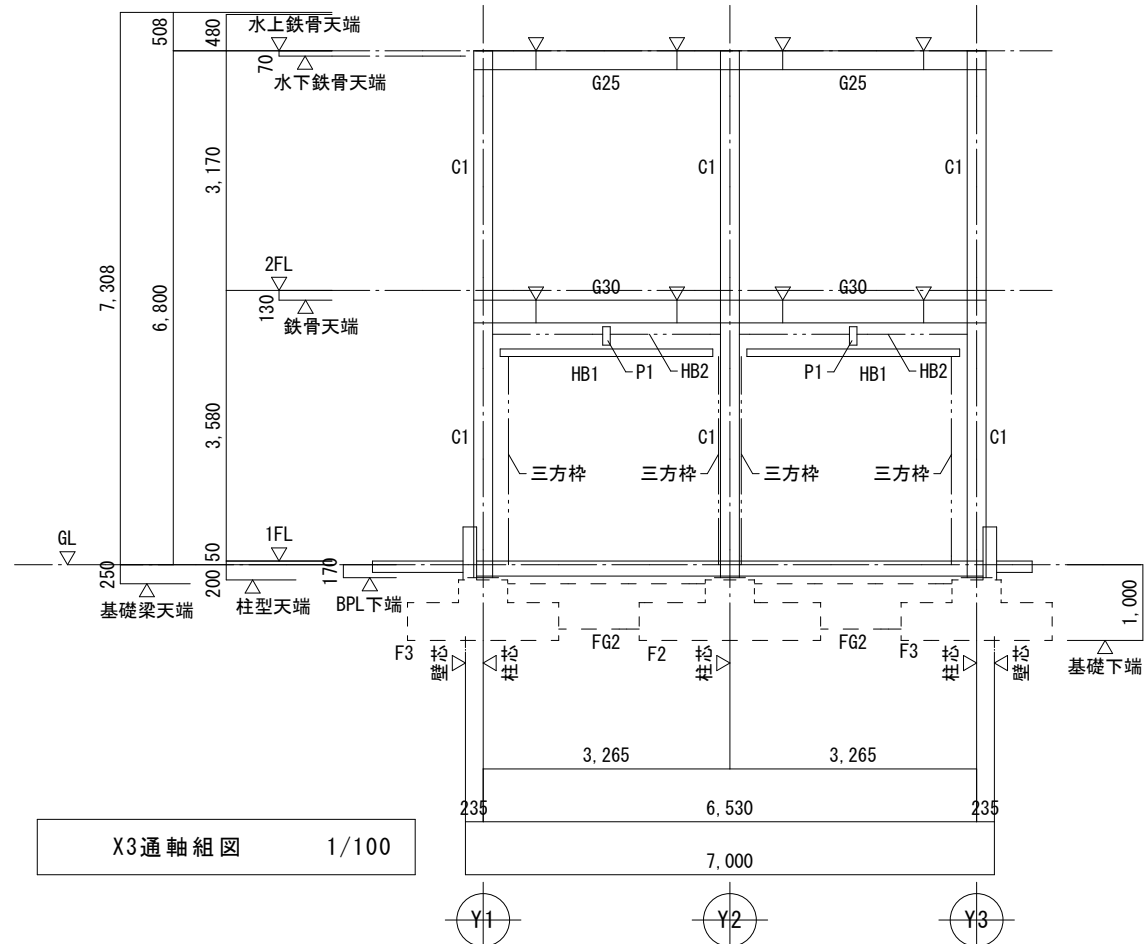
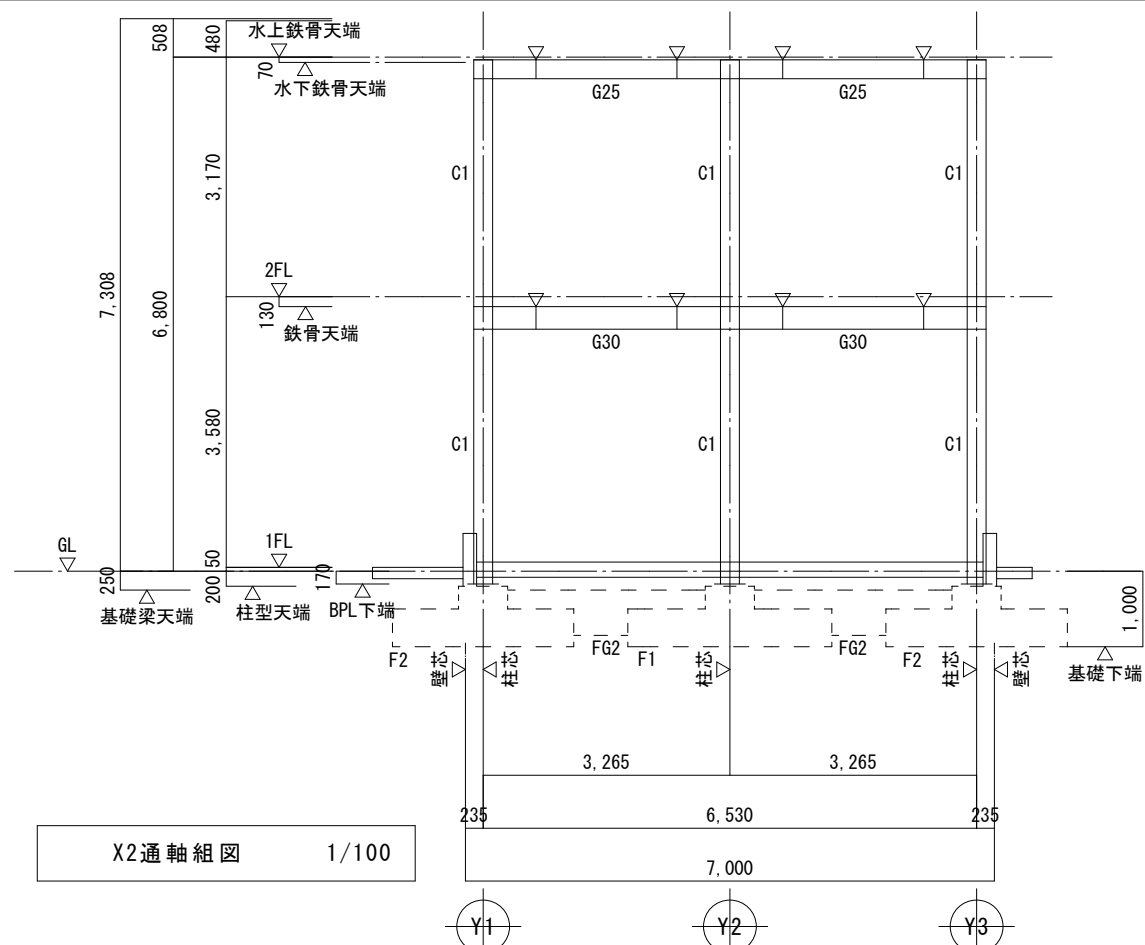


パラペット配筋詳細図 1/30

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE	SCALE 1/100	TITLE	NO. S 09	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.		須波分団屯所建設工事		
				DR.		NAME		
						伏図		



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/100	TITLE	NO. S 10	図面縮小率
			CH.	CH.	DR.		NAME		A-3 : 100%
									A-4 : 71%



特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号

岡田 建築設計事務所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB NO.	DATE
CH.	CH.
DR.	

SCALE
1/100
1/50

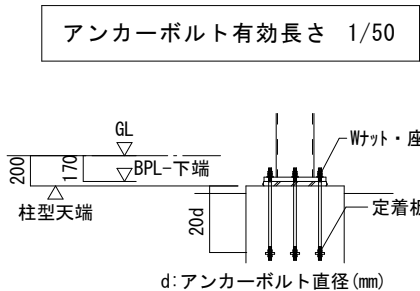
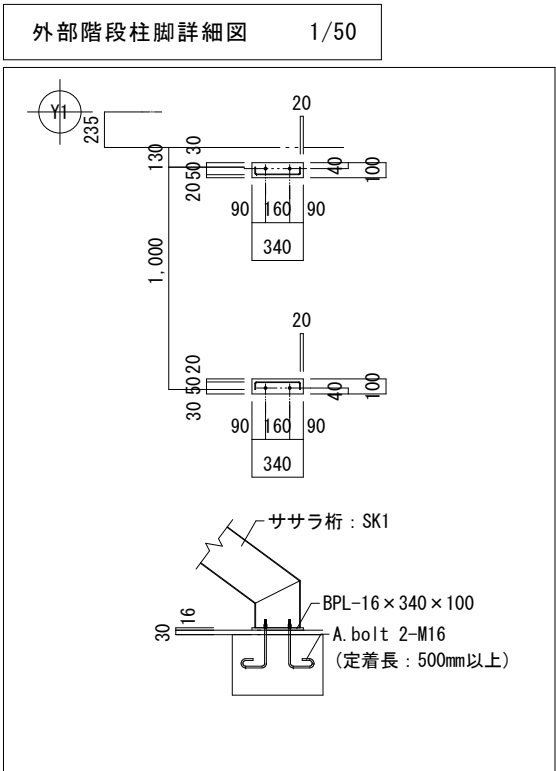
TITLE
須波分団屯所建設工事
NAME
軸組図(2)・部材リスト

NO.
S
11

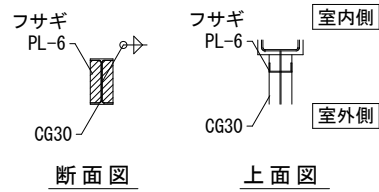
図面縮小率
A-3 : 100%
A-4 : 71%

部 材 リ ス ト		
符 号	部 材	備 考
C1	□-250×250×9 (BCR295)	1階柱脚部：柱柱脚リスト
G30	H-300×150×6.5×9	(F) 2PL- 9×150×290 H. T. B 16-M20 (W) 2PL- 6×200×170 H. T. B 4-M20 4PL- 9× 60×290
G25	H-250×125×6×9	(F) 2PL-12×125×410H. T. B 24-M16 (W) 2PL- 6×170×290 H. T. B 8-M16
CG30	H-300×150×6.5×9	外部階段大梁継手リスト参照
B25	H-250×125×6×9	GPL- 9 H. T. B 3-M16
B24	H-248×124×5×8	GPL- 9 H. T. B 3-M16
HB1	H-100×100×6×8 (横使い)	GPL- 9 H. T. B 2-M16
HB2	C-100×50×20×2.3 (SSC400) (横使い)	GPL- 4.5 中ボルト 2-M12 (スプリング座金付き)
P1	□-100×100×2.3 (STKR400)	GPL- 4.5 中ボルト 2-M12 (スプリング座金付き)
三方枠	C-100×50×20×2.3 (SSC400)	GPL- 4.5 中ボルト 2-M12 (スプリング座金付き)
SK1	[-300×50×4.5×4.5 (SSC400)	GPL- 9 H. T. B 3-M16 (F8T) :外部階段

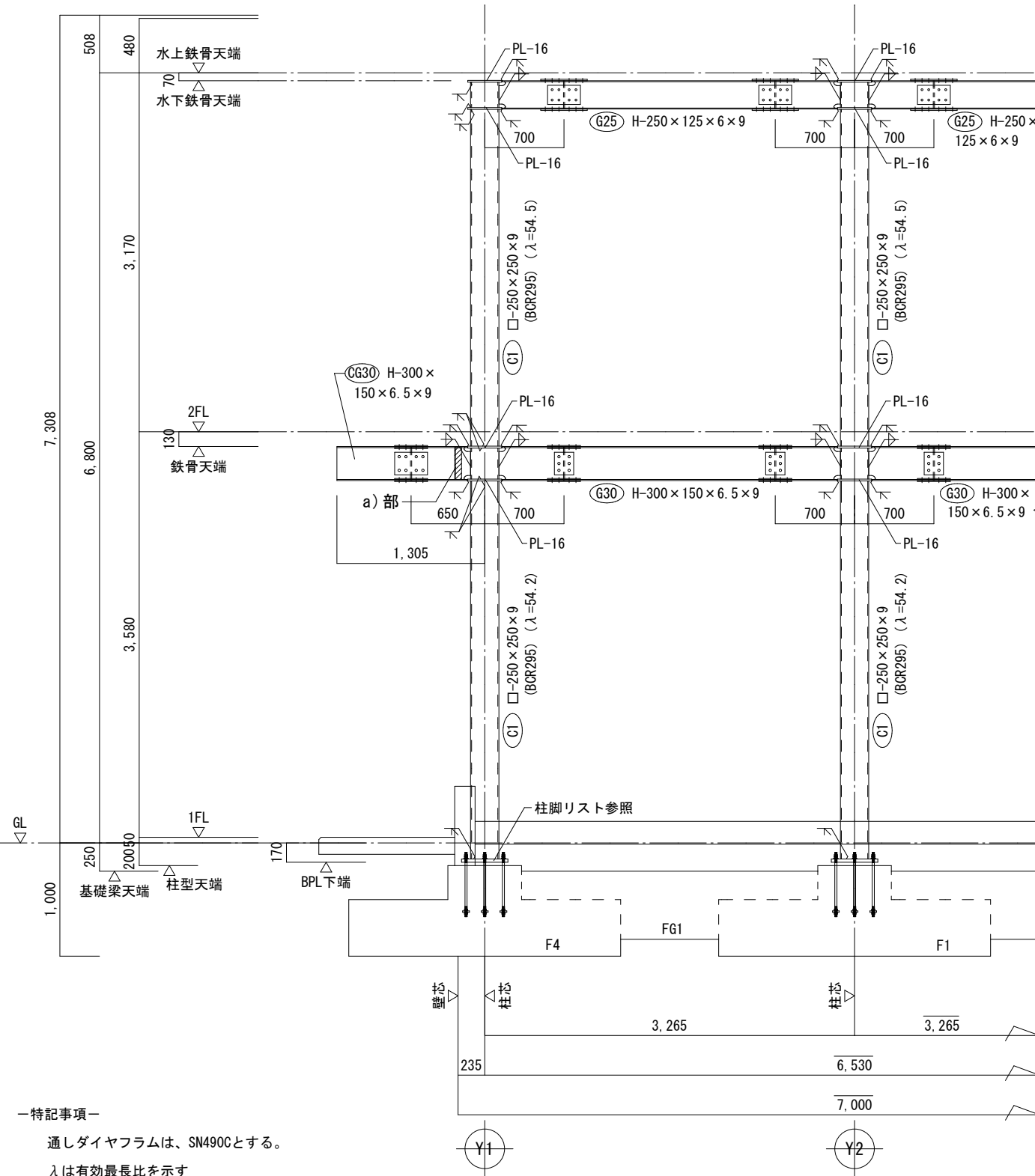
外部階段大梁継手リスト 1/50	
梁符号	CG30:H-300×150×6.5×9
フランジ	2PL- 9×150×290 H. T. B 16-M20 (F8T) 4PL- 9× 60×290
ウェブ	2PL- 6×200×290 H. T. B 8-M20 (F8T)
断 面	



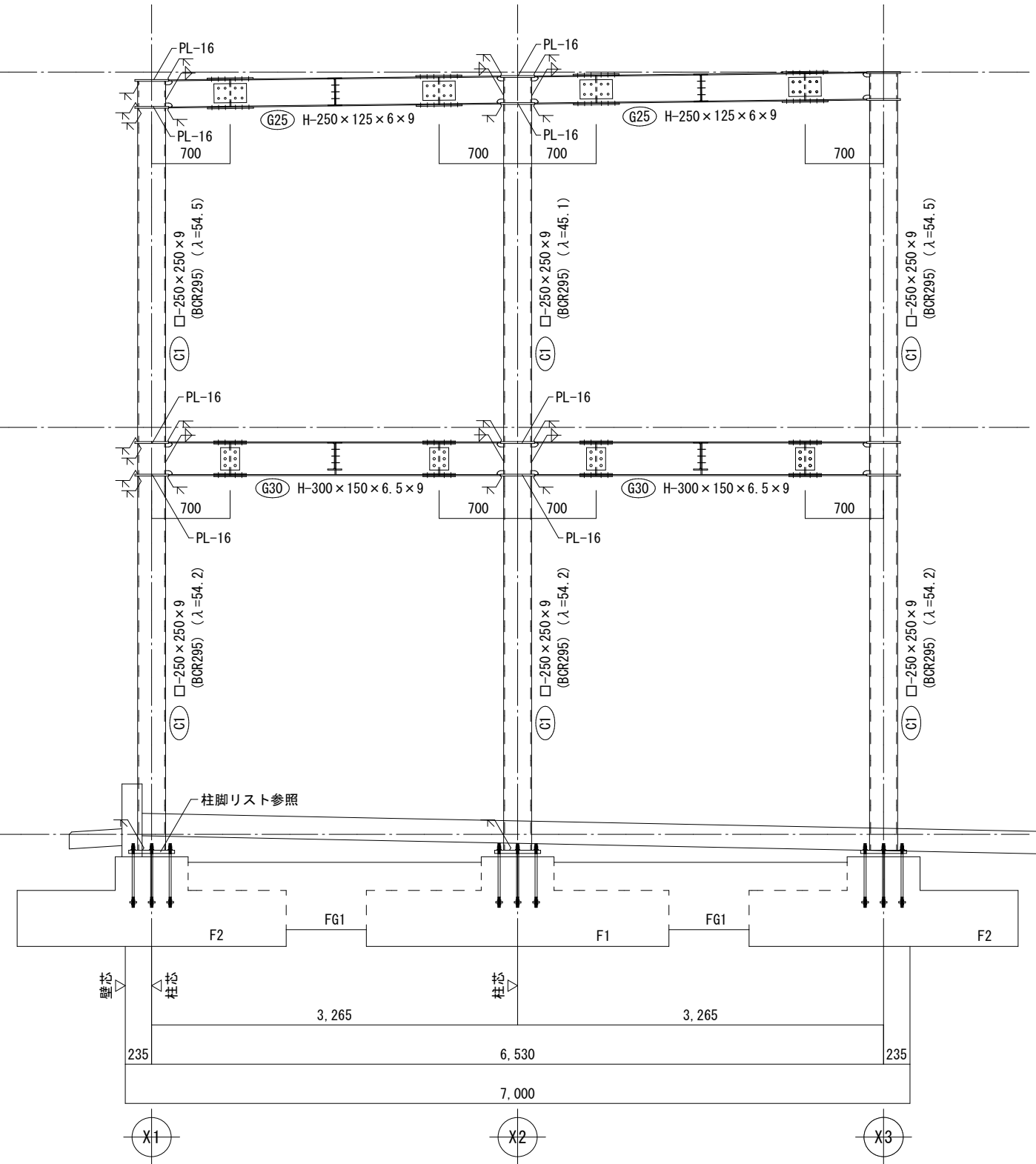
柱柱脚リスト 1/50	
符号	C1
主材	□-250×250×9 (BCR295)
柱脚形状	立上り四隅の主筋は 頂部フック付きとする。 (○印部を示す)
B. PL	PL-32 (SN490B)
A. Bolt	8-M22 (ABR400)
定着板	PL-70×70×12



a) 部詳細図 1/50



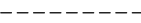
X1通鉄骨詳細図 1/50

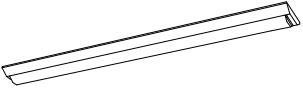
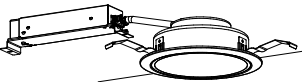
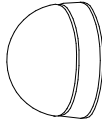


Y2通鉄骨詳細図 1/50

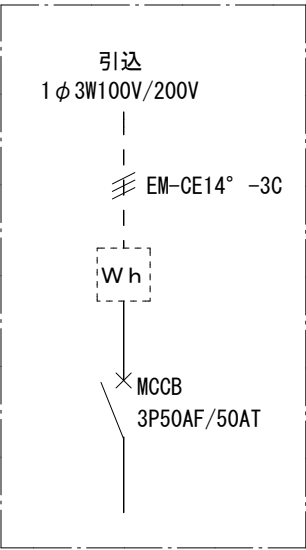
特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/50	TITLE 須波分団屯所建設工事 鉄骨詳細図	NO. S 12	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.		DR.				

[illegible]

〔凡例〕		
	引込開閉器盤	盤図参照
	分電盤	盤図参照
	LED灯	天井直付
	LED灯	天井直付
	LED灯	壁付
	スイッチ	1P15Ax1
 L	スイッチ	1PL15Ax1
 WP	防水スイッチ	1P15Ax1
 3WP	防水スイッチ	3W15Ax1
 AS	自動点滅器	100V 3A
 2	コンセント	2P15Ax2
 2E	コンセント	2P15Ax2 接地極付
 EET	コンセント	2P15Ax1 接地極・接地端子付
 2EET	コンセント	2P15Ax2 接地極・接地端子付
 LK	コンセント	2P15Ax1 抜止付
 WP	防水コンセント	2P15Ax2 接地端子付
	壁付換気扇、バイブファン	機械設備工事
	カバープレート	
	ブルボックス	
	配管配線	天井隠ぺい配線（配管）
	配管配線	床隠ぺい配線配管
	配管配線	露出配線配管
	配管配線	地中配線配管

照 明 器 具 姿 図		(注 1) 図中、型番は参考型番を示す。		(注 2) 照明器具の消費電力はJIS C8105-3に規定する方法により測定された値とする。	
 LSS9-4-65LE9 一般タイプ、6900lmタイプ、昼白色(5000K)、Ra83 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100~242V		 パナソニック 直付XLX450KENPLE9 一般タイプ、5200lmタイプ 昼白色(5000K)、Ra83 消費電力31.9W、定格出力型、電圧100~242V		 LRS1-08LE9 5000K、Ra85、拡散タイプ、埋込穴φ150 器具光束1045lm、消費電力7W、電圧100~242V	
A	LEDベースライト	B	LEDベースライト 反射笠付	C	LEDダウンライト
 パナソニック NNF20298Z 予備電源別置型・非常用LED併用型 光源寿命40000時間 防雨型		 LSS9MP/RP-2-14 防湿型・防雨型 5000K、Ra83、保護等級：IP23 器具光束1400lm、消費電力11.6W、電圧100~242V		 LBF3MP/RP-2-06 防湿型・防雨型 5000K、Ra83、保護等級：IP23 器具光束990lm、消費電力10.0W、電圧100~242V	
D	LED赤色表示灯	E	LEDベースライト 防湿型・防雨型	F	LEDウォールライト 20形

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22（1）0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE 2025.01.	SCALE	TITLE 須波分団屯所建設工事	NO. E / 02	図面縮小率
			CH.	CH.	DR.		NAME 凡例、照明器具姿図		A-3：100%
									A-4：71%



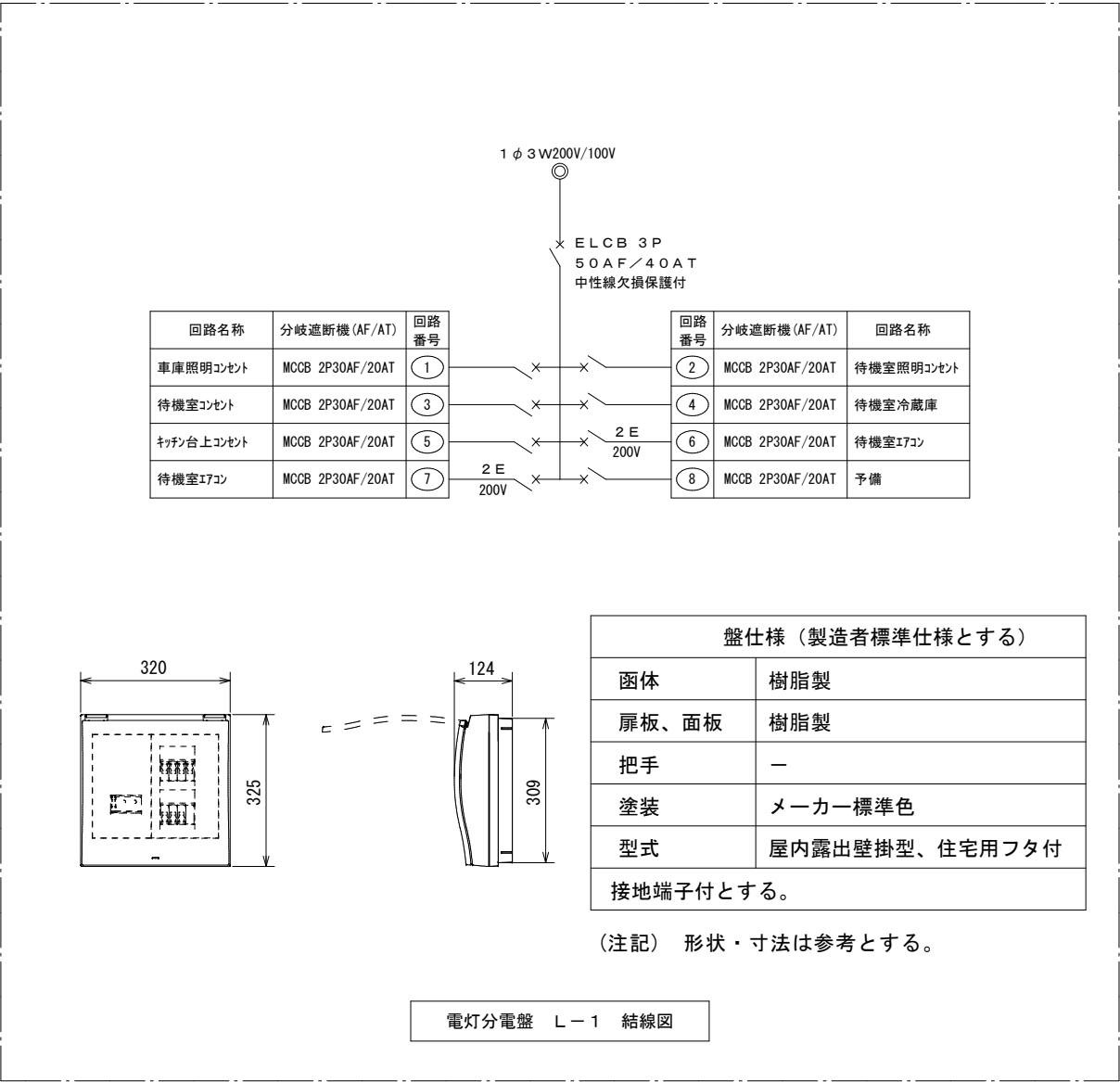
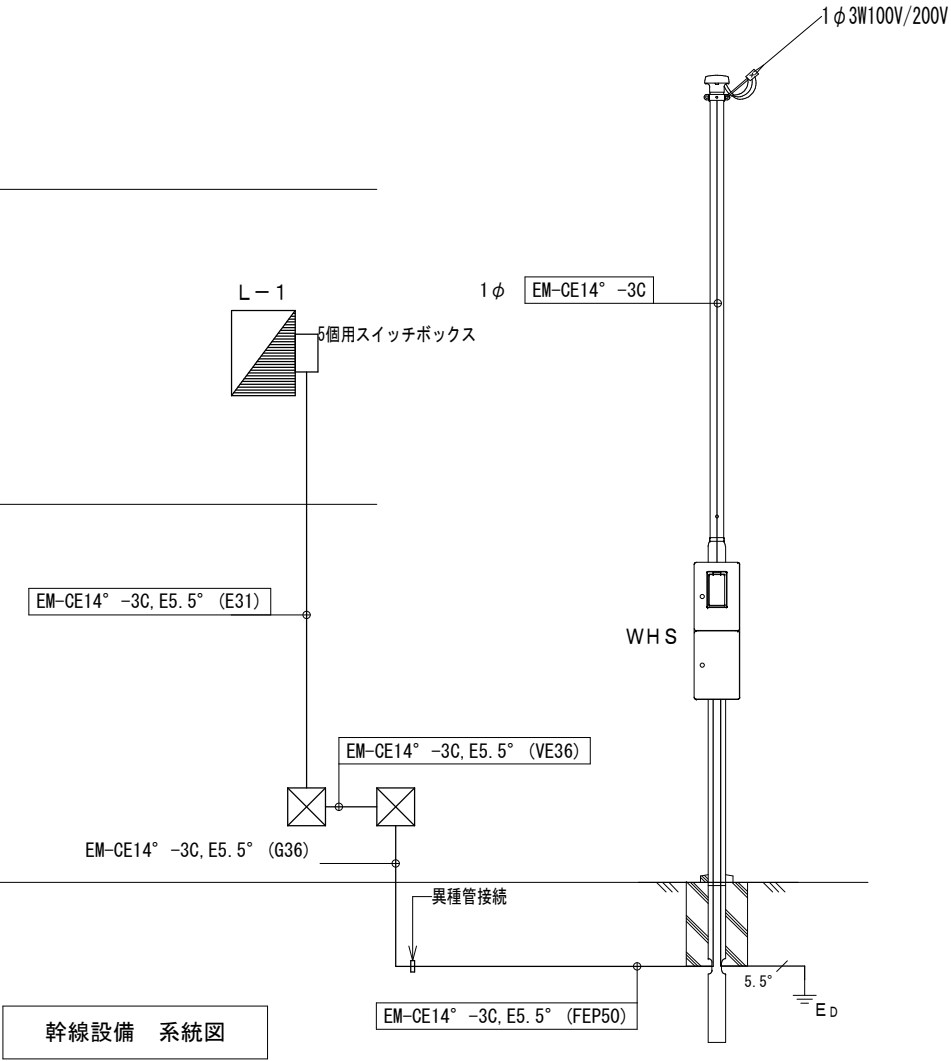
用途	電灯	
全 長	6.3m	
表面処理	ポール本体	フローコート溶融亜鉛めっき後ポリエチレン樹脂被覆
	ボックス	溶融亜鉛めっき鋼板にポリエステル粉末塗装
色 調	アイボリー又はコーヒブラウン	
実用最大引き込み径間 (丙種風圧荷重)	2.3m以下	電灯 (DV 14mm ² x 3℃)

パナソニック (株) XDTA0163W (A) 相当品

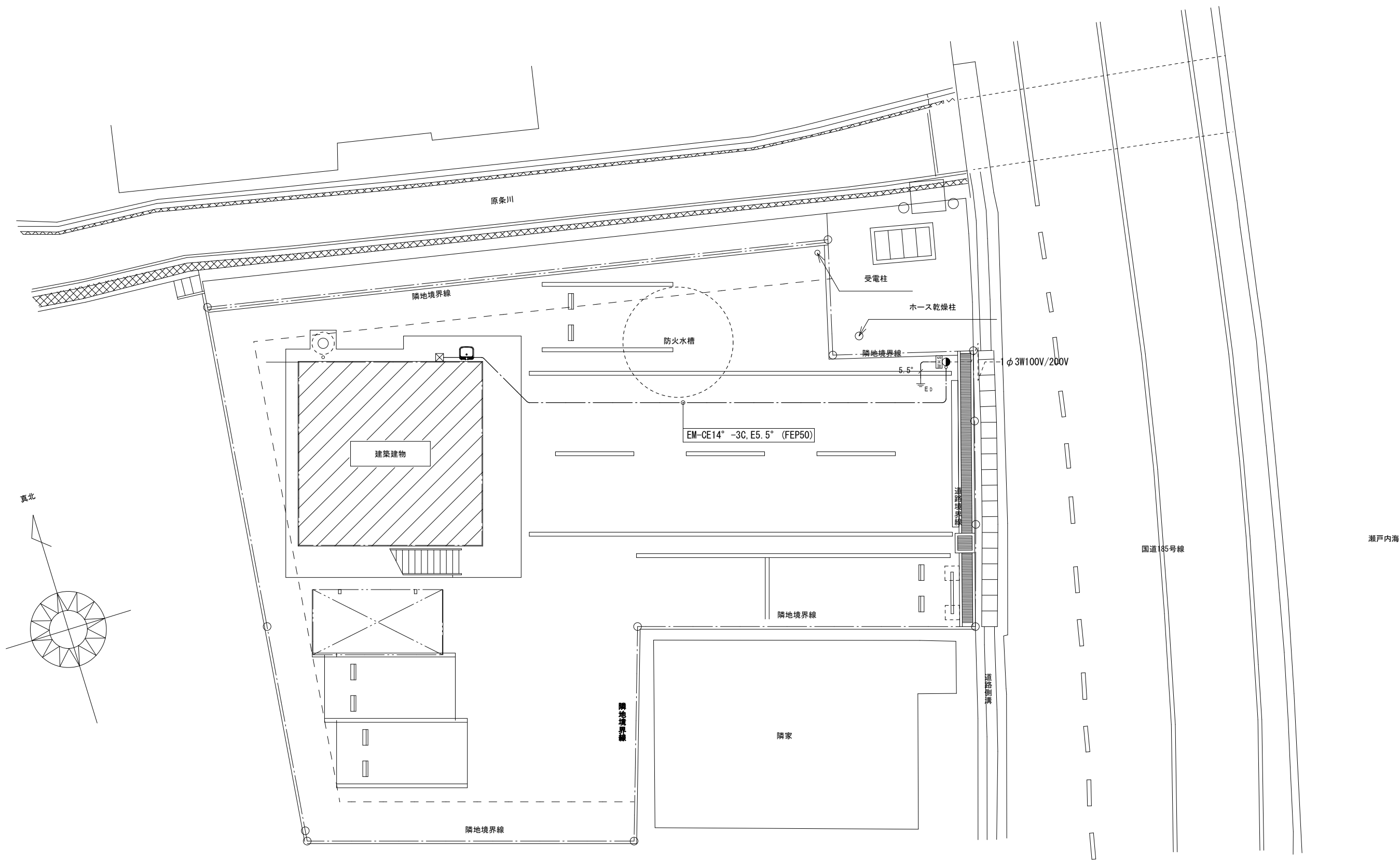
R 階

2 階

1 階



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE 2025. 01.	SCALE	TITLE 須波分団屯所建設工事	NO. E 03	図面縮小率 A-3 : 100% A-4 : 71%
			CH.	CH.		NAME 幹線設備 系統図、電灯分電盤図		
				DR.				



配置図 S=1/150

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/150	TITLE	NO. E 04	図面縮小率			
			CH.	CH.	DR.		2025. 01.		須波分団屯所建設工事	A-3 : 100%		
										NAME	電気設備 配置図	A-4 : 71%

I . 工 事 概 要
1．工 事 場 所　三原市須波１丁目

2．建 物 概 要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積（㎡）	消防法令区分	備考
屯所	木造	平屋建て	98.00	Ⅰ項	新築

3．工 事 種 目　　　　　　　　　（○印の付いたものを適用する）

建築物及び屋外工事種別	工	事	種	別
○空気調和設備	新設一式			
○換気設備	新設一式			
・排煙設備				
・自動制御設備				
○衛生器具設備	新設一式			
○給水設備	新設一式			
○排水設備	新設一式			
・給湯設備				
・消火設備				
・ガス設備				
・厨房設備				
浄化槽設備				
雨水利用設備				
・特殊ガス設備				
・電気設備工事	電気設備工事の部による			
・建築工事	建築工事の部による			

4．指 定 部 分 ※無し ・有り(工期令和年月日)
対象部分：_____

5．設備概要 （改修の場合は既存の概要を示す。）

空調調湿設備	○空気調和方式等	○パッケージ方式 ・ ガスエンジンヒートポンプ方式 ・ ファンコイルユニット・ダクト併用方式 ・ 単一ダクト方式 ・ 各間ユニット方式 ）
	主要熱源	○空気熱量ヒートポンプユニット ・ マルチパッケージ形空調機と機械パッケージ形空調機 ・ ガスエンジンヒートポンプ式空調機と機器・ チリグユニット ・ 吸収冷暖温水機 ・ 吸収冷水温水ユニット ・ 銅製ボイラー ・ 鉄鋼製ボイラー ・ 温床発生機 ・ 真空室 ・ 無圧式)
	換気設備	・ 1種換気 ・ 2種換気 ○ 3種換気
	排煙設備	・ 機械排煙 (・有 ・無) 適用法規 (・ 建基法 ・ 消防法)
	自動制御設備	・ 自動制御方式 (・ 電氣式 ・ 電子式 ・ デジタル式)
	給水方式	○水道直結 ・ 高置タンク ・ ポンプ直送 ・ 水道直接増圧
衛 生 設備	排水方式	建物内の汚水と雑排水 (・ 合流 ○ 分流) ポンプ排水 ・ 有 (・ 汚水 ・ 雑排水 ・ 湧水) ・ 無
	放汚水	・ 直放流下水管 ・ 淨化槽
	洗雑排水	・ 直放流下水管 ・ 淨化槽 ○ 側溝 ・ 別途渠
	先排水箱	・ 有 (計画容量： m³) ・ 無
	給湯設備	・ 有 (・ 局所式 ・ 中央式) ・ 無 熱源 (・ 電氣 ・ 都市ガス ・ 液化石油ガス ・ 灯油 ・ A重油)
	消火設備	・ 屋内消火栓 ・ 連絡給水管 ・ 屋外消火栓 ・ スプリン클ー ・ 消防用水 ・ 泡消火 ・ 連絡給水装置 ・ 粉末消火装置 ・ 不活性ガス消火 (・ 窒素 ・ フード等簡易簡易自動消火装置 ・ 無) ・ ハロゲン化物消火
		ガス設備

I I . 工 事 仕 様
1．共通仕様
①特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通大臣官庁官房宮庁営繕部の標準仕様書等による。ただし、() の付いたものを適用する。
○公共建築工事標準仕様書〔機械設備工事編〕令和４年版（以下「標準仕様書」という。）
・公共建築改修工事標準仕様書〔機械設備工事編〕令和４年版

（以下「改修標準仕様書」という。）

○公共建設設備工事標準図〔機械設備工事編〕令和４年版（以下「標準図」という。）
２電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。

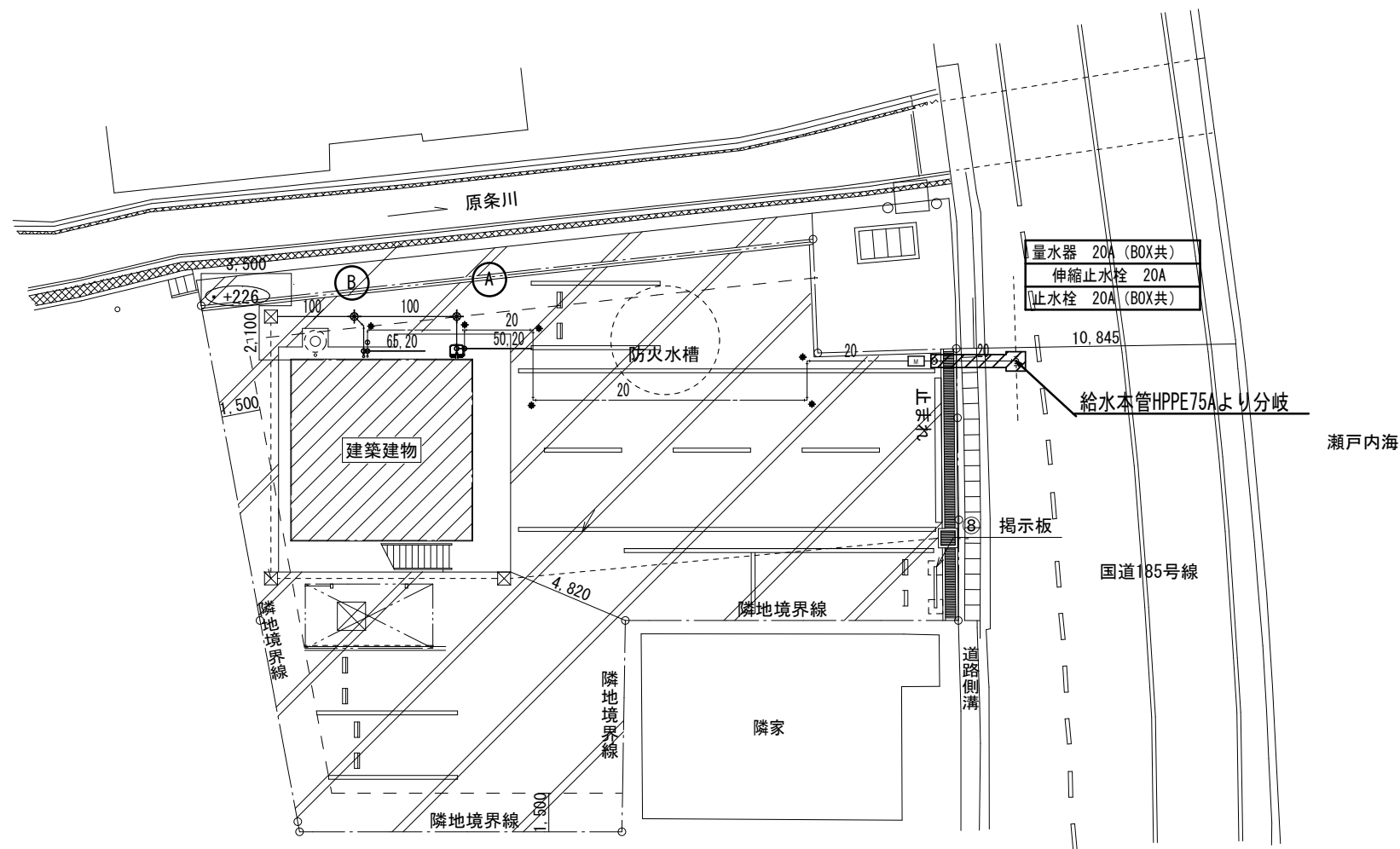
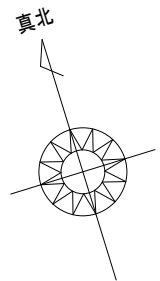
2．特記仕様
①項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
②特記事項のうち選択する事項は、●印の付いたものを適用する。
ただし、○印のない場合は※印を適用する。
○印 ●印 ⊗印の場合共に適用する。

区分	項	目	特	記	事	項
一般共同事業通事項	①施工図等	施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。				
	2.保安規定	中国地方整備局制定対策要綱及び建築工事安全施工技术指针を参考に、(・ 適用 ・ 準用) する。				
	③施工条件	現場説明書による。				
	④工事安全計画書	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技术指针を参考に、工事現場の安全管理に関する具体的な工事安全計画書を、監督職員に提出すること。				
	⑤養生材の処理等	引渡しを要するものは、有 (・ 機器類 ・ 金属類 ・) ※無し ※無し ・有 (・ 配管用保温材 ・) 再生資源化を図るものと ※無し ・有 (・) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等) は関係法令に従い適切に処理を行う。引渡しを要するものの以外は構外搬出適切な処理とする。 撤去機材等 (アスベスト類を含む) の搬出・処分費 ※ 本工事 ・ 別途工事 フロン、臭化リチウム液、残液処理の搬出・処分費 ※ 本工事 ・ 別途工事				
	*51.建設廃棄物の処理も確認すること	特別管理産業廃棄物 ※無し ※無し ・有 (・ 配管用保温材 ・) 再生資源化を図るものと ※無し ・有 (・) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等) は関係法令に従い適切に処理を行う。引渡しを要するものの以外は構外搬出適切な処理とする。 撤去機材等 (アスベスト類を含む) の搬出・処分費 ※ 本工事 ・ 別途工事 フロン、臭化リチウム液、残液処理の搬出・処分費 ※ 本工事 ・ 別途工事				

⑥環境への配慮	1)国等に定める環境物品等の調達推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づき策定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するような努めをとるとする。
	2)建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材料、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、ASETアルデヒド及びステレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放出量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含まない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、ASETアルデヒド及びステレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用しなものとす。
⑦機材の品質等	1)本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2)別表―１に示す機材等を使用する場合は次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承認を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定められ許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
⑧機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式（令和４年版）によるほか、監督職員の指示による。
⑨図形表示	機器類は、図示する形状及び配管等の取出し位置により、特定製造者の製品を指示、限定しない。
⑩容量等の表示	1)機器類の能力、容量等は原則として表示された値以上とする。 2)電動出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された値以下とする。
11.技能士の活用	・建築板金（ダクト製作及び取付） ・熱絶縁施工（保溫工事） ・配管（配管工事） ・冷凍空調機器施工（冷凍空調機器据付）
⑫化学物質の濃度測定	建築物の室内空气中に含まれる化学物質の濃度測定 ※不要 ・要測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数は（※現場説明書 ・図示）による。
⑬インバーター用制御及び操作盤	「高压又は特別高压で受電する需要家の高周波抑制対策ガイドライン（平成16年1月制定 原子力安全・保安院）」及び「高周波抑制対策技術指针（J EAG 9702～2013）」に基づき、高周波対策を行う。 下記項目の総合調整を行ない測定表を監督職員に提出する。（部） ○風量調整 ・水量調整 ○室内外空気の湿度度の測定 ・室内 airflow とびじんの測定 ・騒音の測定 ・飲料水の硬度の測定 ・雑用水の硬度の測定 測定箇所等は監督職員との協議による。
15.弁類	※ベローズ形 ・スリーブ形 ※合成ゴム製（弾形） ・ポリテトラフルオロエチレン樹脂製 ・ペローズ形（ステンレス製）
16.伸縮管継手	※標準図（施工３）による。
17.防振継手	つば付き鋼管製に替えて、非加磁ブルコム止水材質でもよい。
18.絶縁継手	1)形式はビーター型（コック付）とする。 ※固定式
19.スリーブ	2)下記の箇所、若しくは図示により取り付ける。 ・ポイラークラスは熱交換器の温水出口 ・冷却種類の冷水出口 ・冷水ヘッドゲの各送り管 ・冷却種類の冷却水出口 ・ユニット形空調機の低温水入口
20.瞬間流量計	(・ 給水 ・ ガス ・ 油) 配管の変位吸収は（※標準図（施工４，５） ・図示）による。
21.配管の建物導入部	呼径60S u以下の継手は、メカニカル形とし、SAS322を満足するものとする。
22.ステンレス鋼管の接合法	※接着接続 ・ ゴム輪接続 50A以下 ※メカニカル接続 ・電気融着接続 75A以上 ※電気融着接続 ・

空気調和機 換気設備	① 設計用温湿度条件	<table><tr><th colspan="2">外 気 条 件</th><th colspan="4">室 内 (調整目標値)</th></tr><tr><th>温度 (DB)</th><th>湿度</th><th>温度 (DB)</th><th>湿度</th><th>温度 (DB)</th><th>湿度</th></tr><tr><td>夏季 34.9℃</td><td>51.0%</td><td>28.0℃</td><td>50.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>冬季 -0.2℃</td><td>69.9%</td><td>19.0℃</td><td>40.0%</td><td></td><td></td></tr></table>	外 気 条 件		室 内 (調整目標値)				温度 (DB)	湿度	温度 (DB)	湿度	温度 (DB)	湿度	夏季 34.9℃	51.0%	28.0℃	50.0%			冬季 -0.2℃	69.9%	19.0℃	40.0%			28. 消音内貼り	1) 空調用の吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類とする。 2) 内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。 3) 吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口を取付ける。点検口の大きさは、原則として400×600とする。 防振基礎の防振板及び振動絶縁効率は、標準仕様書および標準図によるほか、図示による。 日本冷凍空調工業会 (冷凍空調機器用水質ガイドライン) による。 空気調和機器等又は7/8インチの装着枚数の100%を予備品 (付付) として納める。 7/8インチは総枚数の (・50%・100%) に当たる7/8を予備品 (付付) として納める。 自動巻取り形及びグリースフィルターは装着率単位の100%を予備品として納める。	排水	3. 汚水、雑排水及び汚物用水中モーターポンプ 4. 接続納付金等 ⑤ 樹のシガリト巻き	水中形三相誘導電動機は、(※ 乾式 ・ 油封式) とする。 電動機の極数は図示による。 着脱装置、ストレーナー及び水中ケーブルの長さは図示による。 ※ 別途工事 ・ 本工事 小口径樹等はコンクリート巻き仕上げとする。(但し舗装等の仕上げ部分は除く。) (施工の際は鉄筋又は、金網で補強を入れること。)	石綿含有設備資材の処理について	I. 石綿を含有する設備資材の撤去方法 1. 工事受注者は、施工に先立ち以下の報告を行うこと。 撤去に先立ち、「大気汚染防止法」の他「労働安全衛生法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建築基準法、建設リサイクル法、地方自治体による条例」等に基づき関係機関と協議を行い、監督職員に報告する。 2. 各部位の撤去方法は、以下の内容及び撤去要領図を参考に、計画書を作成し、監督職員の承諾を受ける。 (1) ダクトフランジ部 ダクトフランジ部の撤去は、原則として切断による方法とする。 1) ダクトの切断に先立ち、飛散防止措置としてダクトフランジ外周部分に、飛散抑制剤の塗布又はビニールテープ貼り等を施す。 2) ダクトの切断は、フランジ部分の両側約100mmの箇所において慎重に行う。 3) ダクト片側の切断終了後、フランジ内周部分に外周同様に飛散防止措置を施し、もう片側の切断を行う。 (2) たわみ継手フランジ部 たわみ継手フランジ部の撤去は、原則として切断による方法とする。 1) ダクト及び機器の切断に先立ち、飛散防止措置としてダクトフランジ外周部分に、飛散抑制剤の塗布又はビニールテープ貼り等を施す。 2) ダクト及び機器の切断は、フランジ部分の約100mmの箇所において慎重に行う。 3) ダクト及び機器の切断終了後、フランジ内周部分に外周同様に飛散防止措置を施す。 (3) 配管フランジ部 配管フランジ部におけるガスケット撤去は、原則として切断による方法とする。 1) 配管の切断は、フランジ部分にかけない箇所において行う。 (4) 成形保温材付き配管の曲線部 成形保温材付き配管の曲線部の撤去は、原則として切断による方法とする。 1) 配管の切断に先立ち、飛散防止措置として成形保温材に飛散抑制剤の塗布を施すとともに、成形保温材前後の保温材を撤去する。 2) ビニールシート等で成形保温材を包み配管表面でテープ止めとし密閉する。 3) 配管の切断は、密閉部分の両側約100mmの箇所において慎重に行う。
	外 気 条 件		室 内 (調整目標値)																														
	温度 (DB)	湿度	温度 (DB)	湿度	温度 (DB)	湿度																											
	夏季 34.9℃	51.0%	28.0℃	50.0%																													
	冬季 -0.2℃	69.9%	19.0℃	40.0%																													
	② 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 冷水・温水・冷温水 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 2) 膨張・空気抜・補給水 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 3) 冷却水 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 4) 蒸気給気 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (黒管) 5) 蒸気還水 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370Sch40) 6) 油・油用通気 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (黒管) 7) 冷媒 ・ 断熱材被覆鋼管 8) 空調用給水 ・ ステンレス鋼管 (SUS304) 9) 空調用排水 (硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管) 図面に特記なき場合の耐圧は、5Kとする。 トラップの形式はフロートボール式 (床置型) ※ FRP製保温型 1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	29. 機器用基礎 30. 空調用流体の水質基準 ③ フィルター等の予備品	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) ・ 保温付被覆鋼管 ・ 鋼管 ・ ステンレス鋼管 ・ 耐熱性ライニング鋼管 ・ 架橋ポリイソシアネート 2) 湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。 図面に特記なき場合の耐圧は、5Kとする。 ただし、公営水道に直結する部分及び特記部分は、10Kとする。 湯沸器の給排水気筒の隠へ箇所は保温・ハイク・IXを行う。																											
	3. 弁類 4. 空調機用トラップ 5. 鋼板製煙道	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																												
	6. ばい煙濃度計 7. 冷却塔	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																												
	8. ユニット形 空気調和機	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																												
	9. ファンコイルユニット	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																												
⑩ パッケージ形 空気調和機	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																													
11. マルチパッケージ形 空気調和機	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																													
12. 集中管理リモコン ・ 個別リモコン	1) 厚さ ※ 3.2mm ・ 4.5mm 2) ばい煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3) ばいじん量測定口 (80φ×2) ※ 取付ける ・ 取付けない 4) 伸縮継手及び掃除口は図示による。 投光器及び受光器は、送風器付きとする。 標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。 コイル通過後のケーシングに隣接する表面結露対策は ※ 不要 ・ 図示による。 風量30.000m3/hを超える機器の許容騒音レベルは、図示による。 冷水温水機の接続部 (往・還) にはボール弁を取付ける。 ※ 流量調整弁 ・ 定流量弁 を取付ける。 (定流量弁の場合は ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 床置形にはサブドレンパンを設ける。材質等はドレンパンに準ずる。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 内外送配線は、原則として冷媒管と共巻きとする。(エアコン含む) パッケージ形空気調和機の記載による。	排水	1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による	1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 (白管) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 (Sch40) 地中配管用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (STPG370-VS) 3) 一般配管用 ※ 10K ・ 16K 1) 呼吸タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3) 消火配管の保温は次による。 (屋外露出、寒冷地は保温種別 a2・V・IV による) ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリングラ ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する ※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓 ・ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓 開閉弁の材質は ・ 鋼鉄製 (要部有鋼製) ・ ステンレス鋼物製 箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製																													

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO. CH. CH. DR.	DATE 2504.01. DR.	SCALE —	TITLE NAME 須波分団屯所建設工事 特記仕様書 2	NO. M 02	図面縮小率 A-2 : 100% A-3 : 71%
------	------	--	------------------------------	-------------------------	------------	--	----------------	----------------------------------



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE 1/250	TITLE	NO. M 03	図面縮小率		
			CH.	CH.	DR.		須波分団屯所建設工事		A-3 : 100%		
									NAME	配置図	A-4 : 71%

器 具 リ ス ト

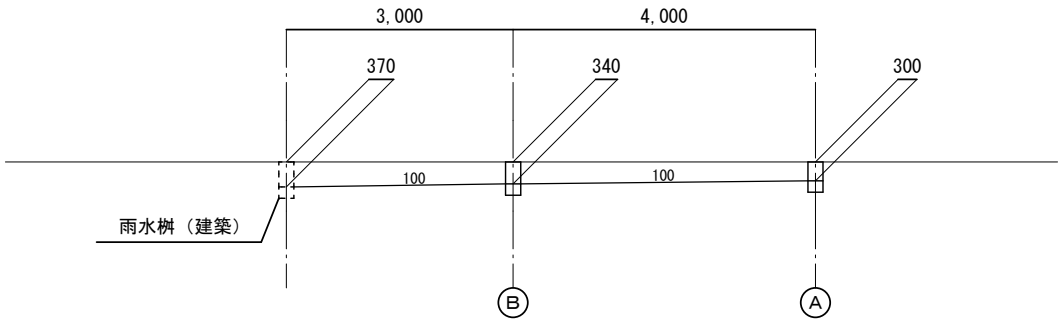
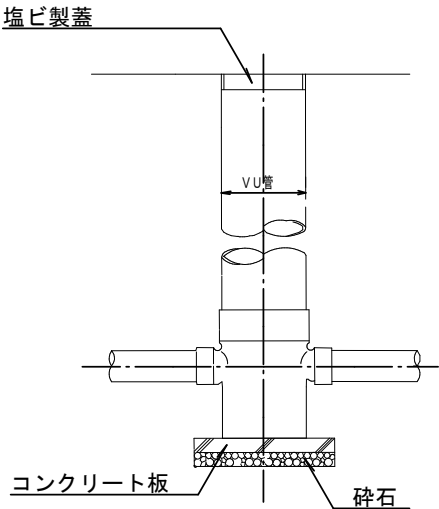
器 具 名	標 準 記 号 ・ そ の 他	仕 様		合 計
洋 風 腰 掛 式 簡 易 水 洗 便 器		LIXIL	TW-3A CW-EA22 TF-1890EF	1
簡 易 水 洗 便 槽		LIXIL	BT-600R (FRP製) マンホール (300φ) (ロック機能付)	1
			(自在ソケット) (横引管) (自在エルボ 臭突ファン)	
紙 巻 器	棚 付 二 連 紙 巻 器	LIXIL	CF-AA64S	1
樹 脂 カ ー テ ン パ ン		マエザワ	SP-550 (550×500×17)	1
キ ー 付 ホ ー ム 水 栓		LIXIL	LF-7RG-13	1
水 栓 柱		マエザワ	HI-16 (900H)	1
自 在 水 栓		LIXIL	LF-14-13 (立形自在水栓)	1
流 し 台	建 築 工 事	(排水金物付とする)		(1)
手 洗 器		LIXIL	L-A74HC	1

特記事項
耐震措置は「建築設備耐震設計・施工指針」とする。
給水及び排水は水道局及び下水道担当課の仕様に準じて施工を行う。指導による変更工事は本工事にて行う。
給水の建物導入部の変位吸収措置を全箇所施工する。
埋設配管（給水管）には埋設表示杭及び埋設表示テープを設置する。
各バルブには系統表示を設置する。

凡 例					
記 号	名 称	摘 要	仕 様		
-----	給水管	耐衝撃性硬質塩化ビニル管	屋内一般	H I V P	J I S K 6 7 4 2
		耐衝撃性硬質塩化ビニル管	屋内埋設部	H I V P	J I S K 6 7 4 2
		耐衝撃性硬質塩化ビニル管	屋外地中埋設	H I V P	J I S K 6 7 4 2
—————	排水管	硬質ポリ塩化ビニル管	屋内埋設部	V P	J I S K 6 7 4 1
		硬質ポリ塩化ビニル管	屋外埋設部	V P	J I S K 6 7 4 1
		硬質ポリ塩化ビニル管	排便管	V U	J I S K 6 7 4 1
— — — — —	臭突管	硬質ポリ塩化ビニル管	屋外露出部	カラ－V P	J I S K 6 7 4 1
⊕	埋設表示ピン				

排 水 枳 仕 様

記号	枳名称	枳口径	流入管底	枳仕様
A	小口径雨水枳	200φ	GL-300	90L 100-200 塩ビ製蓋
B	小口径雨水枳	200φ	GL-340	90Y 100-200 塩ビ製蓋



小口径排水枳詳細図

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡 田 建 築 設 計 事 務 所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	J O B N O .	D A T E 2024. 01.	SCALE —	T I T L E 須波分団屯所建設工事	NO. M 04	図面縮小率
			CH.	CH.	DR.	N A M E 器具表・凡例・枳リスト・勾配図		A-3 : 100%
								A-4 : 71%

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. M 05	図面縮小率	
			CH.	CH.	2025.01.		DR.		NAME	A-3 : 100%
										A-4 : 71%

換 気 機 器 表

記 号	名 称	接続ダクト 羽径	仕 様		電気容量			設置場所	台数	備 考
			風量 (m3/h)	静圧 (Pa)	相	V	W			
FE-1	壁付換気扇	250φ	(排) 900		1	100	25.0	車庫	1	電気式シャッター付き
										付属品：ウェザ-カバー (SUS) P25CVS5 (防虫網付)
										参考品番： EX-25EH9
FE-2	パイプファン	100φ	(排) 60	10	1	100	2.0	便所	1	付属品：パイプスリーブ
										深形フード (SUS) P-13VSQ4 (防虫網付)
										参考品番： V-08PX8
FE-3	壁付換気扇 24時間換気	250φ	(排) 900		1	100	25.0	待機室	1	電気式シャッター付き
										付属品：ウェザ-カバー (SUS) P25CVS5 (防虫網付)
										参考品番： EX-25EH9

特記事項
換気用機器の1次側電源工事は、電気工事とする。
換気用のスイッチ (取付・ボックス共)・配管・配線は電気工事とする。
換気用スイッチが電気工事の場合、設置機器に使用可能なことを確認しておくこと。
ウェザーカバーと外壁面との隙間から雨水が侵入しないよう防水対策を十分に行うこと。

シックハウス対策換気計算

階	室名	床面積 [㎡]	天井高 [m]	気積 [m ³]	必要 換気回数 [回／h]	必要 換気量 [m ³ ／h]	設計 換気量 [m ³ ／h]	換気回数 [回／h]	排気機器	台数	換気方式	備考
1階	待機室	46.50	2.50	116.25	0.30	34.88	900	7.75	FE-3 (24)	1台	3種	

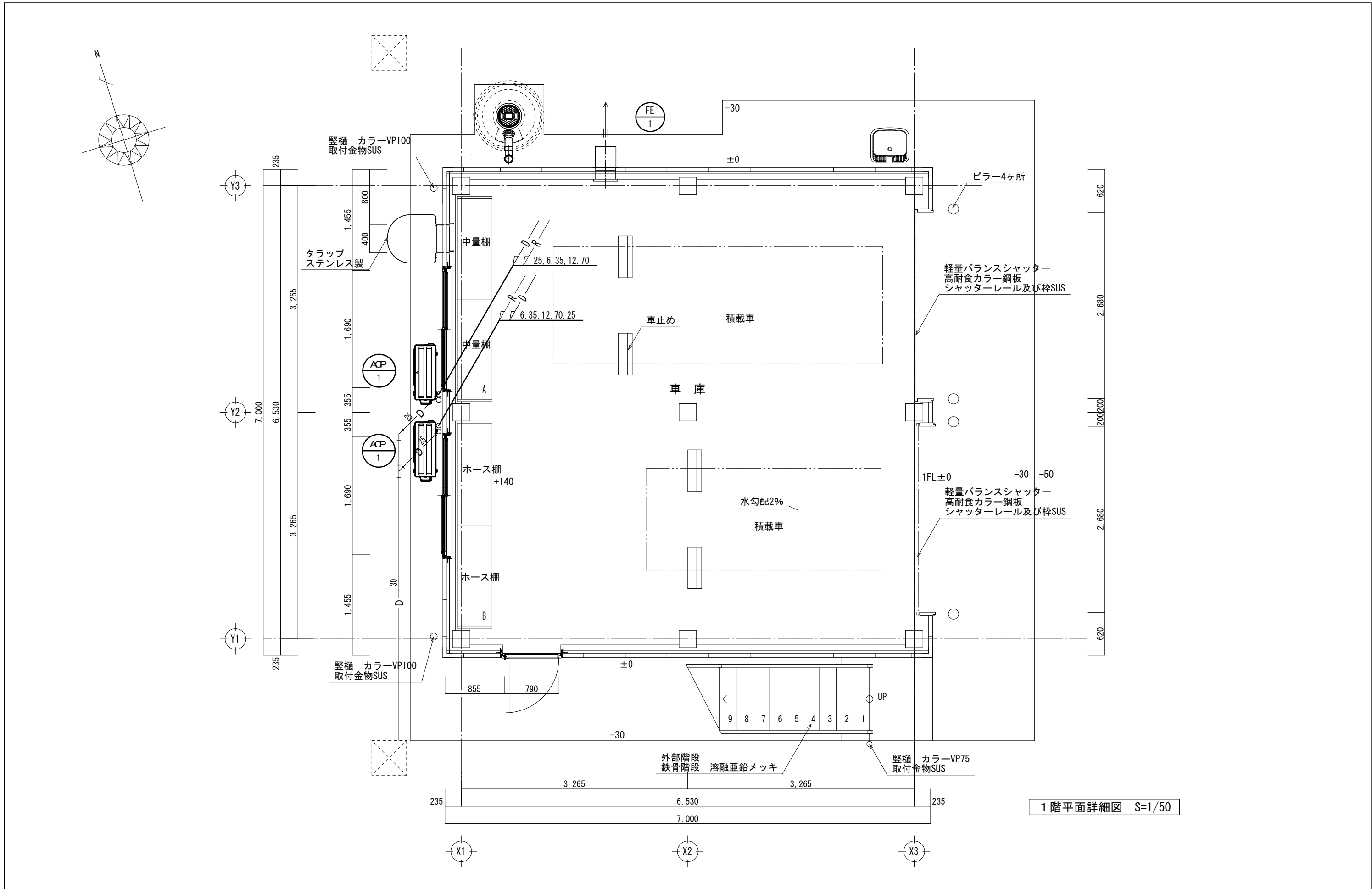
換気計算

階	室名	床面積 [㎡]	天井高 [m]	気積 [m ³]	換気回数 [回／h]	必要 換気量 [m ³ ／h]	設計 換気量 [m ³ ／h]	換気回数 [回／h]	排気機器	台数	換気方式	備考
1階	便所	1.94	2.40	4.65	10.0	46.5	60	12.90	FE-2	1台	3種	
	車庫	33.124	3.00	99.372	5.0	496.86	900	9.01	FE-1	1台	3種	

機器表

記号	名 称	仕 様	電気容量	数 量	設置場所	参考品番
ACP-1	空冷ヒートポンプ パッケージエアコン	型 式：床置形 冷房能力： 4.5kW (2.1～5.0) 暖房能力： 5.0kW (2.3～5.6) 付 属 品：ワイヤレスリモコン 樹脂製架台 転倒防止金物	1φ 200V 圧縮機 0.92kw 送風機 (内)30W (外)90W	2	待機室	SZRA50BYNV

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡 田 建 築 設 計 事 務 所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.		DATE	SCALE	TITLE	NO. M 07	図面縮小率	
	11/21建物位置移動		CH.	CH.	2025.01.		1/50		須波分団屯所建設工事	A-3 : 100%
										DR.



特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録22 (1) 0497号 岡田 建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB NO.	DATE 2025. 01.	SCALE 1/50	TITLE	NO. M 08	図面縮小率
						須波分団屯所建設工事		
						NAME		
						空調・換気設備 1階平面詳細図		

設 計 書

工 事 名 称 須波分団屯所建設工事

工 事 場 所 三原市須波一丁目

[工 事 概 要]

用途、構造、面積	消防屯所、鉄骨造、102.16㎡	
工 事 範 囲	新築工事一式、電気設備工事一式、機械設備工事一式	
別 途 発 注 工 事	なし	
工 期	契約締結日の翌日 ～ 令和7年11月25日	
一 般 事 項		
《 工事予算内訳 》	合 計 金 額	
〈内 訳〉		
区 分	金 額	概 要
設 計 金 額		
消 費 税 額		
合 計 金 額		

工事費内訳

名 称	数 量	单 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

工事種別内訳

[illegible]

建築工事 種目別内訳

[illegible]

電気設備工事 種目別内訳

名 称		数 量	单 位	金 額	備 考
須波分団屯所電気設備工事		1	式		
計					

機械設備工事 種目別内訳

[illegible]

建築工事 科目別内訳

須波分団屯所									
名	称	数	量	単	位	金	額	備	考
直接仮設		1		式					
土工		1		式					
地業		1		式					
鉄筋		1		式					
コンクリート		1		式					
型枠		1		式					
鉄骨		1		式					
既製コンクリート		1		式					
防水		1		式					
金属		1		式					
左官		1		式					
建具		1		式					
塗装		1		式					
内外装		1		式					
ユニット及びその他		1		式					

建築工事 科目別内訳

須波分團屯所

[illegible]

建築工事 科目別内訳

須波分団屯所外構工事

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
ホース乾燥柱	1	式		
カーポート	1	式		
アスファルト舗装工	1	式		
白線	1	式		
車止め	1	式		
フェンス工	1	式		
掲示板	1	式		
コンクリート蓋	1	式		
集水枳	1	式		
縁石工	1	式		
樹木伐採	1	式		
計				

電気設備工事 科目別内訳

須波分団屯所電気設備工事

[illegible]

機械設備工事 科目別内訳

須波分団屯所機械設備工事

[illegible]

建築工事 中科目別内訳

須波分団屯所					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
鉄骨	本体鉄骨	1	式		
計					
既製コンクリート	外部	1	式		

建築工事 中科目別内訳

須波分団屯所					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
計					
防水	外部	1	式		
計					
金属	外部	1	式		
金属	内部	1	式		
計					
左官		1	式		
計					
建具	アルミ製建具	1	式		
建具	シャッター	1	式		
建具	木製建具	1	式		
建具	ガラス	1	式		
計					
塗装		1	式		
計					

建築工事 中科目別内訳

須波分団屯所

[illegible]

建築工事 中科目別内訳

須波分団屯所外構工事

科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
ホース乾燥柱		1	式		
計					
カーポート		1	式		
計					
アスファルト舗装工		1	式		
計					
白線		1	式		
計					
車止め		1	式		
計					
フェンス工		1	式		
計					
掲示板		1	式		
計					
コンクリート蓋		1	式		

建築工事 中科目別内訳

須波分団屯所外構工事

[illegible]

電気設備工事 中科目別内訳

須波分団屯所電気設備工事

[illegible]

機械設備工事 中科目別内訳

須波分団屯所機械設備工事					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
空気調和設備	機器設備	1	式		
空気調和設備	配管設備	1	式		
空気調和設備	総合調整	1	式		
計					
換気設備	機器設備	1	式		
計					
衛生器具設備	衛生器具設備	1	式		
計					
給水設備	給水設備	1	式		
計					
排水設備	排水設備	1	式		
計					

建築工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		鉄骨		本体鉄骨		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(鋼材)						
角形鋼管	250×250×9 (BCR295)	4.36	t			
角形鋼管	100×100×2.3 (STKR400)	0.01	t			
角形鋼管	100×50×3.2 (STKR400)	0.08	t			
角形鋼管	50×50×3.2 (STKR400)	0.07	t			
角形鋼管	75×45×2.3 (STKR400)	0.03	t			
H形鋼	300×150×6.5×9 (SS400)	2.94	t			
H形鋼	250×125×5×8 (SS400)	2.74	t			
H形鋼	248×124×5×8 (SS400)	0.35	t			
H形鋼	100×100×6×8 (SS400)	0.11	t			
等辺山形鋼	90×90×9 (SS400)	0.02	t			
等辺山形鋼	75×75×6 (SS400)	0.01	t			
等辺山形鋼	40×40×5 (SS400)	0.03	t			
軽量溝形鋼	300×50×4.5×4.5 (SSC400)	0.19	t			
リップ溝形鋼	100×50×20×2.3 (SSC400)	0.07	t			

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		鉄骨		本体鉄骨		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
炭素鋼管	φ34.0×2.3 (STK400)	0.02	t			
炭素鋼管	φ48.6×2.3 (STK400)	0.03	t			
丸鋼	φ13 (SS400)	0.11	t			
デッキプレート	QL99-50-1.2	1.31	t			
縞鋼板	CHPL 6	0.27	t			
平鋼	FB6×50 (SS400)	0.01	t			
鋼板	PL32 (N490B)	0.38	t			
鋼板	PL16 (N490B)	0.01	t			
鋼板	PL16 (SS400)	0.29	t			
鋼板	PL12 (SS400)	0.25	t			
鋼板	PL9 (SS400)	0.32	t			
鋼板	PL6 (SS400)	0.22	t			
鋼板	PL4.5 (SS400)	0.06	t			
スクラップ		▲0.47	t			
(ボルト類)						

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		鉄骨		本体鉄骨		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アンカーボルト	M22 L440	72	個			
アンカーボルト	M12 L300	4	個			
H・T・B	F8T M20 L65	416	組			
H・T・B	F8T M20 L50	108	組			
H・T・B	F8T M16 L55	624	組			
H・T・B	F8T M16 L50	225	組			
H・T・B	F8T M16 L45	8	組			
中ボルト	M12 L35 ナット・座金共	33	組			
(施工費)						
鉄骨加工組立		13.7	t			
運搬費		13.7	t			
現場建て方費		13.7	t			
工場錆止め費		380	m ²			
工場溶接費	隅肉長6mm換算	133	m			
アンカーボルト埋め込費		75	本			

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		既製コンクリート		外部		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
外壁フラットパネル	t=60 47張	174	m ²			
コーナーパネル	295×295 t=60	27.8	m			
通しアングル	L50×50×6	55	m			
通しアングル	L65×65×6	62	m			
開口アングル	L50×50×6	24	m			
開口アングル	L65×65×6	27	m			
開口アングル	L75×75×9	48	m			
アングルピース	L50×50×6 L=100	94	か所			
二次防水仕様		171	m ²			
目地シーリング		171	m			
発電機費		1	式			
荷揚重機費		1	式			
荷降し費		1	式			
ロックール充填費		1	式			
機械器具損料		1	式			

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		内外装				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(外部)						
床エポキシ系防塵 塗装	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 防滑仕上	35	m ²			
天井 ポリスチレンフォーム板	厚さ50 打込み	41.2	m ²			
(内部)						
床エポキシ系防塵 塗装	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 防滑仕上	47.3	m ²			
ビニル床シート	無 地 厚さ2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法 -	42.4	m ²			
床合板張り	構造用合板 厚15.0	45	m ²			
襖フォーム	厚65 洋室用	45	m ²			
ビニル幅木	高さ60	34.4	m			
壁 せっこうボード 張り(GB-R) 壁ビニルクロス貼り	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け - -	80.6	m ²			
壁 化粧ケイカル板張り	厚5.0	28.6	m ²			
壁 グラスウール	24K 厚65	72.9	m ²			
天井 グラスウール	24K 厚100	45.6	m ²			
天井 化粧 せっこうボード 張り(GB-D)	厚 9.5 準不燃 トリバーチン 突付け	45.6	m ²			

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所		ユニット及びその他				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
底	アルミ製 7000×1000	1	か所			
タラップ	L4980	1	か所			
ビラ	スチール製ロングビラ H1500 Φ165.2	4	か所			
シャッター文字記入	200角（三原市消防団沼田西分団屯所）	12	文字			
シャッター文字記入	（駐車禁止）	4	文字			
ライニング天板		2.8	m			
流し水切り	L1800	1	か所			
クーラー用スリーブ	Φ75	1	か所			
ヘルメット・防火衣掛	12人用	1	か所			
下足入		1	か所			
柱廻り Mハ-19		8	m			
車止め		4	か所			
キーボックス		1	か所			
消火器		2	か所			
鋼製棚 A	中量棚 W2955×H2105×500	1	台			

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所外構工事 ホース乾燥柱						
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
根切り	小規模土工 -	6.3	m3			
積み込み		1.3	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	5	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 土砂 DID区間有り 60.0km以下	1.3	m3			
発生土処分		1.3	m3			
砂利地業	再生切込碎石	0.1	m3			
砂地業		0.1	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	1.5	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 -	1.5	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	5	m ²			
円形型枠	ポット	1.8	m ²			
型枠運搬費	4t車 30km程度 往復	6.8	m ²			
床コンクリート直均し 仕上げ	金ごて 直均し仕上げ	1.4	m ²			
ホース乾燥柱	H12.0m 転倒防止措置含む	1	基			
計						

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所外構工事		カーポート				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
根切り	小規模土工 -	6.6	m3			
積み込み		3.3	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	4.9	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 土砂 DID区間有り 60.0km以下	1.7	m3			
発生土処分		1.7	m3			
砂利地業	再生切込碎石	0.3	m3			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	0.07	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 -	0.07	t			
鉄筋運搬費	4 t 車 30km程度	0.07	t			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20	0.2	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	1.6	m3			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート 人力打設 - S15～S18 -	0.2	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 -	1.6	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	6.2	m ²			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	6.2	m ²			

建築工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible][illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible][illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所外構工事 フェンス工						
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(フェンス)						
フェンス	H1500	23.9	m			
(土止め)						
根切り	小規模土工 -	11.5	m3			
床付け	つぼ,布掘り	7.2	m ²			
積み込み		2.2	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	9.3	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 土砂 DID区間有り 60.0km以下	2.2	m3			
発生土処分		2.2	m3			
砂利地業	再生切込碎石	0.7	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	1.4	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 -	1.4	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	14.3	m ²			
型枠	打放合板型枠B種 壁式構造 基礎部 -	9.6	m ²			
打放し面補修	B 種 コーン処理無 部分目違いばらい	9.6	m ²			

[illegible][illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所外構工事		揭示板				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
根切り	小規模土工 -	2.6	m3			
積み込み		0.2	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	2.4	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 土砂 DID区間有り 60.0km以下	0.2	m3			
発生土処分		0.2	m3			
砂利地業	再生切込碎石	0.1	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	0.1	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 -	0.1	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	1.7	m ²			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	1.7	m ²			
揭示板		1	基			
計						

[illegible][illegible]

建築工事 細目別内訳

須波分団屯所外構工事		集水桧				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
根切り	小規模土工 -	0.8	m3			
積み込み		0.3	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	0.5	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 土砂 DID区間有り 60.0km以下	0.3	m3			
発生土処分		0.3	m3			
砂利地業	再生切込碎石	0.1	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	0.3	m3			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15～S18 -	0.3	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	3.3	m ²			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	3.3	m ²			
桧蓋	550×550×60 T-25 ガラガラ細目 亜鉛メッキ	1	個			
計						

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

電気設備工事 細目別内訳

[illegible]

電気設備工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible][illegible]

機械設備工事 細目別内訳

[illegible]

機械設備工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible][illegible]

機械設備工事 細目別内訳

[illegible]

機械設備工事 細目別内訳

須波分団屯所機械設備工事		給水設備		給水設備		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
給水・塩ビライニング鋼管 (SGP-VB)	ねじ接合 屋内一般 20A	5	m			
給水・耐衝撃性ホリ塩ビ管 (HIVP)	地中配管 20A	25	m			
万能ホーム水栓	LF-7RG-13	1	個			
自在水栓	LF-12F-13	1	個			
水栓柱	合成樹脂製 13A	1	個			
埋設標識7°	150幅	25	m			
埋設表示柱	鉄製	6	個			
保温工事		1	式			
給水本管接続工事		1	式			
土工事		1	式			
計						

機械設備工事 細目別内訳

[illegible]

共通仮設費(積上) 明細

[illegible]

現場管理費(積上) 明細

[illegible]